

## XIII 鳥類

### 1 概要

豊田市は愛知県のほぼ中央に位置し、木曾山脈から続く三河高原と三河湾まで広がる三河平野の接点にある内陸都市である。面積は918.32km<sup>2</sup>で、愛知県全体の17.8%を占める広大な面積（愛知県内1位）を持つ。主な土地利用の割合は、農地が7%、宅地が7%、森林が68%である。2005年合併前の面積は290.11km<sup>2</sup>で、土地利用はそれぞれ16%、16%、35%であった。広域合併により、約630km<sup>2</sup>の広大な森林を持つ緑豊かな都市となった。しかし、スギ・ヒノキの人工林面積が約300km<sup>2</sup>で、森林面積の49%に上る。更にこのスギ・ヒノキ林の約200km<sup>2</sup>が過密状態であり、緊急に間伐が必要とされている。これらの森林は鳥類にとっても棲みやすい環境とは言えない。

北・東部は三河高原を形成する山間部で、三国山、天狗棚、寧比曾岳、筈ヶ岳、六所山、炮烙山、猿投山等の山々が連なる。矢作川が市域の中心部を貫流し、支流に名倉川、阿摺川、犬伏川、飯野川、籠川、巴川等がある。西部には逢妻男川、逢妻女川が流れる。西部は市街地や工場群が並び、西南部の上郷・高岡地区は水田や果樹園が広がる。標高最低地は駒新町の3.2m、最高地は稲武町の1,240mであり、標高差は約1,200mになる。このため、気温や降水量が場所によって異なり、様々な自然が見られる。北・東部の山間部は愛知高原国定公園に含まれる。稲武地区の面ノ木原生林は天竜奥三河国定公園の一角にあり、県下で2か所しかない貴重な原生林である。また、旧市域の標高最高地は炮烙山の683.5mであるのに対して、足助・稲武地区には1,000mを超える山々がある。そのような山地には、旧市域では見られない鳥類が生息する。この山地、河川、溪谷、丘陵等の自然景観の変化に富んだ多様な環境には、多くの鳥類が生息する。「豊田市自然環境基礎調査報告書」（豊田市自然環境基礎調査会、2005）によると、豊田市で確認された鳥類は17目51科212種である。但し、この報告は2005年の合併前の調査結果であり、旧市域の確認種である。旧市域とは、挙母地区・高橋地区・上郷地区・高岡地区・猿投地区・保見地区・石野地区・松平地区を言い、後述する新市域は藤岡地区・小原地区・足助地区・下山地区・旭地区・稲武地区を言う。前述の分類は「日本鳥類目録改訂第6版」（日本鳥類学会、2000）による。

今回の豊田市生物調査では主として新市域の鳥類調査を行った。2008年4月～2014年3月の6年間の現地調査で17目49科141種を記録した。旧市域は自然環境基礎調査結果の17目48科163種に、2014年4月～2015年3月の1年間の調査結果を加えて167種記録した。全市域では17目50科183種となった。分類は「日本鳥類目録改訂7版」（日本鳥学会、2012）による。この現地調査結果と聞き取り調査、及び文献調査から確認種を見直し、豊田市で確認された鳥類（豊田市鳥類目録）は1968年から現在までで19目56科230種となった。愛知県で確認された鳥類は、愛知県鳥類目録（愛知県鳥類目録検討委員会、未発表）によると、24目74科413種であり、豊田市の確認鳥類は目で79%、科で77%、種で56%にあたる。一見少ないようだが、海に面していない本市では山地の鳥が主体であり、それを考え合わせれば決して少ない数字ではない。

今回の現地生息調査結果に基づき「豊田市鳥類希少種」を選定し、一種ごとに確認場所を生息分布図に示した。尚、本「豊田市生物調査報告書」の旧市域のデータは、「豊田市自然環境基礎調査報告書」のデータを使用した。また2014年4月～2015年3月の1年間現状調査を行い補足した。この資料が、今後の環境基本計画や環境配慮指針の基礎資料として役立てば幸いである。

## 2 調査方法

### (1) 生息調査

#### ア 調査員による現地調査

調査員に調査地区を割り付け、調査員が担当区域内に調査地を任意に設定し調査した。

#### (ア) 調査地区

調査地区区分は豊田市地区区分に従った。



図 XIII-1 豊田市地区区分

#### (イ) 調査期間

##### a 旧市域調査

調査期間は2001年4月～2004年3月の3年間調査した。

本生物調査では、その後の状況確認を目的に補足調査として、2014年4月～2015年3月の1年間調査した。

##### b 新市域調査

調査期間は2008年4月～2013年3月の5年間、及び2013年4月～2014年3月の1年間の補足調査と合わせて6年間行った。

表 XIII-1 現地調査地区と調査期間

市域	地区	主な調査地	調査期間
旧市域	㊦拳母地区	水源公園，河合池，鉛池，割目池，逢妻女川流域，田町周辺の水田	2001/4 ～2004/3
	㊧高橋地区	鞍ヶ池公園，自然観察の森，トヨタの森，巴川・矢作川合流地点	
	㊨上郷地区	畝部町・榊塚町・上郷町の水田，柳川瀬公園	
	㊩高岡地区	西田町・岡町の水田，ため池（立塚池等），逢妻男川・女川流域	2014/4 ～2015/3
	㊪猿投地区	猿投山，前田公園，花本町の水田，勘八峡，井上町運動公園周辺	
	㊫保見地区	広幡町猿投山麓，伊保川・籠川合流点，椀貸池，大清水町・保見町の山林	
	㊬石野地区	勘八峡，国附町矢作川，山中町恩真寺周辺，千鳥町千鳥寺周辺	
㊭松平地区	六所山，王滝溪谷，松平郷，九久平町巴川，滝脇町日影ダム，根引林道	2008/4 ～2014/3	
新市域	㊮藤岡地区		昭和の森，旧めぐみの森，御作・西中山の田畑，上・下川口矢作川
	㊯小原地区		大ヶ蔵連，小原田代町の林道，矢作川河畔，百月ダム，和紙のふるさと
	㊰足助地区		香嵐溪，金沢段戸国有林，阿摺ダム，伊勢神高原，川面町足助川
	㊱下山地区		六所山・焙烙山，和合，蕪木，羽布林道，三河高原牧場，三河湖
	㊲旭地区	旭高原元気村，城山森林公園，矢作ダム周辺，池島・笹戸・小渡矢作川	
	㊳稲武地区	面ノ木，三国山，押山ダム，黒田貯水池，富永調整池，タカドヤ高原湿地	

## イ 調査方法

ラインセンサス，ポイントセンサス，巡回調査を併用した。

### (ア) ラインセンサス

野鳥の生息条件のいい場所を選び，1km 程度の調査コースを設定し，ゆっくり歩きながらコースの周辺で見聞きした野鳥を記録していく。

### (イ) ポイントセンサス

調査定点を設定して，一定時間そこに留まり，その地点から見聞きした野鳥を記録した。

### (ウ) 巡回調査

不特定の場所を徒歩または自動車移動し，そこで見聞きした野鳥を記録した。担当調査区域以外で確認した場合も記録した。

## (2) 聞き取り調査及び文献調査

豊田野鳥友の会会員と西三河野鳥の会会員等の観察記録を聞き取り調査し，併せて文献調査を行い，豊田市で確認されたすべての鳥類を記録した。

### ア 確認種調査

2001年4月～2015年3月において，現地調査で確認されなかった鳥類を記録した。

### イ 鳥類目録

2015年3月までに豊田市で記録されたすべての鳥類の目録を作成した（資料編に掲載）。

### 3 調査結果

#### (1) 現地調査

現地調査結果の概要を表 XIII-2 に示す。また、表 XIII-5, 6 に確認種を地区別にまとめて示した。旧市域の地区別確認鳥類リストは、「豊田市自然環境基礎調査報告書」（豊田市自然環境基礎調査会，2005）のデータを引用した。このデータには調査員による確認記録に加えて，調査協力者等の記録も含んでいる。尚，この基礎調査からかなりの年月が経過しているため，2014年4月から2015年3月の1年間現状調査を行い補足した。

豊田市全市域で17目50科183種の鳥類を確認した。この確認種は豊田市で記録された鳥類の19目56科230種（後述）に対して，種のレベルで約80%にあたる。

地区別に見ると旧市域の各地区で81種～121種，旧市域全域では167種を確認した。新市域の各地区で102種～118種，新市域全域では141種を確認した。

旧市域と新市域の種数の差異は，水辺の鳥類の種数によるところが大きい。足助地区及び稲武地区等の山地帯では，旧市域では観察できなかったコガラ，キバシリ，ゴジュウカラ，コルリ等が確認でき，新市域の調査で新たに確認された種数は16種であった。

次項3（3）で地区ごとの自然環境と調査結果の概要について記述する。

表 XIII-2 現地調査確認種

市域	旧市域			新市域	全市域
	2001/4 ～2004/3	2014/4 ～2015/3	合計	2008/4 ～2014/3	合計
目	17	16	17	17	17
科	47	42	47	46	50
種	163	123	167	141	183
【旧市域合計】					
旧市域の調査（2014/4～2015/3）で追加された種					
（4種）アメリカヒドリ，カンムリカイツブリ，ハジロカイツブリ，イスカ					
【全市域合計】					
新市域の調査で追加された種					
（16種）ミズゴイ，ジュウイチ，ハリオアマツバメ，クマタカ，オオコノハズク，ブッポウソウ，オオアカゲラ，コガラ，ゴジュウカラ，キバシリ，マミジロ，マミチャジナイ，コルリ，サメビタキ，ハギマシコ，オオマシコ					

(2) 聞き取り調査及び文献調査

ア 現地調査以外の確認種

旧市域の現地調査開始年 2001 年 4 月から調査最終年 2015 年 3 月までの間に、現地調査では確認できなかった種の記録を調査した。調査結果を表 XIII-3 に示す。

表 XIII-3 現地調査以外の記録種及び合計 期間：2001/4～2015/3

市域	旧市域		新市域		全市域	
	現地調査以外の記録種	現地調査確認種との合計	現地調査以外の記録種	現地調査確認種との合計	現地調査以外の記録種	現地調査確認種との合計
目	12	18	3	17	9	18
科	20	52	5	47	14	53
種	36	203	7	148	25	208
<p>【旧市域】(36 種) ウズラ, コハクチョウ, スズガモ, ホオジロガモ, アカエリカイツブリ, ミゾゴイ*, アカガシラサギ, ジュウイチ*, コアオアシシギ, オジロトウネン, アメリカウズラシギ, キリアイ, エリマキシギ, ミツユビカモメ, ウミネコ, カモメ, ハジロクロハラアジサシ, クロトウゾクカモメ, オオコノハズク*, ヤツガシラ, プッポウソウ*, オオアカゲラ*, コチョウゲンボウ, ヤイロチョウ, ミヤマガラス, コガラ*, オオムシクイ, イイジマムシクイ, ゴジュウカラ*, マミジロ*, マミチャジナイ*, ノゴマ, コルリ*, ムギマキ, オオマシコ*, コイカル *新市域には記録有り。</p>						
<p>【新市域】(7 種) オオジシギ**, アカエリヒレアシシギ**, ウミネコ**, ハイイロチュウヒ**, イヌワシ, キレンジャク**, ホオアカ** **旧市域には記録有り。</p>						

(ア) 旧豊田市の確認種

豊田野鳥友の会会員, 西三河野鳥の会会員等が確認した種数は 36 種であった。

2001 年 4 月以降の確認種は現地調査の確認種と合わせて 203 種となった。

(イ) 新市域の確認種

豊田野鳥友の会会員, 西三河野鳥の会会員等が確認した種数は 7 種であった。

2001 年 4 月以降の確認種は現地調査の確認種と合わせて 148 種となった。

(ウ) 豊田市全域の確認種

(ア) と (イ) の確認種を合わせると 208 種になった。この確認種は豊田市で記録された鳥類の 19 目 56 科 230 種 (後述) に対して、種のレベルで約 90%にあたる。

イ 豊田市鳥類目録

文献調査及び豊田野鳥友の会会員, 西三河野鳥の会会員等の確認記録種を精査し, 18 種を新たな確認種とした (表 XIII-4)。

豊田市自然環境基礎調査報告書 (豊田市自然環境基礎調査会, 2005) で報告した旧市域の豊田市鳥類目録 19 目 56 科 212 種に, 18 種を追加して豊田市の確認種は 19 目 56 科 230 種となった。

(注) 愛知県, 市町村史, 市町村調査, 西三河鳥類目録 (西三河野鳥の会, 2014) 等の記録種のうち, 観察年月日, 観察場所が未記載の種については検討種とし, 現地調査以外の確認種及び豊

田市鳥類目録への追加を見送った。

表 XIII-4 豊田市鳥類目録

市域	旧市域	全市域	豊田市自然環境基礎調査報告書掲載の 鳥類目録（旧市域）に追加した種（18種）
期間	1968/1～2004/3	1968/1～2015/3	
目	19	19	
科	56	56	
種	212	230	

アメリカヒドリ，ホオジロガモ，ウミアイサ，アカエリカイツブリ，ハジロカイツブリ，アカガシラサギ，コアオアシシギ，アメリカウズラシギ，キリアイ，ミツユビカモメ，セグロカモメ，ハジロクロハラアジサシ，ヤイロチョウ，ミヤマガラス，オオムシクイ，エゾセンニュウ，イワヒバリ，アカマシコ

表 XIII-5(1) 豊田市旧市域地区別確認鳥類リスト

旧市域：2001/4～2004/3, 2014/4～2015/3 新市域：2008/4～2014/3

目名	科名	種名	渡り 区分	県 RDB 2009	新市域 生息 状況	旧市域 生息 状況	旧市域							
							拳母 地区	高橋 地区	上郷 地区	高岡 地区	猿投 地区	保見 地区	石野 地区	松平 地区
キジ	キジ	ヤマドリ	R		△	☆		○			○	○	○	
		キジ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
カモ	カモ	マガン	W			☆					○			
		オシドリ	W		○	○	○	○			○	○	○	
		オカヨシガモ	W			△	○	○			○			
		ヨシガモ	W			☆	○	○				○		
		ヒドリガモ	W		☆	○	○	○			○	○		
		アメリカカヒドリ	W			☆	○	○						
		マガモ	W		△	○	○	○	○	○	○	○	○	
		カルガモ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		ハシビロガモ	W		☆	☆	○	○			○	○		
		オナガガモ	W		☆	△	○	○	○	○	○	○		
		シマアジ	P			☆	☆	○	○					
		トモエガモ	W	VU		☆	○	○			○			
		コガモ	W		△	○	○	○	○	○	○	○	○	
		ホシハジロ	W		☆	☆	○	○			○	○		
		キンクロハジロ	W		☆	☆	○	○			○	○		
ミコアイサ	W		☆	☆	○	○			○	○				
カワアイサ	W	VU	☆	☆			○		○					
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	R		○	△	○	○	○	○	○	○	○	
		カンムリカイツブリ	W		☆	☆	○							
		ハジロカイツブリ	W			☆	○							
ハト	ハト	キジバト	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		アオバト	R		△	☆					○	○	○	
カウツドリ	ウ	カワウ	R		○	○	○	○	○	○	○	○		
ペリカン	サギ	ヨシゴイ	S	EN		☆	○							
		ミゾゴイ	S	EN	☆									
		ゴイサギ	R		☆	△	○	○	○	○	○	○	○	
		ササゴイ	S		☆	△	○	○			○	○	○	
		アマサギ	S		☆	△	○	○	○	○	○	○	○	
		アオサギ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		ダイサギ	R		△	○	○	○	○	○	○	○	○	
		チュウサギ	S		☆	△	○	○	○	○	○	○	○	
コサギ	R		☆	△	○	○	○	○	○	○	○			
ツル	クイナ	クイナ	W	NT		☆	○							
		ヒクイナ	S	VU	☆	☆	○				○			
		バン	R		☆	△	○	○	○	○	○	○		
		オオバン	W		☆	☆	○	○	○	○	○	○		
カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	S	VU	☆									
		ホトトギス	S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		ツツドリ	S	NT	○	△	○	○	○		○	○	○	
		カッコウ	P		☆	☆	○				○	○	○	
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	S	VU	△	☆	○	○		○	○	○		
アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	P		☆									
		アマツバメ	P		☆	☆	○	○		○	○	○	○	
		ヒメアマツバメ	R		☆	☆	○		○				○	
チドリ	チドリ	タゲリ	W			△	○	○	○	○	○			
		ケリ	R		☆	○	○	○	○	○	○	○		
		ムナグロ	P			△				○	○			
		イカルチドリ	R	VU	☆	△	○	○	○	○	○	○	○	
		コチドリ	S		☆	△	○	○	○	○	○	○		
		シロチドリ	R	NT		☆	☆			○				
	メダイチドリ	P			☆				○					
	セイタカシギ	セイタカシギ	P	VU		☆			○					
	チドリ	シギ	ヤマシギ	W	NT	☆	☆			○				○
			アオシギ	W	NT	☆	☆							○
			オオジシギ	P	CR		☆	☆				○		
			チュウジシギ	P			☆	☆				○		
			タンシギ	W		☆	△	○	○	○	○	○	○	
			オグロシギ	P	VU		☆				○			
			チュウシャクシギ	P			☆				○			
ホウロクシギ			P	VU		☆					○			
ツルシギ			P	VU		☆				○				
アオアシシギ			P			☆				○	○			
クサシギ	W		☆	△	○	○	○	○	○	○				
タカブシギ	P	VU		☆				○	○					
キアシシギ	P		☆	△	○	○	○							

表 XIII-5(2) 豊田市旧市域地区別確認鳥類リスト

目名	科名	種名	渡り 区分	県 RDB 2009	新市域 生息 状況	旧市域 生息 状況	旧市域								
							挙母 地区	高橋 地区	上郷 地区	高岡 地区	猿投 地区	保見 地区	石野 地区	松平 地区	
チドリ	シギ	ソリハシシギ	P			☆			○						
		イソシギ	R		☆	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		キョウジョシギ	P			☆			○	○					
		トウネン	P			☆			○	○					
		ヒバリシギ	P			☆			○						
		ウズラシギ	P	VU		☆			○	○					
	ハマシギ	W			☆				○	○					
アカエリヒレアシギ	P			☆				○							
タマシギ	タマシギ	S	VU		△	○		○	○	○					
ツバメチドリ	ツバメチドリ	P	CR		☆			○							
カモメ	ユリカモメ	W			△	○	○		○						
	コアジサシ	S	NT		△	○	○	○		○					
タカ	ミサゴ	ミサゴ	W	NT	△	△	○	○	○					○	
	タカ	ハチクマ	S	VU	○	△		○			○	○	○	○	
		トビ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		チュウヒ	W	EN		☆			○						
		ハイイロチュウヒ	W	NT		☆			○						
		ツミ	R	NT	☆	△				○			○	○	
		ハイタカ	R		△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	
		オオタカ	R	NT	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	
		サシバ	S	VU	△	☆	○	○			○	○	○	○	
ノスリ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
クマタカ	R	EN	☆												
フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	W	NT	☆										
		コノハズク	P	CR		☆				○					
		フクロウ	R	NT	△	△		○			○				
ブッポウソウ	カワセミ	アオバズク	S	NT	☆	△	○	○					○		
		アカショウビン	S	VU	☆	☆		○				○	○		
		カワセミ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
ブッポウソウ	ブッポウソウ	R	EN	△	☆	○	○			○	○	○			
キツツキ	キツツキ	ブッポウソウ	S	CR	☆										
		アリスイ	W		☆	☆	○				○		○		
		コゲラ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		オオアカゲラ	R	EN	☆										
		アカゲラ	R		○	△	○	○			○	○	○		
アオゲラ	R		○	○	○	○			○	○	○				
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	W		☆	△	○	○	○	○	○	○	○		
		ハヤブサ	W	EN	☆	☆	○	○	○	○	○	○	○		
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	S	NT	○	○	○	○	○		○	○	○		
		カササギヒタキ	S	NT	△	○			○	○		○	○		
		モズ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	カラス	カケス	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ハシボソガラス	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ハシブトガラス	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	キクイタダキ	キクイタダキ	W		☆	△			○			○			
		コガラ	W		☆										
	シジュウカラ	ヤマガラ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ヒガラ	R		○	△	○	○			○		○		
		シジュウカラ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	ヒバリ	ヒバリ	R		☆	○	○	○	○	○	○	○			
	ツバメ	ショウドウツバメ	P			☆	○	○	○						
		ツバメ	S		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		コシアカツバメ	S		☆	△	○	○	○	○	○	○			
		イワツバメ	S		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	R		○	○	○	○	○	○	○	○			
	ウグイス	ウグイス	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		ヤブサメ	S		○	△	○	○	○	○	○	○	○		
	エナガ	エナガ	R		○	○	○	○	○	○	○	○			
	ムシクイ	メボソムシクイ	P		☆	☆	○				○		○		
		エゾムシクイ	P		☆	☆			○			○	○		
		センダイムシクイ	S		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	メジロ	メジロ	R		○	○	○	○	○	○	○	○			
	ヨシキリ	オオヨシキリ	S		☆	△	○	○	○	○	○	○			
	セッカ	セッカ	R		☆	○	○	○	○	○	○	○			
	レンジャク	キレンジャク	W			☆					○		○		
ヒレンジャク		W		☆	△	○	○					○			
ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	W		☆											
キバシリ	キバシリ	R	CR	☆											

表 XIII-5(3) 豊田市旧市域地区別確認鳥類リスト

目名	科名	種名	渡り 区分	県 RDB 2009	新市域 生息 状況	旧市域 生息 状況	旧市域									
							挙母 地区	高橋 地区	上郷 地区	高岡 地区	猿投 地区	保見 地区	石野 地区	松平 地区		
スズメ	ミソサザイ	ミソサザイ	W	NT	○	△		○				○	○	○	○	
	ムクドリ	ムクドリ	R		☆	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		コムクドリ	P			△	○	○	○							
	カワガラス	カワガラス	R	VU	○	△		○				○		○	○	
	ヒタキ	マミジロ	マミジロ	P	EN	☆										
		トラツグミ	トラツグミ	W		△	△	○	○	○		○		○	○	○
		クロツグミ	クロツグミ	S	NT	○	△	○	○			○		○	○	○
		マミチャジナイ	マミチャジナイ	P		☆										
		シロハラ	シロハラ	W		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		アカハラ	アカハラ	W	VU	☆	△	○	○	○		○				○
		ツグミ	ツグミ	W		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		コマドリ	コマドリ	P	VU	☆	☆									○
		コルリ	コルリ	S	NT	☆										
		ルリビタキ	ルリビタキ	W		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ジョウビタキ	ジョウビタキ	W		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ノビタキ	ノビタキ	P		△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		イソヒヨドリ	イソヒヨドリ	R		☆	☆	○	○			○				○
		エゾビタキ	エゾビタキ	P		☆	☆	○								○
		サメビタキ	サメビタキ	P		☆										
		コサメビタキ	コサメビタキ	S	NT	△	☆	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	キビタキ	キビタキ	S		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	オオルリ	オオルリ	S		○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	
	イワヒバリ	カヤクグリ	W		△	☆		○						○	○	
	スズメ	ニューナイスズメ	ニューナイスズメ	W		☆	△	○		○	○					
		スズメ	スズメ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	セキレイ	キセキレイ	キセキレイ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ハクセキレイ	ハクセキレイ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		セグロセキレイ	セグロセキレイ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ビンズイ	ビンズイ	W		△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		タヒバリ	タヒバリ	W		☆	☆	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アトリ	アトリ	アトリ	W		△	△	○	○			○	○	○	○	○
		カワラヒワ	カワラヒワ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		マヒワ	マヒワ	W		△	△	○	○			○	○	○	○	
		ハギマシコ	ハギマシコ	W		☆										
		ベニマシコ	ベニマシコ	W		○	△	○	○			○	○	○	○	
		オオマシコ	オオマシコ	W		☆										
		イスカ	イスカ	W		☆	☆								○	
		ウソ	ウソ	W		○	△	○	○	○		○		○	○	
	シメ	シメ	W		☆	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	イカル	イカル	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ホオジロ	ホオジロ	ホオジロ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ホオアカ	ホオアカ	W	VU		☆			○	○					
		カシラダカ	カシラダカ	W		○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	
		ミヤマホオジロ	ミヤマホオジロ	W		☆	☆	○	○			○			○	
		ノジコ	ノジコ	P	VU		☆								○	
		アオジ	アオジ	W		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	クロジ	クロジ	W		△	△		○		○	○	○	○	○		
オオジュリン	オオジュリン	W			☆	○		○		○						
確認種類数					141	167	121	118	105	97	117	81	100	100		

(外来種)

キジ	キジ	コジュケイ	-		○	○	○	○			○	○		○
スズメ	チメドリ	ガビチョウ	-	特定外来種	☆									
		ソウシチョウ	-	特定外来種	○	△	○	○			○	○		○

表 XIII-5(4) 豊田市旧市域地区別確認鳥類リスト

先の調査外 (2001/4~2015/3) で見つかった種名 ○は先の表にも有り, ●,★は新規の確認

目名	科名	種名	渡り 区分	県 RDB 2009	新市域 生息 状況	旧市域 生息 状況	旧市域							
							挙母 地区	高橋 地区	上郷 地区	高岡 地区	猿投 地区	保見 地区	石野 地区	松平 地区
キジ	キジ	ウズラ	W	VU		★		●						
カモ	カモ	マガン	W			☆			●	○				
		コハクチョウ	W			★		●						
		アメリカヒドリ	W			☆	○	●			●			
		シマアジ	P			☆	●	○						
		スズガモ	W			★	●	●			●			
		ホオジロガモ	W			★	●					●		
		カワアイサ	W	VU	☆	☆	●	●	●		○			●
カイツブリ	カイツブリ	アカエリカイツブリ	W	EN		★	●							
ベリカン	サギ	ヨシゴイ	S	EN		☆	○		●					
		ミゾゴイ	S	EN	☆	★		●		●			●	
		アカガシラサギ	W			★		●						
ツル	クイナ	クイナ	W	NT		△	○		●		●			
		ヒクイナ	S	VU	☆	☆	○			○				
		バン	R		☆	△	○	○	○	○	○	○	●	
カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	S	VU	☆	★				●				
チドリ	シギ	セイタカシギ	P	VU		☆			○	●				
		ヤマシギ	W	NT	☆	☆		○				○	●	
		オオジシギ	P	CR		☆			●	○				
		ツルシギ	P	VU		☆			○	●				
		コアオアシシギ	P			★			●					
		オジロトウネン	P	NT		★			●					
		アメリカウズラシギ	P			★			●					
		キリアイ	P	VU		★			●					
		エリマキシギ	P	NT		★			●	●				
	アカエリヒレアシシギ	P		☆	☆			●	○					
	タマシギ	タマシギ	S	VU		△	○	●	○	○	○			
	カモメ	ミツユビカモメ	W			★			●					
		ウミネコ	P		☆	★	●							
カモメ		P			★	●								
ハジロクロハラアジサシ		P			★				●					
トウゾクカモメ	クロトウゾクカモメ	P			★			●						
タカ	タカ	ミサゴ	W	NT	△	△	○	○	○	●			○	
		チュウヒ	W	EN		☆			○					
		ハイロチュウヒ	W	NT	☆	☆			○					
		ツミ	R	NT	☆	△			●	○	○	○	○	
フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	W	NT	☆	★		●						
		フクロウ	R	NT	△	△		○			○		●	
		アオバズク	S	NT	☆	△	○	○	○			●	○	
サイチョウ	ヤツガシラ	ヤツガシラ	P			★		●				●		
ブッポウソウ	ブッポウソウ	ブッポウソウ	S	CR	☆	★			●		●			
キツツキ	キツツキ	アリスイ	W		☆	☆	○	●			○		○	
		オオアカゲラ	R	EN	☆	★							●	
ハヤブサ	ハヤブサ	コチョウゲンボウ	W			★			●					
		ハヤブサ	W	EN	☆	☆	○	●	○	○	○			
スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	P	CR		★		●					●	
		カラス	P			★				●				
		シジュウカラ	W		☆	★							●	
	ムシクイ	オオムシクイ	S			★	●							
		イイジママムシクイ	P			★		●						
	レンジャク	キレンジャク	W		☆	☆					○		○	
		ヒレンジャク	W		☆	△	○	○	●		●	●	○	
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	W		☆	★		●				●		
	ヒタキ	マミジロ	P	EN	☆	★								●
		マミチャジナイ	P		☆	★		●						
		ノゴマ	P			★			●					
		コルリ	S	NT	☆	★		●						
		イソヒヨドリ	R		☆	☆	○	○	●		○		○	
		ムギマキ	P			★							●	
	アトリ	オオマシコ	W		☆	★							●	
コイカル		W			★	●								
ホオジロ	ホオアカ	W	VU	☆	☆	●		○	○					
	オオジュリン	W			☆	○	●			○				
確認種類数 (含む先の表, 除く外来種)					(148)	203	131	137	124	102	123	82	108	110

表 XIII-6(1) 豊田市新市域地区別確認鳥類リスト

新市域：2008/4～2014/3 旧市域：2001/4～2004/3, 2014/4～2015/3

目名	科名	種名	渡り 区分	県 RDB 2009	旧市域 生息 状況	新市域 生息 状況	新市域					
							藤岡 地区	小原 地区	足助 地区	下山 地区	旭 地区	稲武 地区
キジ	キジ	ヤマドリ	R		☆	△	☆	△	△	△	△	○
		キジ	R		○	○	○	○	△	○	○	○
カモ	カモ	マガン	W		☆							
		オシドリ	W		○	○	△	○	△	△	○	○
		オカヨシガモ	W		△							
		ヨシガモ	W		☆							
		ヒドリガモ	W		○	☆	△					☆
		アメリカヒドリ	W		☆							
		マガモ	W		○	△	○	△	☆	☆	○	△
		カルガモ	R		○	○	○	○	○	○	○	○
		ハシビロガモ	W		☆	☆	☆					
		オナガガモ	W		△	☆						☆
		シマアジ	P		☆							
		トモエガモ	W	VU	☆			☆				
		コガモ	W		○	△	△	△	☆	☆	△	☆
		ホシハジロ	W		☆	☆			☆			
		キンクロハジロ	W		☆	☆	△	☆	☆		☆	☆
ミコアイサ	W		☆	☆	☆							
カワアイサ	W	VU	☆	☆	△	△	☆	☆	△			
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	R		△	○	○	△	△	○	☆	
		カンムリカイツブリ	W		☆	☆			☆			
		ハジロカイツブリ	W		☆							
ハト	ハト	キジバト	R		○	○	○	○	○	○	○	
		アオバト	R		☆	△	△	△	○	○	☆	△
カツオドリ	ウ	カワウ	R		○	○	○	○	○	○	○	
ペリカン	サギ	ヨシゴイ	S	EN	☆							
		ミゾゴイ	S	EN		☆				☆		
		ゴイサギ	R		△	☆	☆	☆	☆	☆		
		ササゴイ	S		△	☆	☆	☆	☆	☆		
		アマサギ	S		△	☆	☆				☆	
		アオサギ	R		○	○	○	○	○	○	○	
		ダイサギ	R		○	△	○	△	○		△	☆
		チュウサギ	S		△	☆	△	☆	☆	☆		
コサギ	R		△	☆					☆			
ツル	クイナ	クイナ	W	NT	△							
		ヒクイナ	S	VU	☆	☆			☆			
		バン	R		△	☆	☆			☆		
		オオバン	W		☆	☆	☆			☆	☆	
カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	S	VU		☆		☆		☆	☆	
		ホトトギス	S		○	○	○	○	○	○	○	
		ツツドリ	S	NT	△	○	○	○	△	△	△	○
		カッコウ	P		☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	S	VU	☆	△	○	△	△	△	☆	
アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	P			☆	☆	☆	☆	☆	☆	
		アマツバメ	P		☆	☆	☆	△	☆	☆	☆	
		ヒメアマツバメ	R		☆	☆	☆	△	☆			
チドリ	チドリ	タゲリ	W		△							
		ケリ	R		○	☆	○					
		ムナグロ	P		△							
		イカルチドリ	R	VU	△	☆	△	☆	△	☆	☆	
		コチドリ	S		△	☆	○	☆	☆	△	☆	
		シロチドリ	R	NT	☆							
	メダイチドリ	P		☆								
	シギ	シギ	セイタカシギ	P	VU	☆						
			ヤマシギ	W	NT	☆	☆			☆	☆	☆
			アオシギ	W	NT	☆	☆				△	☆
			オオジシギ	P	CR	☆						
			チュウジシギ	P		☆						
			タシギ	W		△	☆	☆				
オグロシギ			P	VU	☆							
チュウシャクシギ	P		☆									
ハウロクシギ	P	VU	☆									

表 XIII-6(2) 豊田市新市域地区別確認鳥類リスト

目名	科名	種名	渡り 区分	県 RDB 2009	旧市域 生息 状況	新市域 生息 状況	新市域					
							藤岡 地区	小原 地区	足助 地区	下山 地区	旭 地区	稲武 地区
チドリ	シギ	ツルシギ	P	VU	☆							
		アオアシシギ	P		☆					☆		
		クサシギ	W		△	☆	△		☆	☆	☆	☆
		タカブシギ	P	VU	☆							
		キアシシギ	P		△	☆			☆	☆		
		ソリハシシギ	P		☆							
		イソシギ	R		△	☆	△	☆	☆	☆	△	☆
		キョウジョシギ	P		☆							
		トウネン	P		☆							
		ヒバリシギ	P		☆							
		ウズラシギ	P	VU	☆							
	ハマシギ	W		☆								
	アカエリヒレアシシギ	P		☆								
タマシギ	タマシギ	S	VU	△								
ツバメチドリ	ツバメチドリ	P	CR	☆								
カモメ	ユリカモメ	W		△								
	コアジサシ	S	NT	△								
タカ	ミサゴ	ミサゴ	W	NT	△	△	△	☆	△	△	☆	
	タカ	ハチクマ	S	VU	△	○	○	○	○	○	☆	○
		トビ	R		○	○	○	○	○	○	○	○
		チュウヒ	W	EN	☆							
		ハイロチュウヒ	W	NT	☆							
		ツミ	R	NT	△	☆	△	△	☆	☆	☆	☆
		ハイタカ	R		△	△	△	△	△	○	△	○
		オオタカ	R	NT	△	△	○	△	☆	△	△	△
		サシバ	S	VU	☆	△	○	○	○	○	△	☆
		ノスリ	R		○	○	○	○	○	○	○	○
クマタカ		R	EN		☆		☆	☆	☆	△	△	
フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	W	NT		☆	☆					
		コノハズク	P	CR	☆							
		フクロウ	R	NT	△	△	○		△	△	△	☆
		アオバズク	S	NT	△	☆		☆	☆	☆	☆	☆
ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	S	VU	☆	☆	☆	☆	☆	☆		
		カワセミ	R		○	○	○	○	△	○	○	
		ヤマセミ	R	EN	☆	△	○	△	△	☆	○	△
ブッポウソウ	ブッポウソウ	S	CR		☆	△	☆					
キツツキ	キツツキ	アリスイ	W		☆	☆		☆				
		コゲラ	R		○	○	○	○	○	○	○	
		オオアカゲラ	R	EN		☆				☆	☆	△
		アカゲラ	R		△	○	△	△	☆	△	○	○
		アオゲラ	R		○	○	○	○	○	○	○	○
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	W		△	☆	☆	☆				
		ハヤブサ	W	EN	☆	☆		☆		☆	☆	
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	S	NT	○	○	○	○	○	○	○	
		カササギヒタキ	サンコウチョウ	S	NT	○	△	△	○	○	△	☆
		モズ	モズ	R		○	○	○	○	○	○	○
	カラス	カケス	R		○	○	○	○	○	○	○	○
		ハシボソガラス	R		○	○	○	○	○	○	○	○
		ハシブトガラス	R		○	○	○	○	○	○	○	○
	クイタダキ	クイタダキ	W		△	☆	☆	△		☆	△	△
	シジュウカラ	コガラ	R			☆			☆	☆		○
		ヤマガラ	R		○	○	○	○	○	○	○	○
		ヒガラ	R		△	○	△	○	○	○	○	○
		シジュウカラ	R		○	○	○	○	○	○	○	○
	ヒバリ	ヒバリ	R		○	☆	☆			☆		☆
	ツバメ	ショウドウツバメ	P		☆							
		ツバメ	S		○	○	○	○	○	○	○	○
		コシアカツバメ	S		△	☆	○	○		☆	☆	
		イワツバメ	S		○	○	○	○	△	○	○	○
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	R		○	○	○	○	○	○	○	○
	ウグイス	ウグイス	R		○	○	○	○	○	○	○	○
		ヤブサメ	S		△	○	○	○	○	○	○	○
	エナガ	エナガ	R		○	○	○	○	○	○	○	○
ムシクイ	メボソムシクイ	P		☆	☆			☆		☆	☆	
	エゾムシクイ	P		☆	☆	☆	△	☆	☆	△		
	センダイムシクイ	S		○	○	○	○	○	○	○	○	

表 XIII-6(3) 豊田市新市域地区別確認鳥類リスト

目名	科名	種名	渡り 区分	県 RDB 2009	旧市域 生息 状況	新市域 生息 状況	新市域						
							藤岡 地区	小原 地区	足助 地区	下山 地区	旭 地区	稲武 地区	
スズメ	メジロ	メジロ	R		○	○	○	○	○	○	○		
	ヨシキリ	オオヨシキリ	S		△	☆	△	☆		☆			
	セッカ	セッカ	R		○	☆	△						
	レンジャク	キレンジャク	W		☆								
		ヒレンジャク	W		△	☆	☆			☆	☆	☆	
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	R			☆				○		☆	
	キバシリ	キバシリ	R	CR			☆					☆	
	ミソサザイ	ミソサザイ	R	NT	△	○	△	○	○	○	○	○	
	ムクドリ	ムクドリ	R			○	☆	○				☆	☆
		コムクドリ	P			△							
	カワガラス	カワガラス	R	VU	△	○	○	○	○	○	○	○	
	ヒタキ	マミジロ	P	EN			☆				☆		☆
		トラツグミ	W		△	△	△	△	△	△	☆	☆	☆
		クロツグミ	S	NT	△	○	☆	○	△	○	△	△	△
		マミチャジナイ	P				☆	☆		☆	☆		☆
		シロハラ	W			○	○	○	○	○	○	○	○
		アカハラ	W	VU	△	☆	☆		☆	☆			☆
		ツグミ	W			○	○	○	○	○	○	○	○
		コマドリ	P	VU	☆	☆					☆	☆	☆
		コルリ	S	NT			☆			☆		☆	△
		ルリビタキ	W			○	○	○	○	○	○	○	○
		ジョウビタキ	W			○	○	○	○	○	○	○	○
		ノビタキ	P			△	△	○	△	☆	△	△	△
		イソヒヨドリ	R			☆	☆	☆	☆	☆	☆		☆
		エゾビタキ	P			☆	☆	△			☆	☆	☆
		サメビタキ	P				☆		☆	☆	☆		
	コサメビタキ	S	NT	☆	△	○	☆	☆	☆	△	△	△	
	キビタキ	S			○	○	○	○	○	○	○	○	
	オオルリ	S			○	○	○	○	○	○	○	○	
	イワヒバリ	カヤクグリ	W		☆	△	☆	△	☆	☆	☆	△	
	スズメ	ニュウナイスズメ	W		△	☆				☆			
		スズメ	R		○	○	○	○	○	○	○	△	
	セキレイ	キセキレイ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	
		ハクセキレイ	R		○	○	○	△	△	△	○	△	
		セグロセキレイ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	
		ビンズイ	W		△	△	☆	△	△	△	○	△	
		タヒバリ	W		☆	☆	☆			☆		☆	
	アトリ	アトリ	W		△	△	△	△	○	○	△	○	
		カワラヒワ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	
		マヒワ	W		△	△	△	△	☆	△	△	○	
		ハギマシコ	W			☆						☆	
		ベニマシコ	W		△	○	○	○	○	○	△	○	
		オオマシコ	W			☆		△		☆	☆	☆	
		イスカ	W		☆	☆		△		☆		△	
		ウソ	W		△	○	○	○	○	○	△	○	
		シメ	W		○	☆	○	☆	☆	☆	△	☆	
	イカル	R		○	○	○	○	○	○	○	○		
	ホオジロ	ホオジロ	R		○	○	○	○	○	○	○	○	
		ホオアカ	W	VU	☆								
		カシラダカ	W		△	○	○	○	○	○	○	○	
ミヤマホオジロ		W		☆	☆	☆	☆	☆	☆		☆		
ノジコ		P	VU	☆									
アオジ		W		○	○	○	○	○	○	○	○		
クロジ		W		△	△	☆	☆	○	△	△	△		
オオジュリン	W		☆										
確認種類数					167	141	113	102	102	118	103	110	

(外来種)

キジ	キジ	コジュケイ	-		○	○	○	○	○	△	○	△
スズメ	チメドリ	ガビチョウ	-	特定外来種		☆			☆			☆
		ソウシチョウ	-	特定外来種	△	○	○	△	○	☆	○	○

表 XIII-6(4) 豊田市新市域地区別確認鳥類リスト

先の調査以外(2001/4~2015/3)で見つかった種名 ☆は先の表にも有り, ★は新規の確認

目名	科名	種名	渡り区分	県RDB 2009	旧市域生息状況	新市域生息状況	新市域					
							藤岡地区	小原地区	足助地区	下山地区	旭地区	稲武地区
ペリカン	サギ	ミゾゴイ	S	EN	★	☆	★		★	☆		
ツル	クイナ	ヒクイナ	S	VU	☆	☆	★			☆		
カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	S	VU	★	☆		☆	★		☆	☆
チドリ	シギ	ヤマシギ	W	NT	☆	☆	★			☆	☆	☆
		オオジシギ	P	CR	☆	★						★
		アカエリヒレアシシギ	P		☆	★			★			
	カモメ	ウミネコ	P		★	★				★	★	
タカ	タカ	ハイイロチュウヒ	W	NT	☆	★				★		
		イヌワシ	P			★			★			
ブッポウソウ	ブッポウソウ	ブッポウソウ	S	CR	★	☆	△		☆	★		
キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ	R	EN	★	☆			★	☆	☆	△
		シジュウカラ	R		★	☆			☆	☆		○
スズメ	レンジャク	キレンジャク	W		☆	★			★	★		
		ゴジュウカラ	R		★	☆				○		☆
	キバシリ	キバシリ	R	CR		☆			★			☆
		マミジロ	P	EN	★	☆				☆		☆
		マミチャジナイ	P		★	☆	☆		☆	☆		☆
		コマドリ	P	VU	☆	☆			★	☆	☆	☆
	アトリ	コルリ	S	NT	★	☆			☆	☆	☆	△
		イソヒヨドリ	R		☆	☆		☆	☆	☆	★	
		オオマシコ	W		★	☆		△	★	☆	☆	☆
	ホオジロ	イスカ	W		★	☆		△	★	☆	★	△
ホオアカ		W	VU	☆	★					★	★	
ミヤマホオジロ		W		☆	☆	☆	★	☆	☆		☆	
確認種類数(含む先の表, 除く外来種)					(202)	148	116	103	112	123	106	112

記号の解説

【渡り区分】

- R: 留鳥(渡りをせず, 1年中留まる鳥)
- S: 夏鳥(春, 南方から渡ってきて繁殖し, 秋に南方に渡り越冬する鳥)
- W: 冬鳥(北方で繁殖し, 冬期は越冬のため渡ってきて冬を過ごす鳥)
- P: 旅鳥(北方で繁殖し, 南方で越冬. 春秋の渡り途中に立ち寄る鳥)

【県RDB2009】: レッドデータブックあいち2009 評価区分基準

- CR: 絶滅危惧IA類(ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの)
- EN: 絶滅危惧IB類(IA類ほどではないが, 近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
- VU: 絶滅危惧II類(絶滅の危険が増大している種. 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合, 近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの)
- NT: 準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種. 現時点での絶滅危惧度は小さいが, 生息条件の変化によっては, 「絶滅危惧」として上位のランクに移行する要素を有するもの)

【旧市域および新市域の生息状況】記号は以下の基準にて付与

- ・新市域
  - 地域確認メッシュ数/地域調査総メッシュ数×100
  - ☆★= 極少ない鳥(5%未満)
  - △▲= 少ない鳥(5%以上~10%未満)
  - = 普通にみられる鳥(10%以上)
- ・旧市域
  - 調査方法が異なりデータがないため経験に基づき付与
  - 地区別表示はデータがないため、「○」で表した

確認種類数について

( ) 内に合計のみ記載.

調査以外確認種について

- ・旧市域調査以外の確認種は, 旧市域で生息確認がされた種について, 新市域の生息状況を記載する.
- ・新市域調査以外の確認種は, 新市域で生息確認がされた種について, 旧市域の生息状況を記載する.

### (3) 地区別に見た環境と鳥相

#### ア 挙母地区

市の中心で市街地や住宅地が大半を占めながら、多くの種類が確認された。その大きな理由は、東部は矢作川が高橋地区との境をなし、南の水源町の明治用水頭首工で堰きとめられた水面には冬期にはたくさんの種類のカモがやってくる。頭首工のすぐ下流ではサギ類、セキレイ類やイソシギ等が見られる。また、カワアイサがときどき飛来する。水源公園から秋葉緑地にかけての林には、アオゲラ等の大型のキツツキが生息する。最も南の河合町の河合池は幹線道路に近いが、冬期はカモがたくさん渡来する。サギ類やカワウ等も多い。また小規模ながらアシ原があり、クイナ、ヒクイナの越冬が確認されている。しかし、現状は河合池親水事業工事が始まっており、2018年完成の予定である。鳥類と人間が共生できる池となることを望む。西部はみよし市との境界をなしているが、北の大池町、白山町、太平町には貴重な山林と、たくさんのため池や湿地が残っている。孫目池には、希少種のトモエガモやオシドリが越冬したことがある。高崎町、千足町、西新町、田代町には大きな水田が広がり、ケリやサギ類がたくさん見られる。タマシギも見られることもある。市街地では、昆虫公園、児ノ口公園、挙母神社の緑が貴重な存在である。児ノ口公園は元々有った公園を近自然工法で川・池を造り、木を植え自然が蘇って、街中のオアシスとなっている。古木の樹洞でアオバズクが数年続けてヒナを育てた。挙母神社も歴史を感じさせる大木が残っている。神社の林にササゴイが営巣し、巣の数は20個にもなった。しかし、神社では糞害に困り対策したため、現在は営巣していない。数年前に東の挙母こども園と八幡公園で営巣を確認した。国道153号線の南側の本新町にある割目池には、冬期にはたくさんのカモが渡来、市街地にあって貴重な水鳥の生息地となっている。1993年には、オオハクチョウが長期間滞在した。アシ原ではオオジュリンが越冬する。また、すぐ南にある本地新池にもアシ原があり、2003年と2004年には希少種のヨシゴイが観察された。2005年豊田市駅西の高層ビルの最上階部分に、ヒメアマツバメの営巣が確認され、現在も姿を確認している。

表 XIII-7 挙母地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数	17目 40科 121種
2001/4～2004/3	16目 39科 113種
2014/4～2015/3	14目 33科 81種
上記の確認種以外の種数	4目 6科 10種
2001/4～2015/3	
計	17目 40科 131種



写真 XIII-1 水源公園

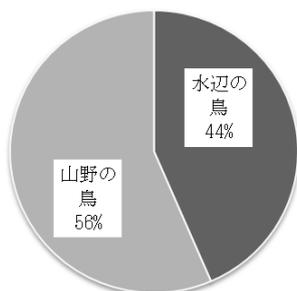


図 XIII-2 生息環境別種数構成比



写真 XIII-2 ササゴイ

## イ 高橋地区

高橋地区の特に中央部は豊田市と合併後の昭和 30 年の後半から住宅開発が進み、びっしりと住宅が立ち並ぶベッドタウンとなっている。東部の鞍ヶ池公園に続く緑地帯の中に豊田市自然観察の森がある。当施設は 1990 年に開設された。2010 年には新しいネイチャーセンターが完成し、「サシバのすめる森づくり」を保全の目標としている。

当地区で最も多くの野鳥が確認されているところが、鞍ヶ池公園、自然観察の森である。鞍ヶ池公園の池には冬期には多くのカモが訪れ、トモエガモが観察されたこともある。また、オシドリが越冬する。一年を通して、カイツブリやカワセミが見られる。東側の林の散策道では冬季にツグミ類、ミヤマホオジロ等が観察できる。自然観察の森は観察路も整備されている。森の中では一年を通じてヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、コゲラ等が見られ、初夏にはキビタキ、オオルリ等夏鳥がさえずる。冬季にはアオジ、クロジ、シロハラ、ジョウビタキ等が見られる。珍しいオオマシコが見られたこともある。上池には冬季はマガモ、カルガモが多いが、オシドリが来たこともある。カワセミ、カイツブリが通年見られる。東部の古瀬間町から矢並町にかけては、比較的山林が残っており、野鳥が多く生息している。新緑の頃にはキビタキやウグイスの囀りが聞かれる。扶桑町から千石町にかけての矢作川河川敷は運動公園等に整備されており、開けた環境にツグミ類、シメ、ベニマシコ等冬鳥が多く見られる。扶桑町の古巣水辺公園から百々貯木場跡にはイカル、シメ、アオジ、ビンズイ等セキレイ類が観察できる。宮前町の矢作川では毎年オシドリが越冬する。当地区の最も南に位置する琴平町、渡合町も雑木林が残っていて、大変いい環境である。雑木林の一部をトヨタ自動車(株)が、里山管理のモデル林として、研究、管理する「トヨタの森」がある。ここも観察路を設けて、市民にも開放している。野鳥が多く、最近ミゾゴイやアカショウビンが観察された。また、巴川が矢作川に合流する所で、巴川ではサギ類が多く観察され、他にヤマセミやオシドリ等も観察されている。

表 XIII-8 高橋地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数	17 目 44 科 118 種
2001/4～2004/3	17 目 44 科 114 種
2014/4～2015/3	15 目 36 科 83 種
上記の確認種以外の種数	9 目 14 科 19 種
2001/4～2015/3	
計	18 目 48 科 137 種



写真 XIII-3 豊田市自然観察の森 上池

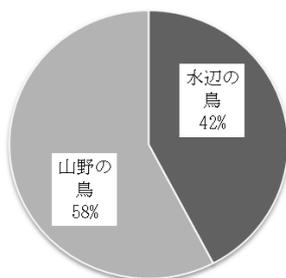


図 XIII-3 生息環境別種数構成比



写真 XIII-4 カワセミ

## ウ 上郷地区

上郷地区は豊田市南部の東側の地区で、東が矢作川で岡崎市との境をなし、西は高岡地区である。南が岡崎市と安城市に隣接し、北部は挙母地区に接し、高層アパートが立ち並ぶ住宅地である。地区全体が起伏の少ない平坦な地であり、特に南部は明治用水の恩恵を受けて、今も広大な水田が広がる。矢作川は河畔林があるが、野鳥観察のスポットが少ないため観察記録は少ない。

上郷地区の特徴は水田で観察されるシギやチドリの仲間が多いことである。多くは畝部東町と柘塚東町の広大な田んぼで、春秋の渡りの時季に見られる。渡りの時季は、春は4月下旬～5月上旬で、秋は8月下旬～9月上旬で、長くても1か月間くらいである。年によっては10日間くらいのこともある。シギ・チドリが多く見られるのは田植え前と稲刈り後に一時的に水を入れた田んぼである。他では、畝部西町、柘塚西町、上郷町、永覚町等でも記録されているが数は多くない。数で言えば、圧倒的に多いのはムナグロである。多いときは100羽を越えることもある。他には、メダイチドリ、セイタカシギ、チュウジシギ、チュウシャクシギ、ツルシギ、ソリハシシギ、オジロトウネン、エリマキシギ等が観察された。夏季にはコチドリ、冬季にはタゲリが観察される。シギ・チドリ類は4年間の現地調査で22種確認した。2001年からの記録では確認種は29種になった。また、柘塚東町に2004年5月、クロトウゾクカモメが飛来し話題となった。畝部東町では、2011年にコアジサシの群れに混じっているハジロクロハラアジサシが観察された。秋の渡りの時季にはノビタキが立ち寄って行く。また、冬季にはタヒバリが観察できる。留鳥のケリやサギ類も多いが、乾田化で餌場の減少が心配される。上郷地区にはため池と雑木林が無く、緑のある所は社寺林と公園くらいである。柳川瀬公園では、ヨシゴイ、オオバン、カワセミ、コゲラ、モズ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、シロハラ、ジョウビタキ、コサメビタキ、セキレイ類、カワラヒワ、イカル等が観察された。

当地区で記録された種は124種であるが、シギ・チドリ類を除けば、種類は多くない。野鳥の生息環境としては、多様性に欠けると言えよう。

表 XIII-9 上郷地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数	15目 39科 105種
2001/4～2004/3	15目 39科 101種
2014/4～2015/3	13目 31科 63種
上記の確認種以外の種数	8目 11科 19種
2001/4～2015/3	
計	15目 42科 124種



写真 XIII-5 畝部東町の水田

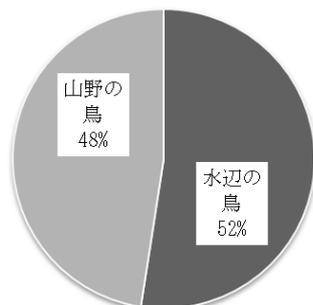


図 XIII-4 生息環境別種数構成比



写真 XIII-6 コチドリ

## エ 高岡地区

高岡地区は北部が拳母地区と境をなし、住宅が密集する。南部は知立市と隣接し、一部が安城市と隣接する。工場ではトヨタ自動車の堤工場と高岡工場があり、他にもトヨタ系のアイシン精機等大小の関連企業がある。特に、ほぼ中央を南北に走る国道 155 線沿いに工場が集中する。工場を除いた地域は全体が住宅地と農地で、平坦な南部は水田が多い。丘陵地には、茶畑や果樹園が多い。丘陵地ゆえに、ため池が点在していて、冬期はカモが渡来する。前林町の立塚池、堤本町の本地池、本田町の白沢池、大島町の大島笹池等である。立塚池には近年オカヨシガモが多く渡来する。大島笹池には 2003 年マガン 1 羽が渡来して、春先まで長期滞在した。また、冬季、カモと一緒にオオバンがよく見られるようになった。上郷地区に隣接する東部の西田町、住吉町、中町、竹元町、竹町等の水を入れた水田では春秋に、シギやチドリの仲間が観察される。数は上郷地区ほど多くない。他に、上丘町、広田町でも時々観察される。名鉄の三河線の竹村駅の西一帯の水田ではサギの群れをよく見る。最近ではコサギが減少し、アマサギ、アオサギ、ダイサギが多い。また、生駒町の水田でもアマサギの群れが毎年見られる。高岡地区には逢妻男川と逢妻女川の 2 本の川が南北に流れ、南の端の駒新町で合流する。逢妻女川は地域住民の浄化活動によって、水がきれいになってきた。逢妻男川も以前に比べればきれいになり、カルガモがあちこちで泳いでいる。本町の周辺ではカワセミの繁殖も確認された。また、所々に小規模な雑木林や竹藪が残っている。本町にある雑木林の林縁ではホオジロの群れが観察できた。農地や果樹園が多い堤本町、本田町、西岡町では、以前は冬期にニュウナイスズメが大群で越冬していたが、最近では数が少なくなった。北の御幸本町はトヨタ自動車の本社に接し、商店街と高層マンションが林立する。一方、南の駒場町は知立市に接し、田園地帯もある。野鳥の生息環境としては、川、池、田園、果樹園、茶畑等が主体で林がほとんど無く、山野の鳥が少ない。

表 XIII-10 高岡地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数	16 目 37 科 97 種
2001/4～2004/3	16 目 37 科 97 種
2014/4～2015/3	12 目 28 科 42 種
上記の確認種以外の種数	3 目 4 科 5 種
2001/4～2015/3	
計	16 目 38 科 102 種



写真 XIII-7 立塚池

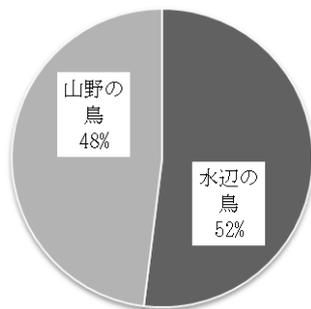


図 XIII-5 生息環境別種数構成比



写真 XIII-8 ケリ

## オ 猿投地区

猿投地区は北に猿投山と東の境をなす矢作川があり、野鳥の生息環境から見て良好な地域である。猿投山は標高 629m で、裾野が非常に大きい山である。頂上の少し下に、猿投神社の東の宮と西の宮がある。この一帯はモミやツガの原生林も残り、野鳥も多い。特に新緑の頃にはキビタキ、オオルリ、サンコウチョウ、クロツグミ等夏鳥の美しい囀りが響きわたる。他にも、ホトトギス、ウグイス、メジロ、シジュウカラ、イカル等もよく鳴いている。アカショウビンやセグロカッコウ等の希少種や迷鳥が記録されたこともある。猿投山を源流にして猿投川、広沢川、加納川の3本が流れ、籠川に合流する。合流した籠川は、舞木町あたりから川幅も広くなり、所々にアシ原があつて、夏にはオオヨシキリやセッカのにぎやかな鳴き声が聞かれる。更に、下流の四郷町や上原町、花本町の水田では湿田もあつて、タマシギが観察されたことがある。冬にはタゲリ、タシギ、クサシギ、タヒバリ等が見られる。一方、矢作川の存在は、野鳥にとっても大変に重要である。平戸橋から上流 2km のあたり一帯を勘八峡と呼んでいる。ここではカルガモ、カイツブリ、カワウ、アオサギ、カワセミ、セグロセキレイ等が一年中見られる。冬期にはキンクロハジロ、マガモ、コガモ、ヨシガモ等が渡来して、一層にぎやかになる。以前はヤマセミがよく見られたが、最近ではまれである。前田公園の周辺にはコナラを主体とした雑木林が残っていて、センダイムシクイ、キビタキ、コゲラ、メジロ等山野の鳥が多い。平戸橋公園では、冬季にベニマシコ、シメ、イカル、シロハラ、ルリビタキ、ジョウビタキ等が観察できる。越戸ダムでは、冬季にオンドリが見られる。上流部の西広瀬町ではヤマセミやカワガラスがときどき見られる。また、西広瀬町で矢作川と合流する犬伏川では、カワガラスやキセキレイ、セグロセキレイが間近で見られる。

表 XIII-11 猿投地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数	17 目 43 科 117 種
2001/4～2004/3	17 目 43 科 116 種
2014/4～2015/3	12 目 30 科 54 種
上記の確認種以外の種数	4 目 5 科 6 種
2001/4～2015/3	
計	17 目 44 科 123 種



写真 XIII-9 舞木町から見た猿投山

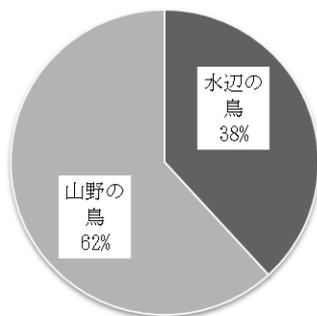


図 XIII-6 生息環境別種数構成比



写真 XIII-10 オオルリ

## カ 保見地区

保見地区は、西は日進市と長久手市と境をなし、北は瀬戸市、南がみよし市と挙母地区、東は猿投地区と境をなす。この地区は昭和 40 年代から多方面にわたって開発が進んだ。住宅公団のマンモス団地、保見団地の建設、交通アクセスとして、名鉄豊田新線と第三セクターの愛知環状鉄道の開通、三つのゴルフ場の建設、高校、大学の誘致等である。

自然環境から見れば、大変悪くなったと言える。特に、この地区では数少ない緑豊かな広い林がゴルフ場となり、寂しいものがある。以前と余り変わらず自然が保たれている所は、広幡町の集落北の猿投山麓に当たる所くらいである。現地調査で記録された野鳥の種類が 81 種と少なかったのは、生息環境が乏しいためと言わざるをえない。河川では猿投山を源流とする広見川があり、広幡町を通り大畑町で伊保川に合流する。川べりではキセキレイ、ホオジロの姿をよく見る。八草町は広幡町の西にあり、豊田市の西端の町である。すぐ北には愛知工大があり、その東方にある椀貸池はいい雰囲気を持ったため池である。椀貸池にはカルガモ、マガモのほか、2003 年度にはオシドリが観察された。2014 年 12 月に訪れたときには、リサイクルプラントが隣接されていた。2003 年度より環境は悪化したと思われるが、当時と同じカルガモ、マガモ、オシドリ等を観察することができた。八草町を源流とする伊保川は、保見地区を東西に横断し伊保町で籠川に合流する。合流地点の近くでは、かなり川幅も広くなり、河川敷やアシ原では野鳥の姿を多く見かける。サギ類やセキレイ類が多く、夏にはオオヨシキリの声が響く。伊保川下流部の保見町、貝津町、伊保町は川に沿って農地が広がり、保見地区では少ない田園風景が広がり、ムクドリ等が飛び交う。最南部の浄水町、大清水町は宅地開発が進み、雑木林は姿を消そうとしている。

表 XIII-12 保見地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数	15 目 35 科 81 種
2001/4～2004/3	15 目 35 科 80 種
2014/4～2015/3	12 目 32 科 54 種
上記の確認種以外の種数	1 目 1 科 1 種
2001/4～2015/3	
計	15 目 36 科 82 種



写真 XIII-11 伊保川下流部

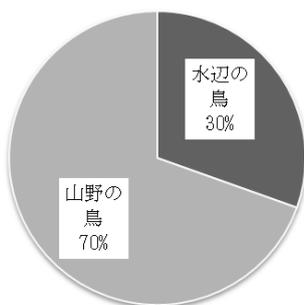


図 XIII-7 生息環境別種数構成比



写真 XIII-12 ホオジロ

## キ 石野地区

石野地区は山間の地区である。西は矢作川が境をなし、東は足助地区、北は藤岡地区で、南は高橋地区に接する、国道 153 号線が地区を横断している。その沿線の力石町、中金町、城見町、野口町、中切町には飲食店やコンビニ、ガソリンスタンド、自動車修理工場等があるが、国道 153 号線の沿線を除けば商店は見当たらない。標高は高い所で 250m、多くは 100~200m くらいである。このような地形ゆえに、東部の中金町周辺の国道 153 号線の沿線に、合わせて 3 つのゴルフ場が建設されたことは残念である。

越戸ダムではオシドリが越冬する。近年、数は減っているが毎年やってくる。オシドリの他にカモ類も見られるが、カルガモ、マガモが主体である。カモ類は、鎮平橋あたりまで見られる。矢作川はここから上流は河岸に竹藪が茂り、水面が見られないので野鳥観察には不適である。国附町まで上ると視界が開ける場所があり、定点観察を行った。川の流れは早く、岩も多い。ヤマセミやカワガラスを期待したが、どちらもただ一度のみの観察だった。富田町、藤沢町、押沢町、松嶺町は市街地から最も離れた静かな集落で、松嶺町ではササユリを保護し、市民へ公開しているため訪れる人が多い。この一帯は特に、新緑の季節には野鳥も多く、キビタキやオオルリ、サンコウチョウ等がよく鳴いていた。東広瀬町から小峯町に抜ける一帯に、山間では珍しい大きな水田があり、ケリ、サギ類、ビンズイを観察した。東広瀬町から勘八牧場を経て、上高町、千鳥町、山中町を通り、香嵐溪に向かう東海自然歩道の一部の上高町から千鳥町を調査した。夏は特にウグイスの囀りが印象的で、他にはオオルリ、キビタキもよく鳴いていた。山深いところで、冬は野鳥の姿が余り見られない。冬の上空では、ノスリやハイタカが時々観察された。山中町の恩真寺周辺では、夏はサシバがすぐ近くを鳴きながら飛んだ。2014 年にはアカショウビンの鳴き声を確認した。城見町では 2011 年 5 月にヤイロチョウの鳴き声を確認した。

表 XIII-13 石野地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数	15 目 38 科 100 種
2001/4~2004/3	15 目 38 科 98 種
2014/4~2015/3	11 目 26 科 45 種
上記の確認種以外の種数	4 目 6 科 8 種
2001/4~2015/3	
計	17 目 43 科 108 種



写真 XIII-13 山中町の里山

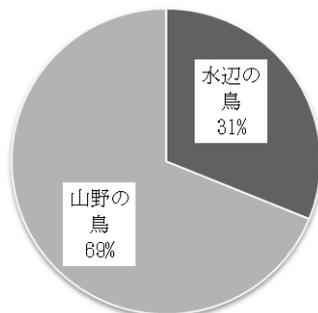


図 XIII-8 生息環境別種数構成比



写真 XIII-14 アオゲラ

## ク 松平地区

松平地区は豊田市南部中央の山間の地域である。地区最東部に旧市域最高峰の焙烙山 683m と六所山 611m がある。六所山は山頂付近に原生林が残り、ブナやモミ、ツガ、アカガシ、イヌシデ、カラスザンショウ等の貴重な樹木がある。このような環境には野鳥も多く、特に、猛禽類がよく観察される。松平地区は全体に山が深く、開発の手が及んでいない。このような環境ゆえに、周辺一帯でサシバやハチクマが観察される。夏には、キビタキ、オオルリ、センダイムシクイ、ヤブサメ、サンショウクイ、ツツドリ、ホトトギス等がよく観察される。2002 年にはアカショウビン、ノスリが繁殖した。ノスリは翌年以降も当地で繁殖している。留鳥ではウグイス、メジロ、ホオジロ、イカル、ヤマガラ等が多い。また、秋 11 月初旬には、ツグミやアトリの大群が観察され、西方向に渡っていく。宮口川では、冬季にアオシギを観察した。

松平地区の野鳥の生息環境で重要な場所としては巴川がある。巴川は松平地区の西部を縦断し、矢作川に合流する。ヤマセミやカワガラスが生息する。また、鍋田町、王滝町には、オシドリが越冬する。九久平町の河畔にヤドリギが着生したエノキの木が多く、毎年ヤドリギの実が熟す 3 月頃になるとレンジャクの群れが渡来する。尾羽の先端が赤いヒレンジャクと、先端が黄色のキレンジャクの 2 種類がいるが、ここに来るのはヒレンジャクがほとんどである。キレンジャクも少数だが見られる年もある。巴川の支流に六所山を源流とする仁王川がある。巴川への合流地点から上流へ 3km くらい間の王滝溪谷は、急流の溪谷と静粛な雰囲気がよく、名勝になっているが、野鳥も多い所である。ここを代表する鳥はカワガラスとキセキレイであろう。夏はオオルリやウグイスの轉りが清涼剤である。サンコウチョウやイカル、サンショウクイも鳴く。巴川のもう一つの支流に、南部の岡崎市との境をなす郡界川がある。郡界川の滝脇町の周辺には二畳ヶ滝や日影ダム等視野の開けた野鳥観察がしやすい所があり、ヤマセミが観察される。長沢町ではカワガラスが見られる。また、徳川家康の祖先松平氏発祥の地、松平東照宮の周辺も野鳥の多い所である。

表 XIII-14 松平地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数	15 目 38 科 100 種
2001/4～2004/3	15 目 38 科 99 種
2014/4～2015/3	12 目 31 科 65 種
上記の確認種以外の種数	6 目 8 科 10 種
2001/4～2015/3	
計	16 目 39 科 110 種



写真 XIII-15 六所山

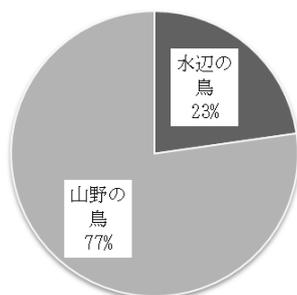


図 XIII-9 生息環境別種数構成比



写真 XIII-16 サシバ

## ケ 藤岡地区

当地区は南部が旧市域に接し、北東部は小原地区、一部は足助地区に接し、北部は岐阜県土岐市に接し、西部は瀬戸市、南部は猿投地区に食い込むように接している。足助地区との境は矢作川となっており、その支流に犬伏川、飯野川等がある。北西部の土岐市・瀬戸市との境には土岐市三国山 701m と猿投山 629m に連なる山林地帯があり、藤岡地区で標高が最も高い地点は 650m である。面積は 65.6km<sup>2</sup> で、山林はその 72% を占めており、スギ・ヒノキの人工林比率は 36% で比較的森林が多い環境である。また、南部には平地（標高約 130m）があり、広い田畑が見られるのはこの地域だけである。

当地区にはあまり標高が高い地点がないため、ウグイス、ホオジロ、メジロ等里山で見られる種類の鳥が多い。特筆すべきはブッポウソウである。2011 年から毎年続けて飛来が観察されており、当地区で繁殖している可能性が高い。

昭和の森は、多様な環境と整備された林があり、年間を通じて野鳥が見られる。夏季はヨタカの声を確認した。また、冬季にはトラツグミ、ルリビタキ、ベニマシコ、ミヤマホオジロ、アオジ等の冬鳥を多く記録した。

旧めぐみの森は標高が約 500m で成熟した森である。この森では、夏季にクロツグミがよく囀り、サンコウチョウ、ヤブサメ等が観察された。冬季にはカヤクグリを確認した。下川口町、上川口町の矢作川では、ヤマセミがときどき観察できる。また、冬季にはオシドリの子が観察され、近年カワアイサが観察されるようになった。西中山町のカントリークラブにはサギのコロニーがあり、アオサギとダイサギが繁殖している。

表 XIII-15 藤岡地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数 2008/4～2014/3	17 目 44 科 113 種
上記の確認種以外の種数 2001/4～2015/3	3 目 3 科 3 種
計	17 目 44 科 116 種



写真 XIII-17 昭和の森 長根池

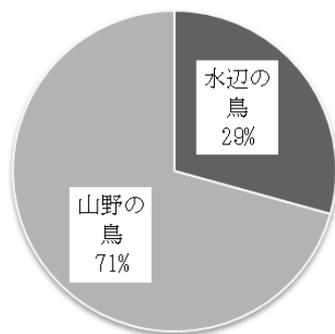


図 XIII-10 生息環境別種数構成比



写真 XIII-18 ウグイス

コ 小原地区

当地区は愛知県のはぼ中央部の北端に位置し、北は岐阜県土岐市、恵那市、東南は旭地区、西南は藤岡地区に接している。東部を流れる矢作川には、その支流の犬伏川、田代川及び大平川が小原地区を貫流している。小原地区の北端は 500m 以上の山地であり、標高の最高地点は西山の 712.4m で、それより南に向かって傾斜して支所付近では 290m となっている。更に東の矢作川付近では 100m となっており、標高差は約 600m となる。面積は 74.5km<sup>2</sup> で、その 74% は山林である。スギ・ヒノキの人工林比率が 44% で、自然林と半々程度である。国有林の大ケ蔵連等は自然林が多い。

当地区は 1,000m を超える山林がないため、亜高山帯に見られるコガラ、ゴジュウカラ、コルリ等の鳥は見られない。大ケ蔵連町で夏にホトトギスを同時に数羽確認した。また、2009 年にはヨタカの幼鳥を観察した。冬季にはオオマシコ、イスカ、キクイタダキ等、まれに見る鳥を確認することができた。大洞町、小原田代町は人工林が多いため比較的鳥は少ないが、クロツグミ、キビタキ等の夏鳥とウソ等の冬鳥を見ることができる。また、当地区のスギ林では、サンコウチョウの音が数か所で聞かれる。

猛禽類は、大ケ蔵連町でハチクマ、オオタカのディスプレイを観察した。サシバも鍛冶屋敷町等で確認した。

カモ類は種類が少なく、シギの仲間等も見られない。また、サギ類も少ない。冬季、オシドリは矢作川の百月発電所上下流で群れを成しているのが観察できる。その他のカモ類はコガモ、マガモ、カルガモで、ときどきキンクロハジロが見られる程度である。カワアイサは見られることが少なかったが、近年百月発電所付近で毎年のように確認できた。また、築平町の百月ダムでは、カワセミ、ヤマセミが観察でき、下流ではカワガラスが見られる。

表 XIII-16 小原地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数 2008/4～2014/3	16 目 38 科 102 種
上記の確認種以外の種数 2001/4～2015/3	1 目 1 科 1 種
計	16 目 38 科 103 種



写真 XIII-19 大ケ蔵連町

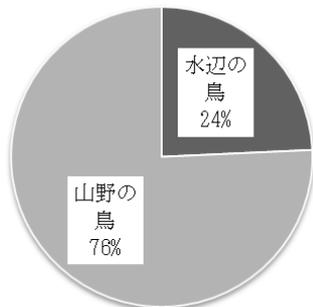


図 XIII-11 生息環境別種数構成比



写真 XIII-20 ホトトギス

## サ 足助地区

面積が 193.27km<sup>2</sup> と大変広い。東に 1,120.6m の寧比曾岳がそびえる。寧比曾岳の周辺には金沢段戸国有林，県有林，市有林，安城農林高校演習林等がある。大多賀峠から北へ行くと伊勢神高原である。ここに古いこいの村愛知があり、周りは平坦で標高 800m の高原で東海自然歩道が通り、湿地もあり野鳥観察にもよい。足助を流れる巴川は新城市作手を源流として、羽布ダムを経て足助地区に下る。香嵐溪を経て、松平地区に入り矢作川に合流する。また、巴川の支流に足助川，神越川がある。伊勢神峠を源とする阿摺川は月原町で矢作川に合流し、その下流に阿摺ダムがある。最東端の段戸川は段戸裏谷を源流として大多賀町，連谷町を抜け矢作川に入る。更に、足助地区の西端を流れる矢作川は対岸が小原地区，藤岡地区，石野地区で境界をなしている。足助地区の中心部より南部と西部は標高が 100～300m くらいの里山の風景が広がる山村である。

金沢段戸国有林，安城農林高校演習林の林道筋では多くの野鳥が観察できる。繁殖期の金沢段戸国有林ではミソサザイの囀りが高らかに響き渡る。他にはウグイス，オオルリ，キビタキの囀りがよく聞かれる。しかし、近年特定外来生物に指定されているソウシチョウの増加が目立ち、在来の鳥類への影響が心配される。安城農林高校演習林ではツツドリの声がよく聞かれる。伊勢神高原にはマツ林があり、冬季にイスカが観察された。また、特定外来生物に指定されているガビチョウを確認した。ガビチョウは当地区の四ツ松町でも観察されており、そこが豊田市初記録である。これらの特定外来生物の今後の動向に注目する。

足助地区は山が深く沢水が豊富なため、ため池も用水もいらない反面、カモやサギ等水辺の鳥がほとんど見られない。阿摺ダムは、特に冬季はカモ等の水鳥が観察できる数少ない水辺のスポットである。オシドリの群れが観察され、カワアイサも少数見られる。香嵐溪は足助地区では唯一 1 年を通して野鳥が観察できる所といえる。ここではキセキレイやカワガラスが繁殖している。川面町ではアカショウビンの声がよく聞かれる。この辺りで冬季クマタカの飛翔を観察した。

表 XIII-17 足助地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数 2008/4～2014/3	16 目 37 科 102 種
上記の確認種以外の種数 2001/4～2015/3	6 目 9 科 10 種
合計	16 目 39 科 112 種



写真 XIII-21 香嵐溪

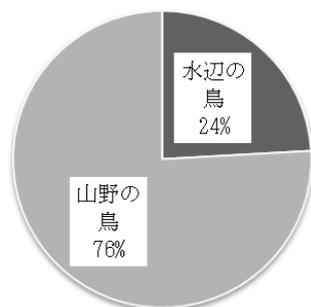


図 XIII-12 生息環境別種数構成比



写真 XIII-22 キセキレイ

## シ 下山地区

当地区は豊田市の東南部に位置し、総面積は 114.6km<sup>2</sup> の典型的な山間地である。東部には三河湖が在り、そこより流れ出た巴川は南からの大桑川と合流し、北からの野原川と合流して西北へ流れて足助地区へと流れ下る。また、蘭町付近に発した郡界川は地区の中心部の大沼付近を西下し、岡崎市境の滝脇を流れて足助地区より流れ来る巴川に合流する。

標高最高地は 1,028m (阿蔵町) で、最低地は 287m (立岩町・平瀬町) である。西北部には六所山 (611m)、炮烙山 (683m) がそびえ、東北部には阿蔵の山 (945m)、三河湖南部には 702m のピークがあり、山地の多くは三河高原牧場 (631m) をはじめ標高 600m 内外の起伏がゆるやかに続く。そして西南部に移るにつれて標高は次第に下がってゆく。森林の多くは戦後植林されたスギ・ヒノキの人工林が約 70% を占めており、二次林は少ない。

当地区は標高が高いため、冬季の野鳥は少ない。特にアトリ類は年により増減が大きい。中でも 2010 年 2 月に野原川に出現したアトリの大群 (推定 10 万羽) は圧巻であった。羽布林道では、マツの木が残っておりイスカを観察した。また、オオアカゲラ、ゴジュウカラを当地区で初確認した。蕪木町でのミゾゴイの確認は貴重な記録である。また、ヨタカの繁殖を確認した。

2012 年秋の渡りで和合町にて、クロツグミ、マミチャジナイ、マミジロの群れを 2 週間にわたり観察した。秋のタカの渡りは少ないが、アマツバメ類、エゾビタキ、ノビタキ等が観察された。

水辺の野鳥は全体に少ない。サギ類はアオサギを除いてあまり見られず、5 年間でコサギは観察できなかった。少ない水入り田でクサシギ、イカルチドリ、コチドリを確認した。羽布林道脇の土砂埋立地でコチドリの繁殖を確認した。ゴルフ場前の池でオオバン 1 羽を確認した。三河湖ではアオサギ、カワウの繁殖を確認した。また、近年カワアイサが越冬している。

表 XIII-18 下山地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数 2008/4~2014/3	17 目 42 科 118 種
上記の確認種以外の種数 2001/4~2015/3	4 目 5 科 5 種
計	17 目 43 科 123 種



写真 XIII-23 三河湖

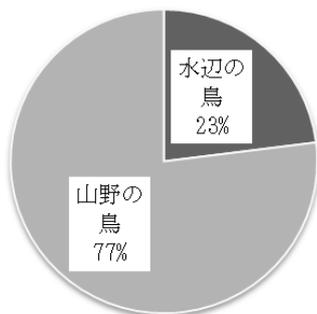


図 XIII-13 生息環境別種数構成比



写真 XIII-24 イスカ

ス 旭地区

当地区は豊田市北部に位置し、標高は最低地池島町のおよそ 100m、最高地は駒山の 867m である。面積は 82.16km<sup>2</sup>で全市の約 9%となる。そのうちの 82%が山林であり、その約 70%が人工林で占められている。愛知高原国定公園に含まれる旭高原元気村は、八幡牧場跡地を利用したキャンプ等の自然体験型の施設がある。この開かれた環境は、鳥類の観察に適している。

岐阜県恵那市境になる奥矢作湖は市内でも有数の開水域となり、ダム湖の下流は緩急の流れを見せる。この流域は所々で自然林を含む河川敷があり、鳥類の観察に貴重な場所になっている。しかし、地区全域を見てみると、山林のほとんどを占める人工林と、人の手の加えられた河川域等で多様な環境は少ない。

山林部よりも人家や田畑周辺・河川沿いにて野鳥が多く観察された。

旭高原元気村ではホオジロ、ウグイス、ホトトギス等の囀りが聞かれる。小滝野町ではコマドリ、サンコウチョウ、ツツドリ、エゾムシクイを確認した。猛禽類は、オオタカ、ハヤブサが確認できた。また、黒谷溪谷では、クマタカの飛翔を観察した。伊熊町の伊熊神社社叢は、愛知県自然環境保全地域に指定されている。この辺りで夏季にアオバズク、クロツグミ、サンコウチョウを確認した。また、冬季にはヤマシギ、ルリビタキ、アカゲラを確認した。城山森林公園ではオオアカゲラ、アトリ、イスカ等が観察できた。矢作川流域では近年減少著しいヤマセミが見られる。他には清流を好むカワガラス、キセキレイが繁殖し、最近ではカワウ、アオサギの姿をよく見かけるようになった。また、急峻な山が多く、ときどき上空を飛翔するクマタカが見られる。池島町、笹戸町、有間町の矢作川では冬季にカワアイサを確認した。池島町、有馬町ではオンドリが見られる。小渡町小柳にはケヤキの河畔林があり、古木に止まるオンドリを繁殖期に観察した。また、川原でヤマセミ、イカルチドリ等が確認できた。

表 XIII-19 旭地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数 2008/4～2014/3	17 目 40 科 103 種
上記の確認種以外の種数 2001/4～2015/3	2 目 3 科 3 種
計	17 目 41 科 106 種



写真 XIII-25 矢作川 小渡下流

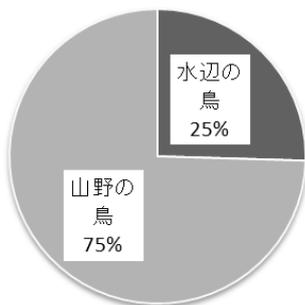


図 XIII-14 生息環境別種数構成比



写真 XIII-26 ヤマセミ

## セ 稲武地区

当地区は愛知県の北東に位置し、北は岐阜県恵那市、東は長野県根羽村に接している。北部を流れる矢作川は、長野県側から入り、大野瀬町を横断し、岐阜県との県境を流れ、旭地区に出て行く。矢作川には名倉川、黒田川、段戸川、野入川が注いでいる。標高は北部の低地域で約 300m、中央丘陵地域で 500m、周りは 800～1,000m の山に囲まれている。最高地点は天狗棚の 1,240m で、標高差は約 900m となる。

面積は 98.63km<sup>2</sup> で、その 87% は山林である。スギ・ヒノキの人工林比率が 78% と高い。北東部の三国山、南西部の黒田貯水池周辺、南東部の面ノ木には自然林が残っている。面ノ木では樹齢 300 年以上のブナの原生林が見られる。

面ノ木原生林、三国山には、キバシリ、オオアカゲラ、ゴジュウカラ、コガラ、コルリ等が生息する。冬季には面ノ木でオオマシコを確認した。また、旧面ノ木牧場ではハギマシコを観察した。三国山に接する池ヶ平では過去にオオジシギ、ホオアカが記録されているが、今回の現地調査では確認できなかった。下表の現地調査確認種以外の 2 種はオオジシギとホオアカである。2005 年以降の観察記録は無い。当地でパラグライダー等が盛んになったことが、姿を消した要因の一つと考えられる。

水辺の野鳥は全体に少ないが、カワガラスは各河川で見られる。カモ類は種類、個体数とも少ない。オシドリは夏季も観察できることから、繁殖の可能性がある。また、サギ類も少ないが、2008 年と 2009 年に桑原町でアオサギの繁殖を確認した。

秋の渡りで、大野瀬町にてハリオアマツバメ、アマツバメ、イワツバメの群れが観察できた。面ノ木、三国山等ではソウシチョウが生息している。面ノ木は愛知県において設楽町の段戸裏谷に次ぐ繁殖地になっており、在来種に与える影響が懸念される。2013 年に押山町でガビチョウを 1 羽確認した。これら特定外来生物の今後の動向に注視していく。

表 XIII-20 稲武地区の鳥類確認種数

現地調査確認種数 2008/4～2014/3	16 目 41 科 110 種
上記の確認種以外の種数 2001/4～2015/3	2 目 2 科 2 種
計	16 目 41 科 112 種



写真 XIII-27 面ノ木原生林

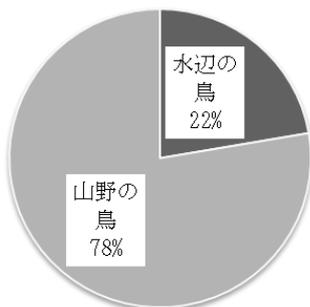


図 XIII-15 生息環境別種数構成比



写真 XIII-28 ゴジュウカラ

#### (4) 豊田市鳥類の渡りの区分

鳥類には渡り行動があり、その形態によって、便宜的に「留鳥」「夏鳥」「冬鳥」「旅鳥」等に分類されている。留鳥は渡りをせず、1年中留まる鳥。夏鳥は、春に南方から渡ってきて繁殖し、秋に南方に渡り越冬する鳥。冬鳥は、北方で繁殖し、越冬のため渡ってきて冬を過ごす鳥。旅鳥は、北方で繁殖し、南方で越冬。春秋の渡り途中に立ち寄る鳥。

現地調査で確認した183種について、渡り区分に分類し、地区別に表XIII-21にまとめた。旧市域は新市域に比べて、渡りの通過点として利用する旅鳥が多い。旧市域を地区別にみると上郷地区と高岡地区に旅鳥が多い。これは渡りの時季に、多くの種のシギ・チドリ類が水田地帯に飛来していることによる。渡り区分の割合は生息環境を表している。

表 XIII-21 地区別・渡り区分の種数と構成比

渡り区分	全市域	旧市域	新市域
留鳥	57	51	56
夏鳥	31	27	28
冬鳥	60	58	45
旅鳥	35	31	12
合計	183	167	141

表 XIII-22 旧市域の地区別・渡り区分の種数

渡り区分	挙母地区	高橋地区	上郷地区	高岡地区	猿投地区	保見地区	石野地区	松平地区
留鳥	45	48	41	40	48	42	47	46
夏鳥	24	24	17	12	24	17	20	20
冬鳥	44	41	28	31	39	20	30	26
旅鳥	8	5	19	14	6	2	3	8
合計	121	118	105	97	117	81	100	100

表 XIII-23 新市域の地区別・渡り区分の種数

渡り区分	藤岡地区	小原地区	足助地区	下山地区	旭地区	稲武地区
留鳥	49	45	46	50	47	48
夏鳥	23	23	22	23	22	19
冬鳥	34	28	26	33	28	34
旅鳥	7	6	8	12	6	9
合計	113	102	102	118	103	110

#### (5) 豊田市確認鳥類リスト及び愛知県との比較

豊田市鳥類目録及び現地調査結果と愛知県鳥類目録 2014 (愛知県鳥類目録検討委員会, 未発表) を比較し, 表 XIII-24 にまとめた.

表 XIII-24 で示すように, 豊田市鳥類目録 (1968 年 1 月～2015 年 3 月) には 19 目 56 科 230 種が記録されている. この記録は 47 年間の記録である. 現地調査 (2001 年 4 月～2015 年 3 月) では 17 目 51 科 183 種が記録された. この記録は現状を示す記録である. 愛知県鳥類目録 (1965～2014 年) には 24 目 74 科 413 種が記録されている.

愛知県鳥類目録に対する豊田市鳥類目録の割合は, 目で 79%, 科で 77%, 種で 56% である. 一見少ないようではあるが, 以下に述べるように海に面していない豊田市は山野の鳥が主体であり, それを考慮すれば決して少ない数字ではない.

愛知県はカモ科, チドリ科, シギ科, カモメ科等干潟や内湾, 河川, 湖沼, 外洋等水辺の鳥は全国屈指である. 特に干潟では汐川干潟や藤前干潟等を有し, 今までにたくさんの種類が記録されている. 豊田市は河口から 30km 以上, 上流の内陸の都市であるため, 水辺の鳥は愛知県の半分にも満たない. 特に外洋性のカモメ科, アビ科, ミズナギドリ科等は豊田市では縁遠い種である. 一方, 山野の鳥は愛知県の記録の約 70% が確認されている.

表 XIII-24(1) 豊田市確認鳥類リスト（目科別集計・愛知県との比較）

目	科	愛知県	豊田市	豊田市
		鳥類目録 2014 注 1)	鳥類目録 2014	現地調査
		1965～	1968/1～2015/3	2001/4～2015/3
キジ	キジ	3	3	2
カモ	カモ	41	22	17
カイツブリ	カイツブリ	5	4	3
ネッタイチョウ	ネッタイチョウ	1	0	0
サケイ	サケイ	1	0	0
ハト	ハト	4	2	2
アビ	アビ	4	0	0
ミズナギドリ	アホウドリ	2	0	0
	ミズナギドリ	8	1	0
	ウミツバメ	2	0	0
コウノトリ	コウノトリ	2	0	0
カツオドリ	グンカンドリ	2	0	0
	カツオドリ	2	0	0
	ウ	3	1	1
ペリカン	サギ	15	10	9
	トキ	3	0	0
ツル	ツル	4	0	0
	クイナ	7	5	4
ノガン	ノガン	1	0	0
カッコウ	カッコウ	7	5	4
ヨタカ	ヨタカ	1	1	1
アマツバメ	アマツバメ	3	3	3
チドリ	チドリ	13	8	7
	ミヤコドリ	1	0	0
	セイタカシギ	2	1	1
	シギ	51	27	21
	レンカク	1	0	0
	タマシギ	1	1	1
チドリ	ツバメチドリ	1	1	1
	カモメ	27	7	2
	トウゾクカモメ	4	1	0
	ウミスズメ	7	0	0

表 XIII-24(2) 豊田市確認鳥類リスト（目科別集計・愛知県との比較）

目	科	愛知県	豊田市	豊田市
		鳥類目録 2014 注 1)	鳥類目録 2014	現地調査
		1965～	1968/1～2015/3	2001/4～2015/3
タカ	ミサゴ	1	1	1
	タカ	17	11	10
フクロウ	フクロウ	6	6	4
サイチョウ	ヤツガシラ	1	1	0
ブッポウソウ	カワセミ	4	3	3
	ブッポウソウ	1	1	1
キツツキ	キツツキ	5	5	5
ハヤブサ	ハヤブサ	6	4	2
スズメ	ヤイロチョウ	1	1	0
	サンショウクイ	1	1	1
	コウライウグイス	1	0	0
	オウチュウ	2	0	0
	カササギヒタキ	1	1	1
	モズ	6	1	1
	カラス	8	6	3
	キクイタダキ	1	1	1
	ツリスガラ	1	1	0
	シジュウカラ	4	4	4
	ヒバリ	5	1	1
	ツバメ	4	4	4
	ヒヨドリ	1	1	1
	ウグイス	2	2	2
	エナガ	1	1	1
	ムシクイ	8	5	3
	ズグロムシクイ	1	0	0
	メジロ	1	1	1
	センニュウ	5	2	0
	ヨシキリ	2	2	1
	セッカ	1	1	1
	レンジャク	2	2	2
	ゴジュウカラ	1	1	1
	キバシリ	1	1	1
	ミソサザイ	1	1	1
	ムクドリ	6	2	2
	カワガラス	1	1	1
	ヒタキ	27	21	18
	イワヒバリ	2	2	1
	スズメ	2	2	2
	セキレイ	10	5	5
	アトリ	14	12	10
ツメナガホオジロ	2	0	0	
ホオジロ	17	9	8	
合計	目	24 目 (100)	19 目 (79)	17 目 (71)
	科	74 科 (100)	56 科 (75)	51 科 (68)
	種	413 種 (100)	230 種 (56)	183 種 (43)

注 1) 愛知県鳥類目録 2014 は未発表の目録であるが、愛知県鳥類目録検討委員会の承諾を得て使用した。

#### (6) 豊田市における鳥類の絶滅危惧種の現状

愛知県は「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち 2009 動物編」を2009年3月に発行した。(以下、「愛知県レッドデータブック 2009」と記す)

愛知県レッドデータブック 2009 指定種が豊田市にどれだけ生息しているかを、旧市域 2001年4月～2004年3月(豊田市自然環境基礎調査)と2014年4月～2015年3月、及び新市域 2008年4月～2014年3月の現地調査記録を整理して表 XIII-25 にまとめた。

愛知県指定 80 種(地域個体群 3 種を除く)のうち、当市では 52 種確認され、65%の割合になる。区分別の内訳は次のとおりである。絶滅危惧 IA 類(CR)は愛知県指定 9 種のうち、豊田市確認は 5 種、絶滅危惧 IB 類(EN)は、愛知県指定 13 種のうち、豊田市確認は 8 種、絶滅危惧 II 類(VU)は愛知県指定 26 種のうち、豊田市確認 20 種、準絶滅危惧(NT)は愛知県指定 31 種のうち、豊田市確認は 19 種である。

表 XIII-25(1) 「愛知県 RDB2009 動物編」鳥類指定種の豊田市での確認状況

区分	愛知県		豊田市	豊田市	
	RDB2009 指定種		全市域 (旧市域・ 新市域合計)	旧市域 2001/4～2004/3 2014/4～2015/3	新市域 2008/4～2014/3
	NO.	種名	確認種	確認種	確認種
絶滅危惧 IA 類 (CR)	1	オオジシギ	○	○	—
	2	シベリアオオハシシギ	—	—	—
	3	カラフトアオアシシギ	—	—	—
	4	ヘラシギ	—	—	—
	5	ツバメチドリ	○	○	—
	6	コノハズク	○	○	—
	7	ブッポウソウ	○	—	○
	8	ヤイロチョウ	—	—	—
	9	キバシリ	○	—	○
	種数	9	5	3	2
絶滅危惧 IB 類 (EN)	1	シノリガモ	—	—	—
	2	アカエリカイツブリ	—	—	—
	3	ヨシゴイ	○	○	—
	4	ミゾゴイ	○	—	○
	5	コシヤクシギ	—	—	—
	6	ズグロカモメ	—	—	—
	7	チュウヒ	○	○	—
	8	クマタカ	○	—	○
	9	ヤマセミ	○	○	○
	10	オオアカゲラ	○	—	○
	11	ハヤブサ	○	○	○
	12	オオセッカ	—	—	—
	13	マミジロ	○	—	○
	種数	13	8	4	6
絶滅危惧 II 類 (VU)	1	ウズラ	—	—	—
	2	トモエガモ	○	○	—
	3	ビロードキンクロ	—	—	—
	4	カワアイサ	○	○	○
	5	クロサギ	—	—	—
	6	ヒクイナ	○	○	○
	7	ジュウイチ	○	—	○
	8	ヨタカ	○	○	○
	9	イカルチドリ	○	○	○
	10	セイタカシギ	○	○	—
	11	オグロシギ	○	○	—
	12	ホウロクシギ	—	—	—
	13	ツルシギ	○	○	—
	14	タカブシギ	○	○	—
	15	ウズラシギ	○	○	—
	16	キリアイ	—	—	—
	17	タマシギ	○	○	—
	18	ハチクマ	○	○	○

表 XIII-25(2) 「愛知県 RDB2009 動物編」 鳥類指定種の豊田市での確認状況

区分	愛知県		豊田市	豊田市	
	RDB2009 指定種		全市域	旧豊田市	新市域
	NO.	種名	(旧市域・ 新市域合計) 確認種	2001/4～2004/3 2014/4～2015/3 確認種	2008/4～2014/3 確認種
絶滅危惧 II 類 (VU)	19	サシバ	○	○	○
	20	アカショウビン	○	○	○
	21	カワガラス	○	○	○
	22	アカハラ	○	○	○
	23	コマドリ	○	○	○
	24	ホオアカ	○	○	—
	25	ノジコ	○	○	—
	26	コジュリン	—	—	—
	種数	26	20	19	11
準 絶滅危惧 (NT)	1	クロガモ	—	—	—
	2	ヒメウ	—	—	—
	3	クイナ	○	○	—
	4	ツツドリ	○	○	○
	5	シロチドリ	○	○	—
	6	ヤマシギ	○	○	○
	7	アオシギ	○	○	○
	8	オオハシシギ	—	—	—
	9	オオソリハシシギ	—	—	—
	10	ダイシャクシギ	—	—	—
	11	アカアシシギ	—	—	—
	12	メリケンキアシシギ	—	—	—
	13	オバシギ	—	—	—
	14	コオバシギ	—	—	—
	15	ミユビシギ	—	—	—
	16	オジロトウネン	—	—	—
	17	エリマキシギ	—	—	—
	18	コアジサシ	○	○	—
	19	ミサゴ	○	○	○
	20	ハイイロチュウヒ	○	○	—
	21	ツミ	○	○	○
	22	オオタカ	○	○	○
	23	オオコノハズク	○	—	○
	24	フクロウ	○	○	○
	25	アオバズク	○	○	○
	26	サンショウクイ	○	○	○
	27	サンコウチョウ	○	○	○
	28	ミソサザイ	○	○	○
	29	クロツグミ	○	○	○
	30	コルリ	○	—	○
	31	コサメビタキ	○	○	○
種数	31	19	17	15	
情報不足 (DD)	1	サンカノゴイ	—	—	—
	種数	1	0	0	0

表 XIII-26 「RDB あいち 2009 動物編」評価区分基準

区分及び基本概念			
絶滅危惧 I 類	絶滅の危機に瀕している種. 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの.	絶滅危惧 IA 類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの.
		絶滅危惧 IB 類 (EN)	IA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの.
絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅の危機が増大している種. 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの.		
準絶滅危惧 (NT)	存続基盤が脆弱な種. 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの.		
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種.		

#### 4 豊田市鳥類の希少種の選定

今回の生物調査で確認された種から、絶滅のおそれのあるものとして「愛知県版レッドリスト 2009 の評価区分基準」に該当する種を希少種として選定する。また、本市において減少傾向が見られ配慮が必要と考えられる種を配慮種として選定し、併せて希少種として表 XIII-27 に示す。

選定した希少種に「愛知県版レッドリスト 2009 の評価区分基準」に基づきランク付した。ランクについては、それぞれの確認種について生息時期や分布、個体数及び繁殖・越冬・通過等の生態を考慮し総合的に判断した。

表 XIII-27(1) 豊田市鳥類希少種リスト

NO.	種名	選定理由	区分	リストの区分	
			豊田市	愛知県 RDB 2009	国 RDB 2014
1	クマタカ	個体数が少ない。	CR	EN	EN
2	コノハズク	記録が極めて少ない。愛知県の指定希少野生動物種。	CR	CR	
3	ブッポウソウ	記録が極めて少なく、生息場所が限られている。	CR	CR	EN
4	キバシリ	個体数が少なく、繁殖場所が限られる。	CR	CR	
		種数 (CR)	4	—	—
5	ヨシゴイ	記録がごく少なく、繁殖環境が悪化している。	EN	EN	NT
6	ミゾゴイ	記録がごく少ない。	EN	EN	VU
7	ジュウイチ	記録がごく少ない。	EN	VU	
8	オオジシギ	近年繁殖期の生息確認がなく、通過個体数もごく少ない。	EN	CR	NT
9	ハチクマ	個体数が少ない。繁殖環境が得異で限定的。	EN	VU	NT
10	サシバ	里山の荒廃、休耕田の増加等で繁殖環境が悪化。	EN	VU	VU
11	アカショウビン	個体数が極めて少なく、繁殖環境が少ない。	EN	VU	
12	ヤマセミ	個体数が激減、繁殖環境の減少。	EN	EN	
13	オオアカゲラ	繁殖場所が限られていて、個体数も少ない。	EN	EN	
14	ハヤブサ	個体数が少ない。	EN	EN	VU
		種数 (EN)	10	—	—
15	トモエガモ	個体数が極めて少ない国際的希少種。	VU	VU	VU
16	カワアイサ	個体数が少ない。	VU	VU	
17	クイナ	個体数が少ない。	VU	NT	
18	ヒクイナ	アシ原等の環境が悪化し、個体数が急減。	VU	VU	NT
19	ヨタカ	里山の荒廃等で近年個体数が著しく減少。	VU	VU	NT
20	イカルチドリ	個体数が少ない。	VU	VU	
21	タマシギ	乾田化等で繁殖環境が減少し、繁殖数が激減。	VU	VU	VU
22	オオタカ	里山の繁殖環境が悪化し、個体数が減少している。	VU	NT	NT
23	フクロウ	繁殖環境が限られ、繁殖数が少ない。	VU	NT	
24	アオバズク	繁殖場所が限られ、個体数が減少している。	VU	NT	
25	コマドリ	近年繁殖確認がなく、個体数もごく少ない。	VU	VU	
26	コルリ	繁殖場所が限られていて、個体数も減少。	VU	NT	
		種数 (VU)	12	—	—
27	ヤマドリ	個体数が少ない。	NT		
28	オシドリ	繁殖記録はごく少ない。	NT		
29	ヨシガモ	個体数が極めて少ない。	NT		
30	チュウサギ	個体数が減少。	NT		NT
31	ツツドリ	近年個体数が減少している	NT	NT	
32	ヤマシギ	記録が少ない	NT	NT	
33	アオシギ	山地の渓流域に生息、記録が少ない	NT	NT	
34	コアジサシ	繁殖場所が減少し、個体数も減っている。	NT	NT	
35	ミサゴ	個体数が少なく、繁殖も確認されていない。	NT	NT	

表 XIII-27(2) 豊田市鳥類希少種リスト

NO.	種名	選定理由	区分	リストの区分	
			豊田市	愛知県 RDB 2009	国 RDB 2014
36	ツミ	記録が少なく、繁殖も確認されていない。	NT	NT	
37	オオコノハズク	記録がごく少ない。	NT	NT	
38	アカゲラ	個体数が減少している。	NT		
39	サンショウクイ	個体数が減少傾向にある。	NT	NT	VU
40	サンコウチョウ	生息場所の杉林の荒廃等で個体数が減少している。	NT	NT	
41	コシアカツバメ	個体数が著しく減少。	NT		
42	ミソサザイ	個体数が減少している。	NT	NT	
43	カワガラス	生息場所の清流域の減少等で個体数が減少している。	NT	VU	
44	クロツグミ	個体数が少ない。	NT	NT	
45	アカハラ	近年著しく個体数を減らす。	NT	VU	
46	コサメビタキ	個体数が少ない。	NT	NT	
		種数 (NT)	20	—	—
47	カイツブリ	生息環境の悪化により、減少傾向にある。	配慮種		
48	ゴイサギ	確認数が減少傾向にある。	配慮種		
49	ササゴイ	繁殖環境の減少により、個体数を減らす。	配慮種		
50	コサギ	乾田化により、個体数を減らす。	配慮種		
51	バン	生息環境が減少し、個体数を減らす。	配慮種		
52	タゲリ	生息環境が減少し、個体数を減らす。	配慮種		
53	タシギ	乾田化で生息場所が減って、個体数が減少。	配慮種		
54	クサシギ	個体数が少ない。	配慮種		
55	チョウゲンボウ	個体数が少ない。	配慮種		
56	ビンズイ	個体数が減少。	配慮種		
57	タヒバリ	個体数が減少。	配慮種		
		種数 (配慮種)	11	—	—

表 XIII-28 愛知県レッドリスト指定種で、豊田市では除外した種

NO.	種名	除外理由	ランク	リストの区分	
			豊田市	愛知県 RDB 2009	国 RDB 2014
1	ウズラ	確認数のごく少なく、生息状況が不明.		VU	NT
2	アカエリカイツブリ	一過性で確認数が1例のみ.		EN	
3	シロチドリ	内陸にはあまり入らない種で個体数が少ない.		NT	VU
4	セイタカシギ	漂行個体がまれに渡来する.		VU	VU
5	オグロシギ	渡り途中で採餌のため、少数渡来.		VU	
6	ホウロクシギ	渡り途中で採餌のため、少数渡来.		VU	VU
7	ツルシギ	渡り途中で採餌のため、少数渡来.		VU	
8	タカブシギ	渡り途中で採餌のため、少数渡来.		VU	
9	オジロトウネン	渡り途中で採餌のため、少数渡来.		NT	
10	ウズラシギ	渡り途中で採餌のため、少数渡来.		VU	
11	キリアイ	渡り途中で採餌のため、少数渡来.		VU	
12	エリマキシギ	渡り途中で採餌のため、少数渡来.		NT	
13	ツバメチドリ	漂行個体がまれに渡来する.		CR	VU
14	チュウヒ	一過性で確認数が少ない.		EN	EN
15	ハイイロチュウヒ	一過性で確認数が少ない.		NT	
16	ヤイロチョウ	通過個体がまれに記録される程度である.		CR	EN
17	マミジロ	通過個体がまれに記録される程度である.		EN	
18	ホオアカ	越冬個体数も少なく、繁殖期の記録がなくなった.		VU	
19	ノジコ	通過個体で確認数が少ない. 繁殖は確認されていない.		VU	NT

## 5 豊田市における鳥類の希少種と外来種の状況

豊田市鳥類の希少種に選定した種及び特定外来種について、種ごとに形態的な特徴や分布、市内の生息状況等を記述した。掲載した種の一覧を表 XIII-29 に示す。

### 【記述の項目と内容】

(1) 鳥類和名（種名・目名・科名）

(2) 評価区分 … 豊田市の希少種区分および愛知県レッドデータブック 2009

(3) 生息分布図

現地調査および調査期間以外で確認した一部のメッシュを●印で示す。

メッシュ地図は、日本測地系による3次メッシュを使用した。

現地調査：旧市域＝2001年4月1日～2004年3月31日，2014年4月1日～2015年3月31日

新市域＝2008年4月1日～2014年3月31日

(4) 年間月別確認表

現地調査で確認した月を○印で示す。網掛け部分が観察可能なおおよその期間を示す。

(5) 対象種の形態と豊田市における生息状況概要

旧市域の調査＝2001年4月1日～2004年3月31日までの3年間

及び2014年4月1日～2015年3月31日までの1年間

新市域の調査＝2008年4月1日～2014年3月31日までの6年間の調査状況

(6) 対象種の写真

表 XIII-29 豊田市の希少種と特定外来生物の一覧表

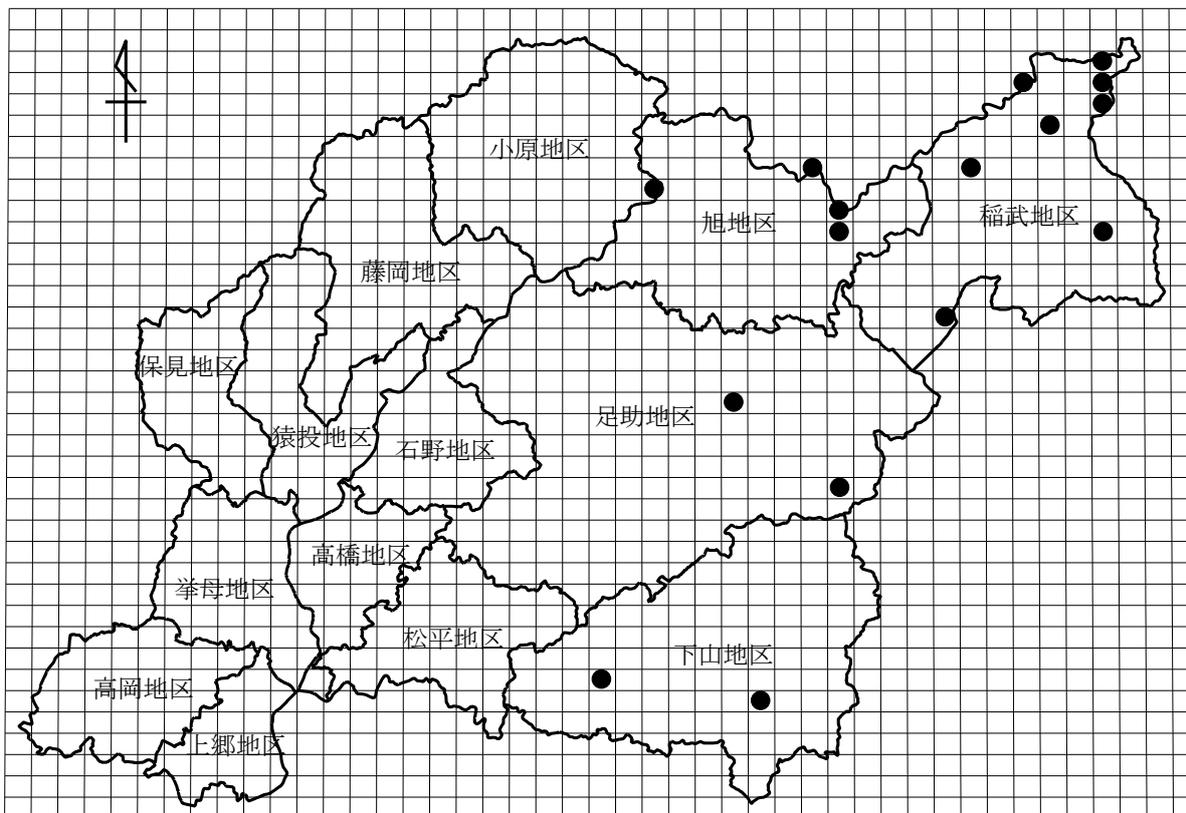
NO.	種名	区分	NO.	種名	区分
1	クマタカ	希少種 (CR)	31	ツツドリ	希少種 (NT)
2	コノハズク	希少種 (CR)	32	ヤマシギ	希少種 (NT)
3	ブッポウソウ	希少種 (CR)	33	アオシギ	希少種 (NT)
4	キバシリ	希少種 (CR)	34	コアジサシ	希少種 (NT)
5	ヨシゴイ	希少種 (EN)	35	ミサゴ	希少種 (NT)
6	ミゾゴイ	希少種 (EN)	36	ツミ	希少種 (NT)
7	ジュウイチ	希少種 (EN)	37	オオコノハズク	希少種 (NT)
8	オオジシギ	希少種 (EN)	38	アカゲラ	希少種 (NT)
9	ハチクマ	希少種 (EN)	39	サンショウクイ	希少種 (NT)
10	サシバ	希少種 (EN)	40	サンコウチョウ	希少種 (NT)
11	アカショウビン	希少種 (EN)	41	コシアカツバメ	希少種 (NT)
12	ヤマセミ	希少種 (EN)	42	ミソサザイ	希少種 (NT)
13	オオアカゲラ	希少種 (EN)	43	カワガラス	希少種 (NT)
14	ハヤブサ	希少種 (EN)	44	クロツグミ	希少種 (NT)
15	トモエガモ	希少種 (VU)	45	アカハラ	希少種 (NT)
16	カワアイサ	希少種 (VU)	46	コサメビタキ	希少種 (NT)
17	クイナ	希少種 (VU)	47	カイツブリ	希少種(配慮種)
18	ヒクイナ	希少種 (VU)	48	ゴイサギ	希少種(配慮種)
19	ヨタカ	希少種 (VU)	49	ササゴイ	希少種(配慮種)
20	イカルチドリ	希少種 (VU)	50	コサギ	希少種(配慮種)
21	タマシギ	希少種 (VU)	51	バン	希少種(配慮種)
22	オオタカ	希少種 (VU)	52	タゲリ	希少種(配慮種)
23	フクロウ	希少種 (VU)	53	タシギ	希少種(配慮種)
24	アオバズク	希少種 (VU)	54	クサシギ	希少種(配慮種)
25	コマドリ	希少種 (VU)	55	チョウゲンボウ	希少種(配慮種)
26	コルリ	希少種 (VU)	56	ビンズイ	希少種(配慮種)
27	ヤマドリ	希少種 (NT)	57	タヒバリ	希少種(配慮種)
28	オシドリ	希少種 (NT)	58	ガビチョウ	特定外来生物
29	ヨシガモ	希少種 (NT)	59	ソウシチョウ	特定外来生物
30	チュウサギ	希少種 (NT)			

(1) クマタカ (タカ目タカ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧IA類 (CR)

愛知県RDB2009：絶滅危惧IB類 (EN)

生息分布図



月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○

翼を広げると1.5mもある森林性の大型のタカで留鳥。標高300m以上の急峻な二次林か混交林に生息する。行動圏は5kmくらいで、中心部に営巣可能な大木があることが重要という。生息圏内には餌の狩場を有し、その良否がカギを握る。巣立ちした若鳥は親鳥が次の繁殖期を迎えるまでは、餌をもらい一緒に暮らす。最近はいい狩場が少なくなり、ヒナが成鳥になる率は低いという。餌はヤマドリ、キジ、コジュケイ、カラス、カケス、キジバト、ヒヨドリなどの大型の鳥類の他にノウサギ、ネズミ、モグラ、ヘビ、トカゲ、カエルなど、さまざまな生物を捕食する。

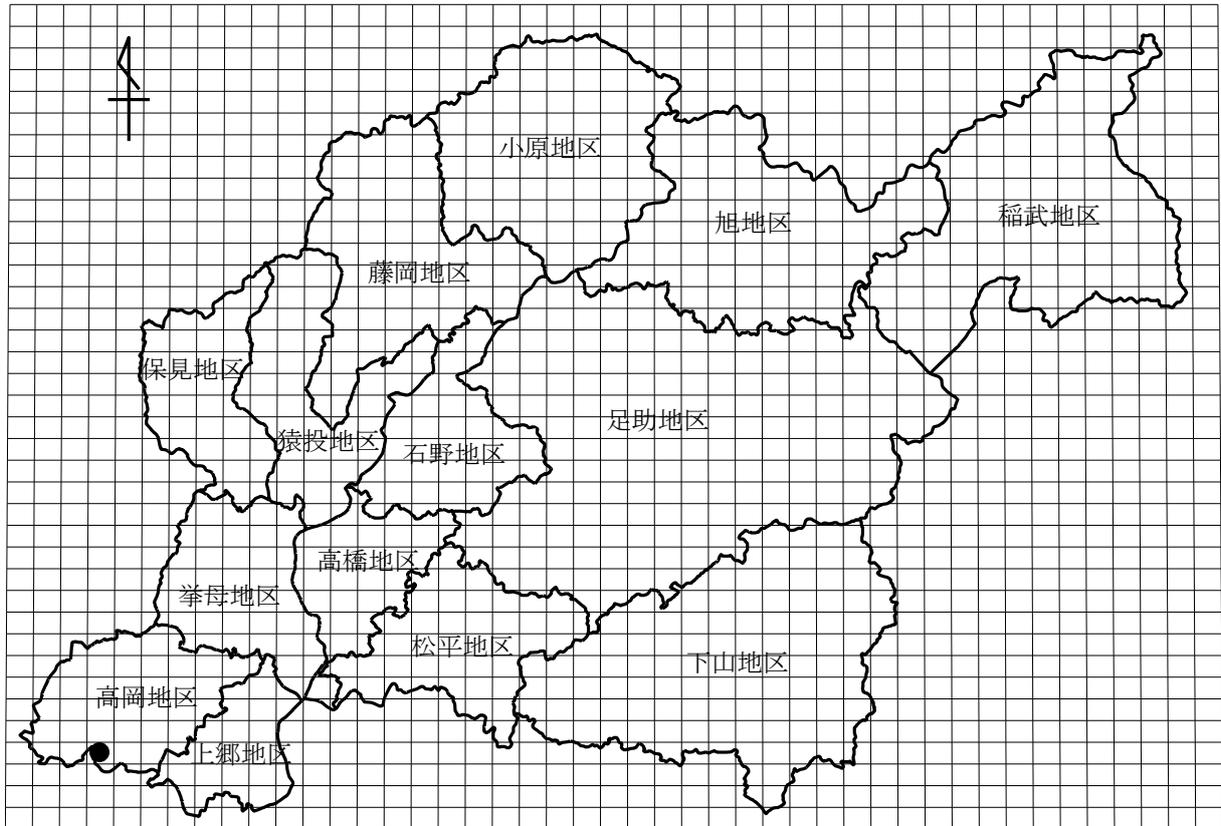
旧市域は低山でスギ、ヒノキの植林地が多く、本種の生息できる環境は無く、調査では全く確認できなかった。

新市域には、東部から北部の下山、足助、旭、稲武、小原にかけて、本種の好む標高が高く、急峻で植林されない二次林が多く、調査では数か所で飛翔個体を観察したが繁殖は確認できなかった。数は非常に少ない。



(2) コノハズク (フクロウ目フクロウ科)  
 豊田市希少種区分：絶滅危惧IA類 (CR)  
 愛知県RDB2009：絶滅危惧IA類 (CR)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
旅鳥										○		

愛知県の「県鳥」。ヒバリくらいの大きさで、5月頃に越冬地の東南アジア方面から渡ってくる。本市では繁殖記録は無く、渡りの途中に立ち寄る旅鳥である。秋には東南アジア方面に渡って越冬する。「ブッポウソウ」と繰り返して鳴く。日本に生息するフクロウの仲間では最も小さい。カナブン、セミ、トンボなどの昆虫類を主食とする。

本市では、1992年5月、松平地区の穂積町の神社の森で、しばらく滞在し、繁殖を期待されたが2週間くらいで鳴かなくなり、繁殖の確認はできなかった。秋、市街地で衰弱した鳥を拾うことがある。越冬地へ渡る途中に餌が捕れず衰弱したものである。

旧市域の調査で2003年10月に高岡地区の花園町で衰弱した1羽を保護、10日後元気になり放鳥した。記録はこの1件のみであった。

新市域はV字型の急峻な谷も多く生息を期待したが、全地区とも確認できなかった。

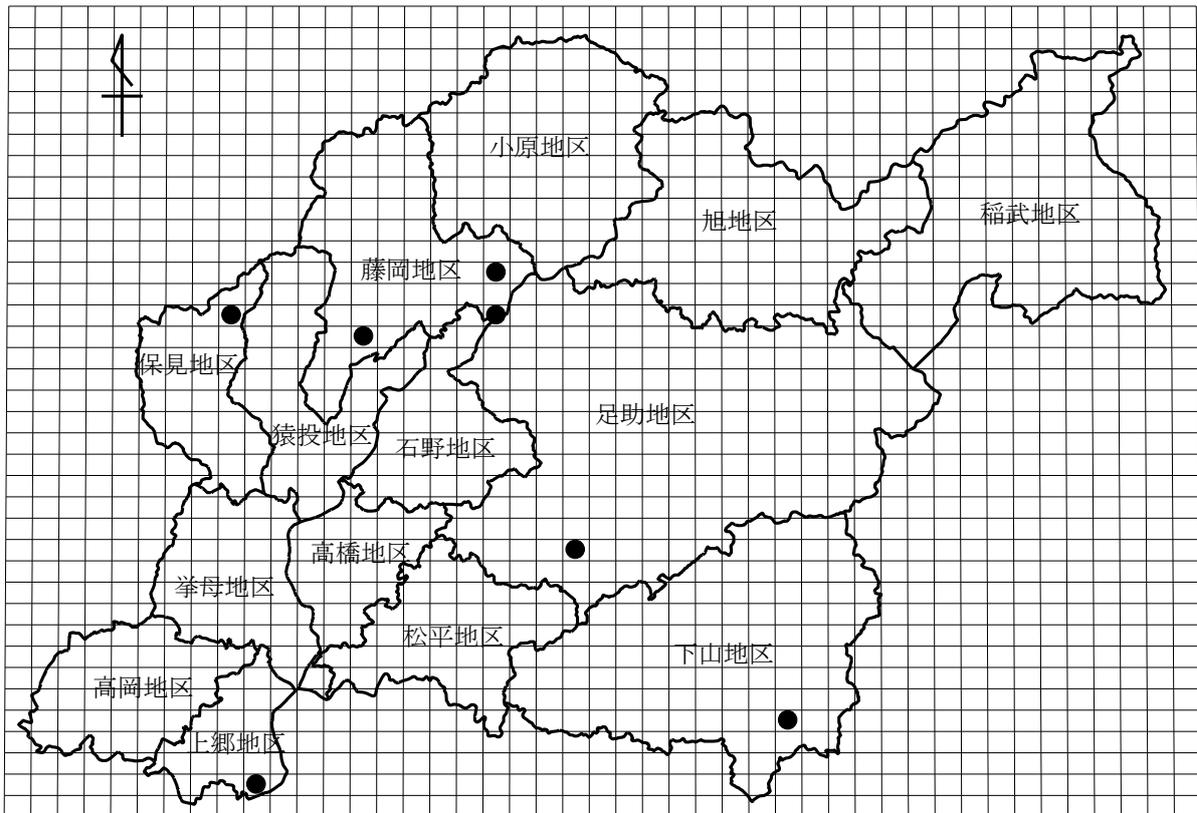


(3) ブッポウソウ (ブッポウソウ目ブッポウソウ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧IA類 (CR)

愛知県RDB2009：絶滅危惧IA類 (CR)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥					○	○	○	○	○			

キジバトより少し小さい。全身が青緑色で翼に白斑がある。足と嘴が赤くて目立つ。夏鳥として渡来し、水面が開けた池やダムの周辺を好む。枯れ木や電線に止まり、飛んでいるトンボ、セミ、コウチュウ類などを見つると素早く空中で捕える。穴の開いた枯れ木に営巣することが多いが、営巣木は減少している。他県では、巣箱架けの推進により復活に成功した例がある。



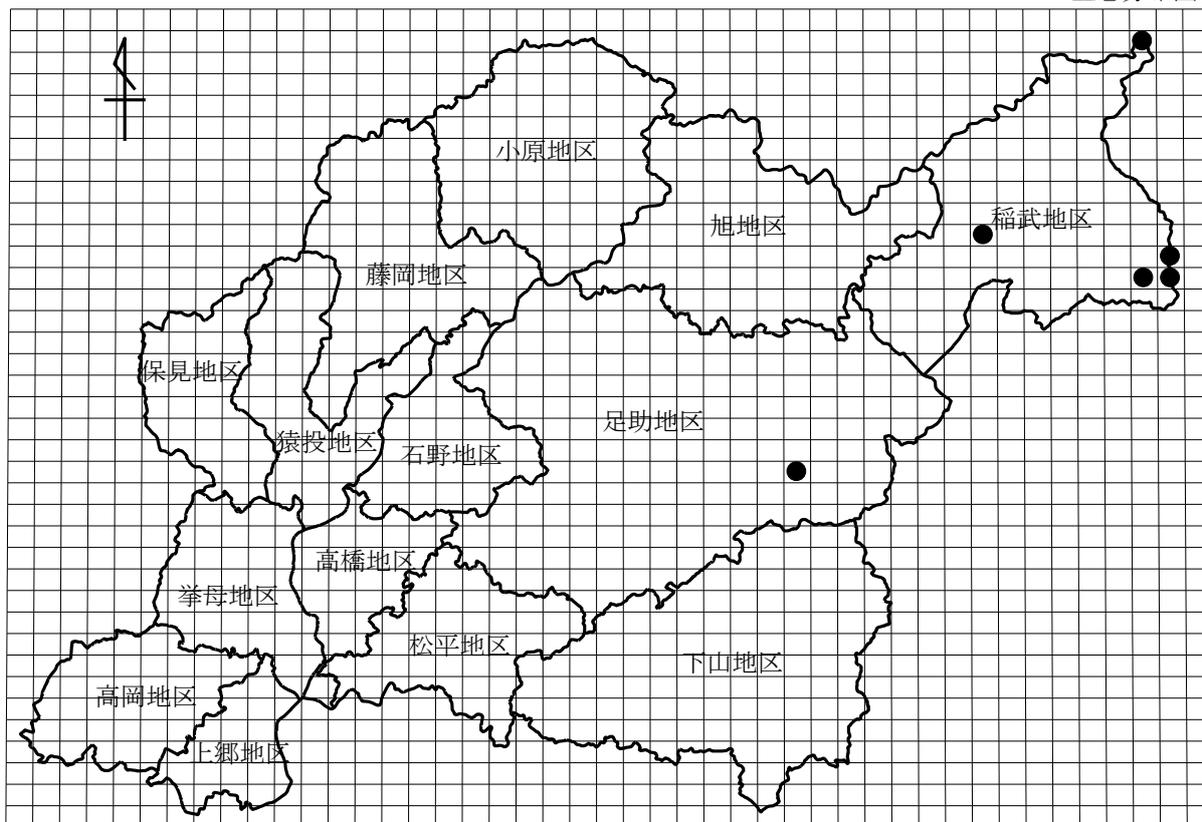
旧市域調査では全く記録されなかった。新市域の調査で藤岡地区の矢作川の周辺で2011年から4年連続で長期間観察された。また、2013年、2014年の2年続けて足助地区でも観察された。その他には2007年に上郷地区、下山地区、2008年に保見地区でも渡りの途中を観察している。渡来の時期は、いずれも5月下旬頃で、他の夏鳥に比べて遅い。夏になると幼鳥が加わった群が観察される。繁殖していると考えられるが確認はできなかった。

(4) キバシリ (スズメ目キバシリ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧IA類 (CR)

愛知県RDB2009：絶滅危惧IA類 (CR)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥			○	○	○		○			○		

標高1,000m以上の針葉樹林を好むキツツキに似た鳥で留鳥。大きさはスズメよりやや小さい。木の幹に縦に止まり、餌を探しながら螺旋状に登っていく。隣の木に移る時は根元に飛び移り再び螺旋状に登るといった特異な動きをする。

旧市域の調査では記録は出なかった。そもそも、記録を残すようにして45年になるが、1972年に六所山でただ1回記録されただけの貴重な種である。

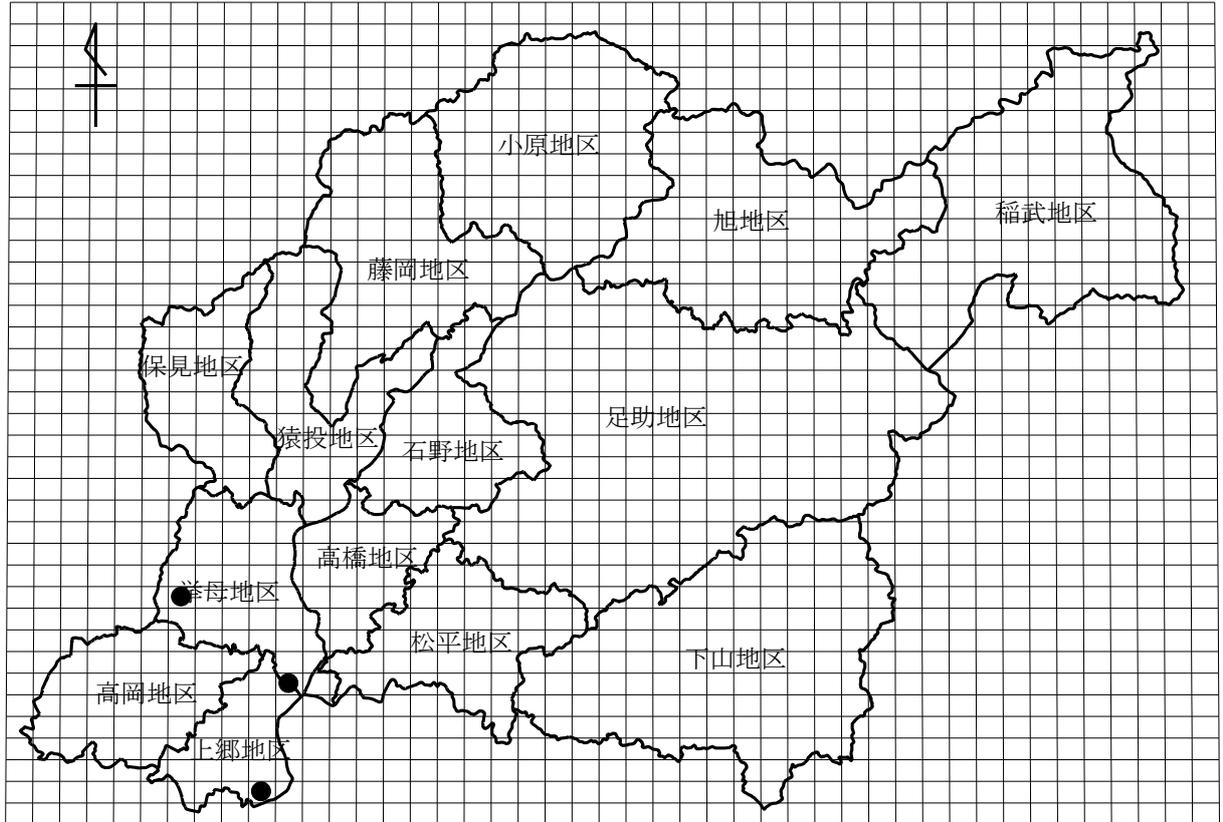
新市域の調査では、稲武地区の三国山と面ノ木や御所貝津の3か所で確認された。三国山は本市の最北端に位置し、岐阜県と長野県と愛知県の3県の境をなし、標高は1,162m。三国山での記録は山頂付近で2008年から2013年までの6年間に5回観察されたが、いずれも1~2羽である。一方、面ノ木では、2009年~2011年の3年続けて観察されたが観察場所は名大演習林、原生林である。

調査以外では2004年3月に足助地区金蔵連峠の杉林で1羽観察された。これが稲武地区以外で唯一の記録となった。



(5) ヨシゴイ (ペリカン目サギ科)  
 豊田市希少種区分：絶滅危惧IB類 (EN)  
 愛知県RDB2009：絶滅危惧IB類 (EN)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥						○	○			○		

サギの仲間では最も小さく、キジバトよりやや大きい夜行性の鳥である。夏鳥として東南アジア方面から渡ってきて、主にアシ原に生息するが、水田や湿地にも入る。昼間はアシ原の中に潜んで過ごし、夜、活動する。カエル、エビ、水生昆虫などを捕食する。近年、生息数が減ってきたのは、越冬地の東南アジアの湿地帯などの開発によるところが大きいと言われている。また、我々の周りでも、池の埋め立て、公園化などで、生息場所のアシ原は減っていく。アシ原が無いと生きられない鳥はヨシゴイの他にもたくさんいる。

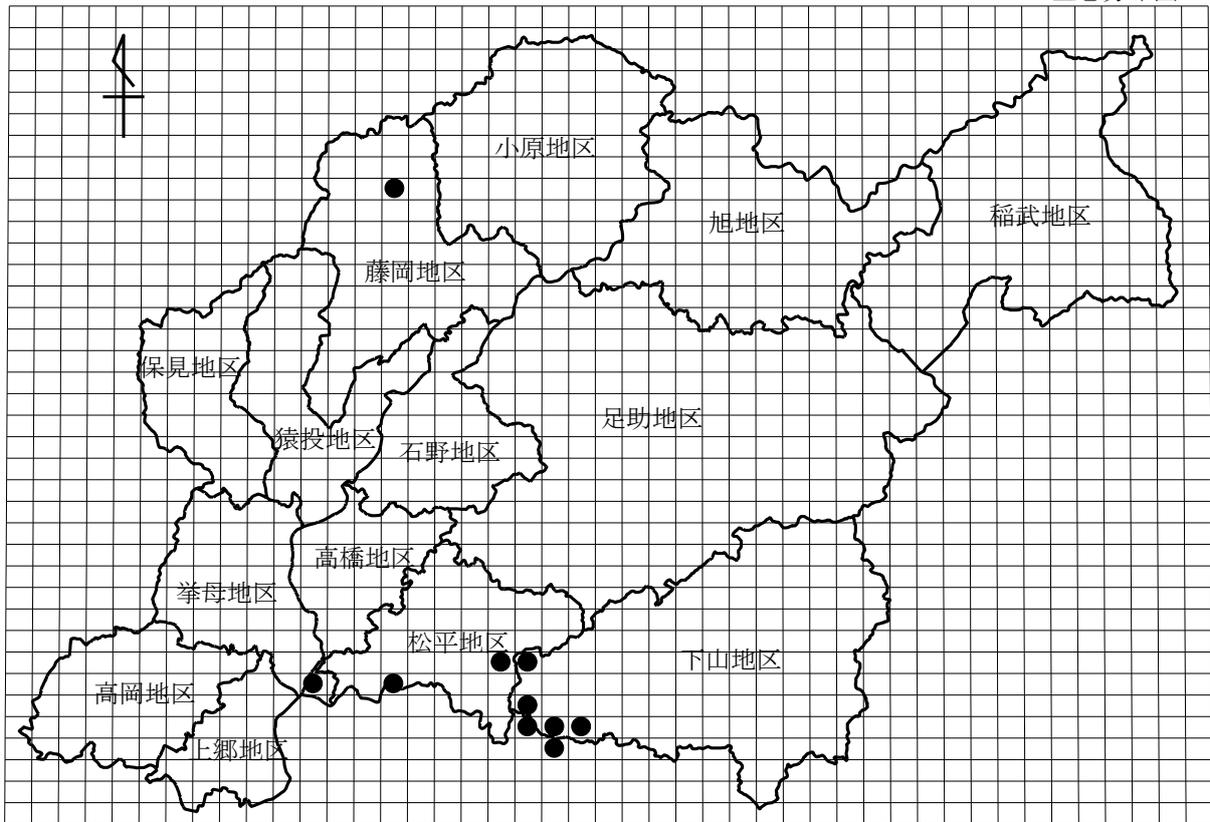


旧市域の調査では2001年挙母地区の河合町の河合池で、2003年に本新町の新池で各1羽、3年間でわずか2か所で確認されただけである。調査期間外では、前述の本新町の新池で2004年に1羽を確認、2007年に上郷地区の畷部東町柳川瀬公園で1羽、2014年に前述の本新町割目池で1羽観察された。

新市域は山間地で、ため池がほとんど無く、アシ原が少ないので、全く観察されなかった。

(6) ミゾゴイ (ペリカン目サギ科)  
 豊田市希少種区分：絶滅危惧IB類 (EN)  
 愛知県RDB2009：絶滅危惧IB類 (EN)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥				○	○	○	○		○	○		

森林性のサギで、カラスより少し小さい。夏鳥としてフィリピン、台湾方面から渡ってきて山間の薄暗い広葉樹の林でひっそりと暮らす。夜行性といわれるが、昼間でも主食のミミズ、サワガニ、カタツムリ、カワニナなどを求めて沢筋や林の地面で餌を探す。夜は遠くの餌場に行くという。繁殖は韓国、台湾に僅かな記録があるが、ほとんどが日本で繁殖する。近年、著しく減少し、愛知県のRDBではENにランク付けされている。里山の荒廃が減少の一因とも考えられる。

旧市域の調査では観察されなかった。

調査以外では2004年4月と2011年4月に高橋地区琴平町で1羽、松平地区では2010年9月に松平町で、2012年6月には桂野町で各1回記録した。また、2014年4月から6月にかけて高橋地区渡合町で長期間観察された。

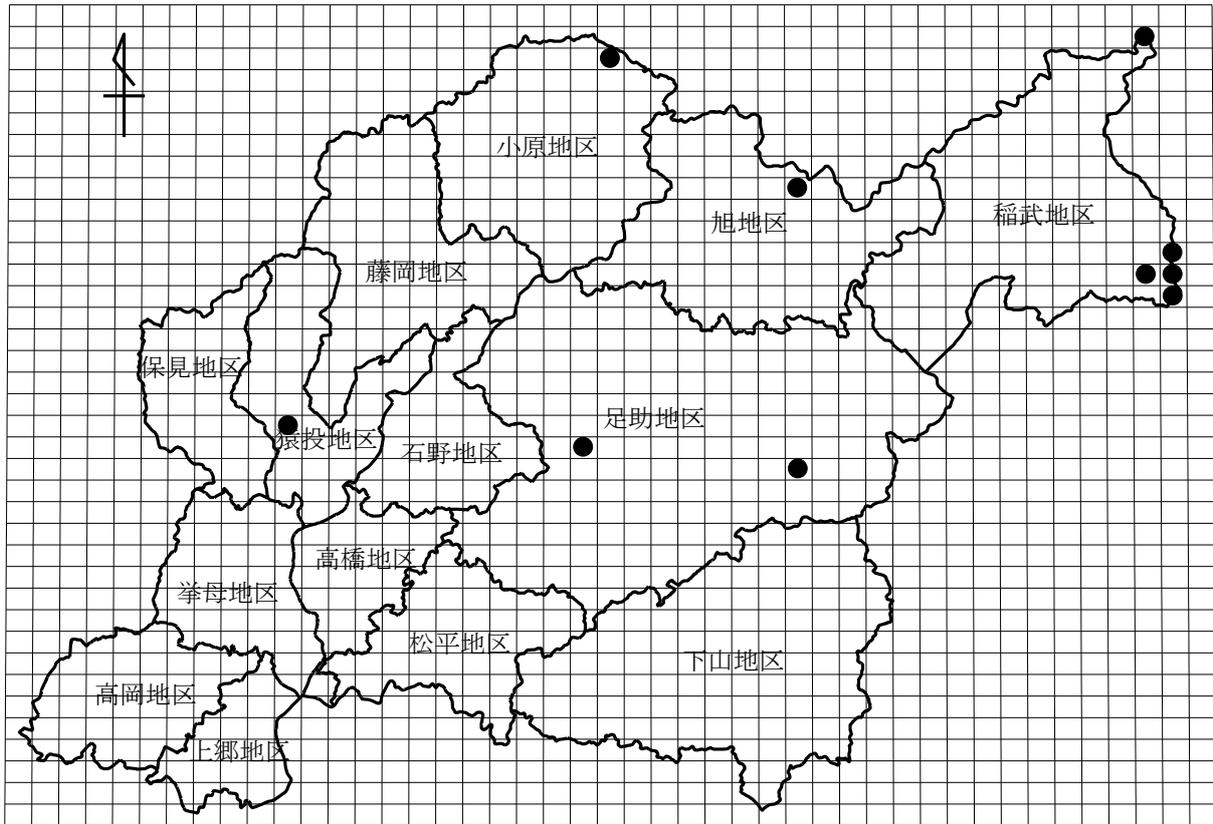
新市域の調査では、下山地区東部で2009年から2013年までの5年間観察された。他では2012年10月に藤岡地区石畳町の山林で、ただ1回観察されただけである。



(注)  
 生息分布図には表していないが、高岡地区で2004年、2011年に、足助地区で2008年に確認している。

(7) ジュウイチ (カッコウ目カッコウ科)  
 豊田市希少種区分：絶滅危惧IB類 (EN)  
 愛知県RDB2009：絶滅危惧II類 (VU)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥					○	○						

新緑の頃、東南アジア方面から渡ってくる夏鳥で、他の鳥に託卵するカッコウの仲間である。やや、標高の高い落葉広葉樹林を好み、主にコルリ、オオルリに託卵する。鳴き声は澄んだ大きな声で、「ジュウイチ、ジュウイチ…」と繰り返して鳴く。鳴き声からジュウイチと名付けられたという。渡りの時期には低山でも観察される。カッコウの仲間は姿がよく似ているが、鳴き声が全く違うのは、種の交雑を防ぐためだという。

旧市域の調査では全く確認されなかった。調査以降2013年5月猿投地区亀首町で確認された。

新市域の調査では、稲武地区の面ノ木周辺の4か所で記録された。また、2008年6月に大野瀬町池ヶ平で確認された。稲武地区以外では2008年5月に小原地区大ヶ蔵連町で、2009年5月に旭地区時瀬町城山森林公園、同6月に足助地区近岡町で各1回観察されただけである。

調査以外では2001年、2002年に御内町金蔵連にて確認している。



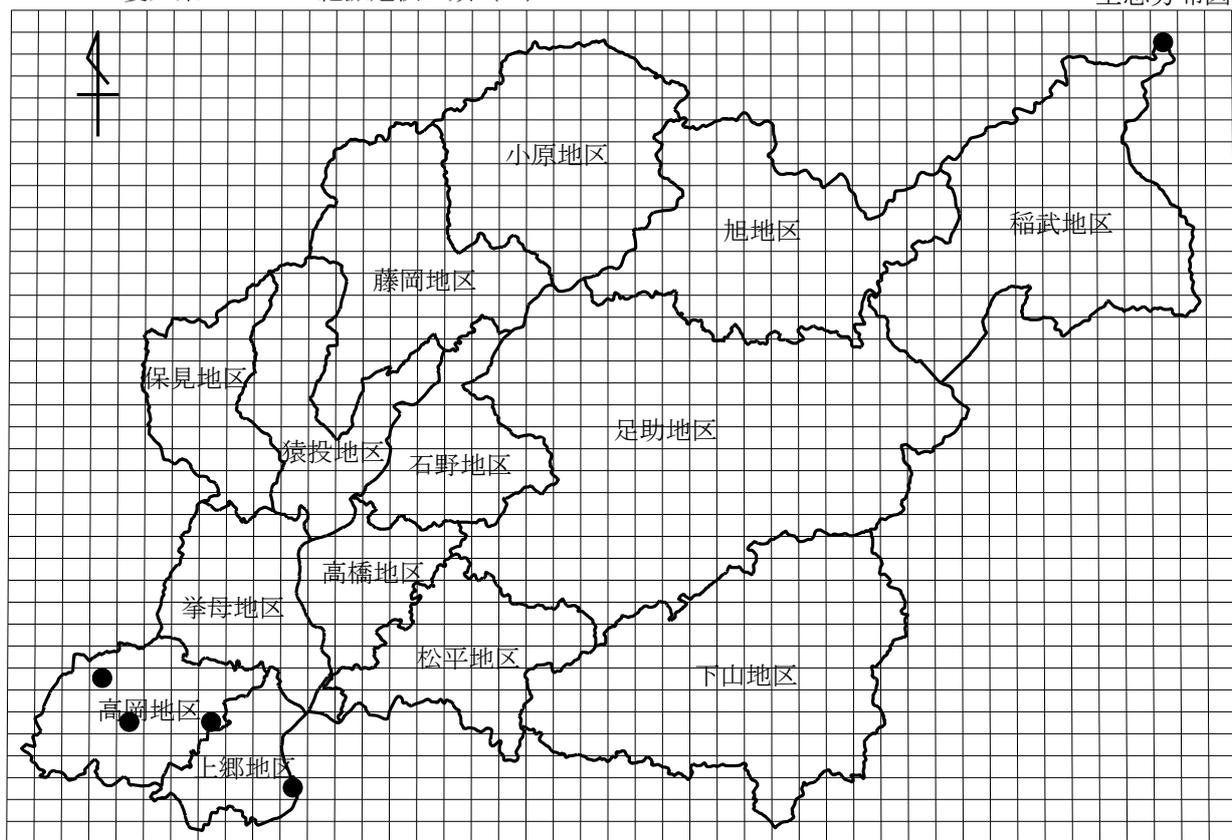
(幼鳥)

(8) オオジシギ (チドリ目シギ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧IB類 (EN)

愛知県RDB2009：絶滅危惧IA類 (CR)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
旅鳥				○	○					○		

ヒヨドリより少し大きい。嘴は長く、尾が短い。シギの仲間、ほぼ日本でのみ繁殖している。中部地方以北の高原で繁殖し、オーストラリアで越冬する。本市では春秋の渡りの途中に立ち寄る旅鳥。30年ほど前には、稲武地区の池ヶ平で繁殖期に本種独特のディスプレイフライトが見られた。最近では観察すら難しくなってきた。一方、南部の上郷地区、高岡地区の広大な水田に春秋の渡り途中に多種のシギ・チドリが立ち寄り、採餌、休息していくことが15年ほど前に分かり、以来、春秋の渡りの時期の観察が定着し、貴重な記録が蓄積されている。オオジシギも数は少ないが観察されている。



旧市域の調査では3年間で4回、高岡地区で観察された。中町と堤本町で各1回、若林西町で2回で、数は1~3羽であった。他に、調査以外の記録で、上郷地区の畝部東町で1羽観察された。全て水田である。

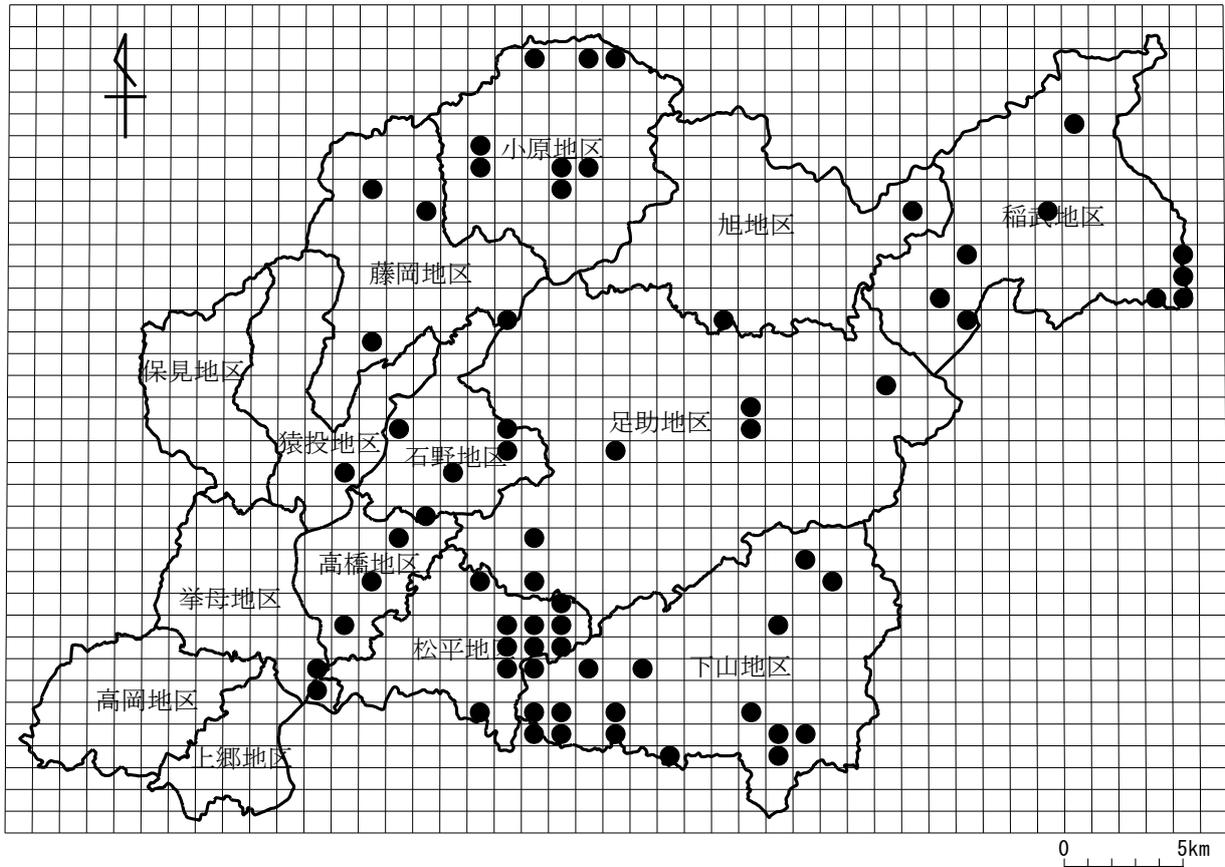
新市域の調査では各地区とも確認できなかったが、調査以前の2005年4月と5月に稲武地区の池ヶ平で各1羽観察されていた。

(9) ハチクマ (タカ目タカ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧IB類 (EN)

愛知県RDB2009：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥				○	○	○	○	○	○	○		

4月～5月にかけて渡来するトビぐらいのタカで夏鳥。地中に巣を作るクロスズメバチ（当地ではへボと呼ぶ）の巣を掘り出して幼虫を食べる。他にネズミなどの小さな哺乳類、へび、トカゲ、カエルなどを捕食する。林縁から少し入った林で繁殖する。

9月中旬頃から越冬地の東南アジアに向けての渡りが始まる。信州の乗鞍岳に近い白樺峠（標高1,200m）は、本種をはじめ多種のタカの渡りが間近で見られるポイントとして知られている。愛知県では伊良湖岬が有名。

旧市域の調査では、ほとんどが六所山の周辺の松平地区で観察された。他では猿投山周辺、石野地区の千鳥町、高橋地区の矢並町などで観察された。

市街地に近い京ヶ峰、五ヶ丘、宮前町などでも観察された。本種の行動半径は広く、遠方まで採餌にでかける。

新市域の調査では全地区で確認された。下山地区では繁殖も確認された。



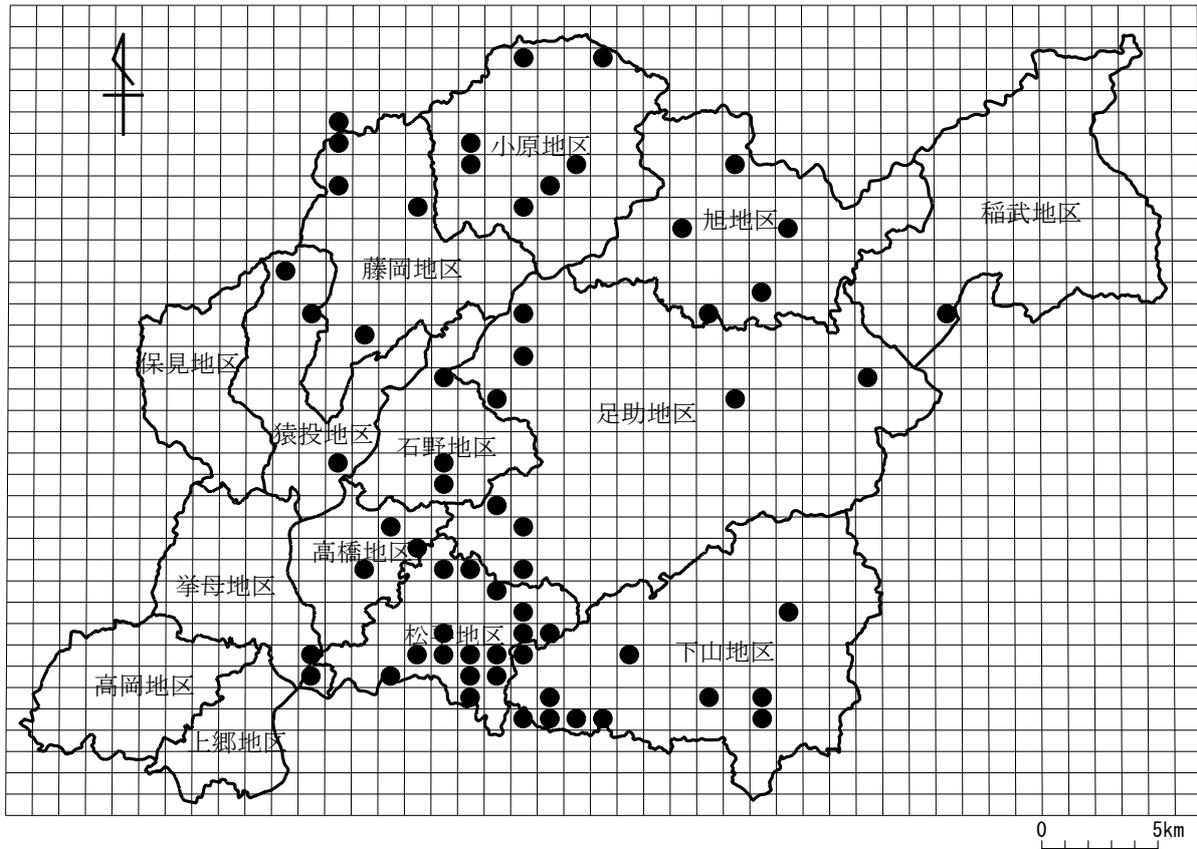
(注)  
生息分布図には表していないが、保見地区で2001年に確認している。

(10) サシバ (タカ目タカ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧IB類 (EN)

愛知県RDB2009：絶滅危惧II類 (VU)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥				○	○	○	○	○	○	○		

夏鳥で、4月の初旬頃に里山に渡来する。カラスくらいの大きさのタカで、山間の棚田と里山がセットであることが繁殖の条件である。林縁の枯れ木に止まり、田の畦のヘビ、カエル、バッタなどを見つけると、飛び込んで素早く捕える。サシバは里山を象徴する鳥である。しかし、今は、効率の悪い棚田は休耕田となり、薪が不用となった里山は荒廃し、サシバの生息する環境は危機的状況にある。

旧市域の調査記録は松平地区が圧倒的に多い。棚田と里山の環境が多いためである。高橋地区も東部の矢並町、琴平町など山合いの好環境が残っており、記録も出ている。他では石野地区の山中町、千鳥町、富田町などで記録した。

新市域の調査では各地区で観察されたが里山環境が少ないため、記録は少ない。



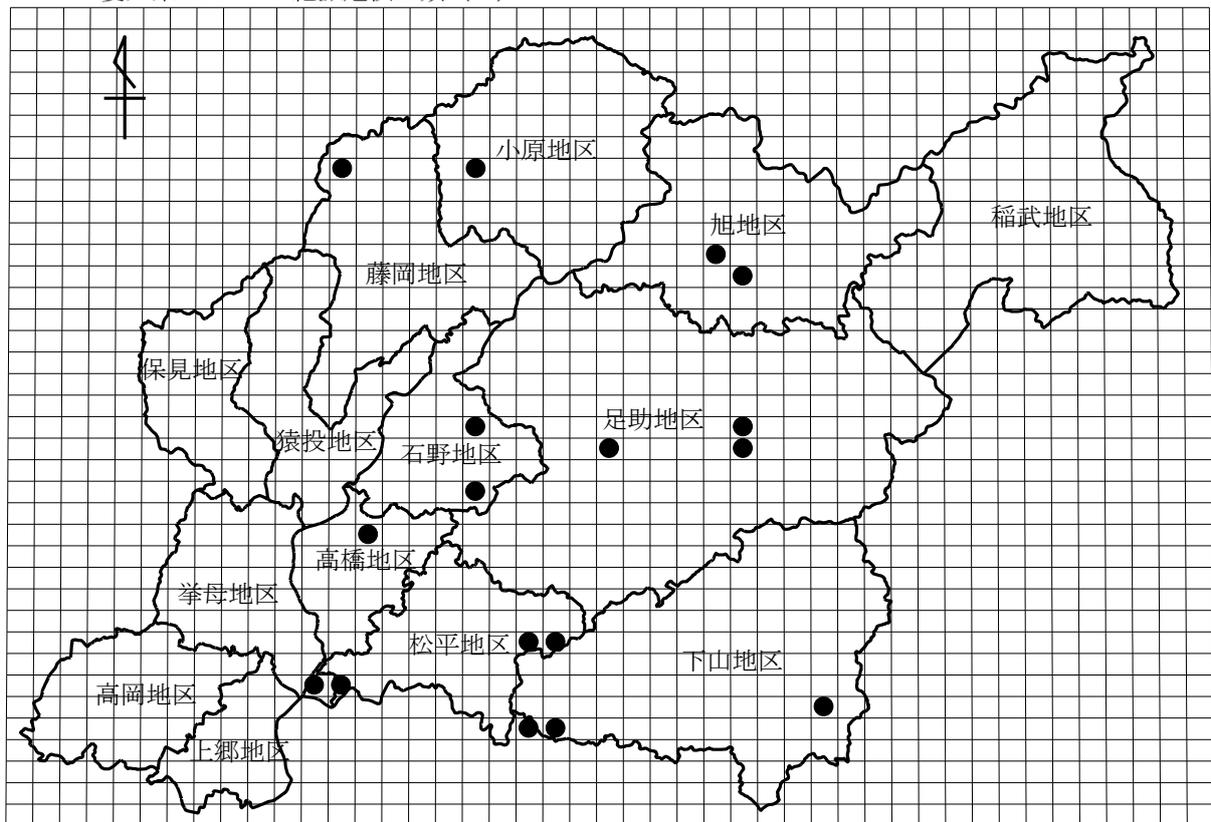
(注)  
生息分布図には表していないが  
保見地区は2002年に確認している

(11) アカショウビン (ブッポウソウ目カワセミ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧IB類 (EN)

愛知県RDB2009：絶滅危惧II類 (VU)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥				○	○	○	○					

体全体が鮮やかな赤褐色で、嘴、足も赤いヒヨドリくらいのカワセミの仲間である。5月の始め頃に渡ってくる夏鳥だが、本市での繁殖記録は少なく、繁殖地へ渡る途中の個体が多いようだ。食性はサワガニ、カエル、ムカデ、カタツムリなど、沢沿いの湿った所が餌捕り場である。渡ってきたころは大きな声で「キョロロロー」と繰り返し鳴く。一度聞いたら忘れられない。

旧市域の調査では、2002年6月に松平地区六所山で2羽観察され、その後繁殖も確認された。2003年4月に高橋地区琴平町で1羽の2か所での記録であった。

新市域の調査では、5地区10か所で記録した。下山地区の羽布町では2011年～2013年、3年連続確認した。足助地区の川面町では2010年と2011年、2年続けて確認をしている。他では旭地区で2か所、藤岡地区と小原地区で各1か所確認された。

調査以外では足助地区香嵐溪、石野地区城見町、山中町、旭地区杉本町などで確認されている。

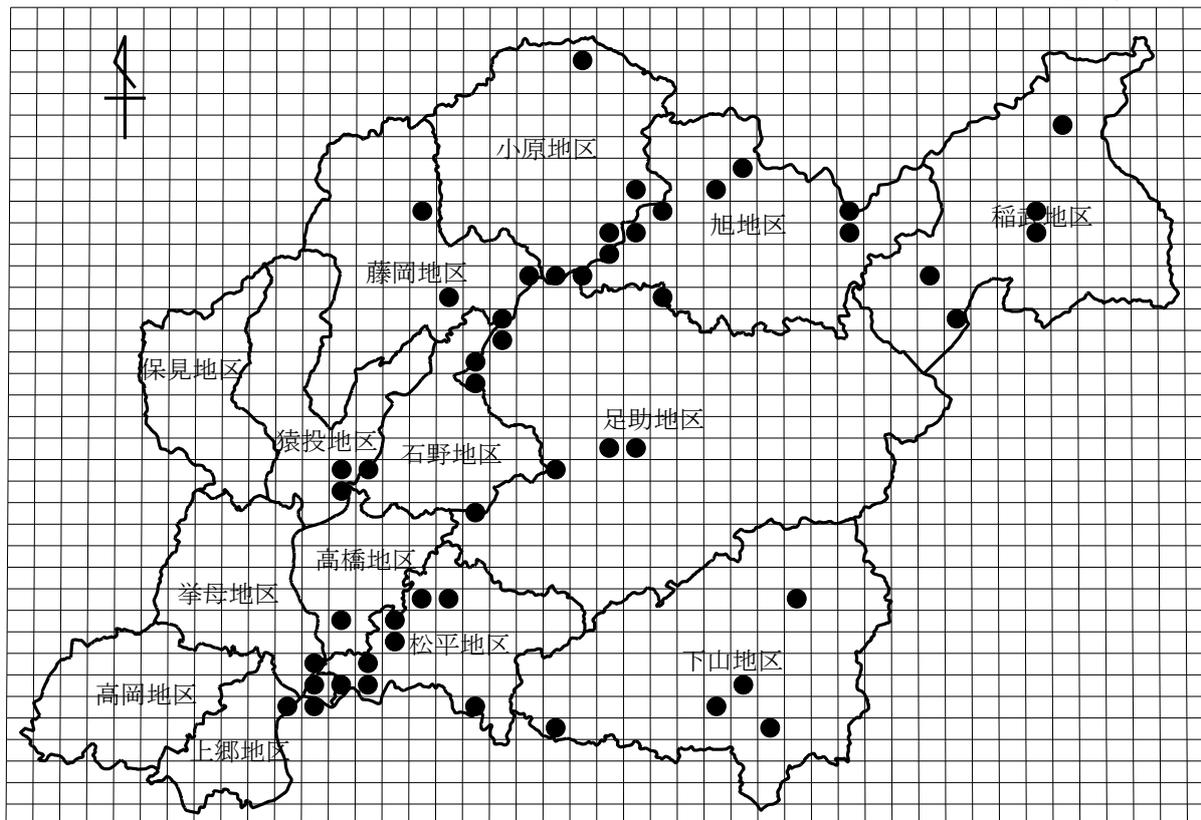


(12) ヤマセミ (ブッポウソウ目カワセミ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧IB類 (EN)

愛知県RDB2009：絶滅危惧IB類 (EN)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

キジバトよりやや大きい。カワセミの仲間では最も大きく、頭の冠羽が目立つ。留鳥で山地の河川の清流域に生息する。冬期は下流へ移動する個体もある。大型で恰好もいので、野鳥愛好者の憧れの鳥である。本市には矢作川と巴川のその支流、郡界川などがあり、県内で最もヤマセミが多い所とされているが、近年、減少傾向にある。主食は魚である。

旧市域の調査で観察された場所は、矢作川では巴川との合流点付近、水源、平戸橋、西広瀬、富国橋。巴川では、細川ダム、九久平、滝穂橋の記録が多い。支流の犬伏川、飯野川、郡界川などの記録はあるが少ない。

新市域の調査では25か所の観察記録があった。観察場所は特に矢作川上流が多かった。

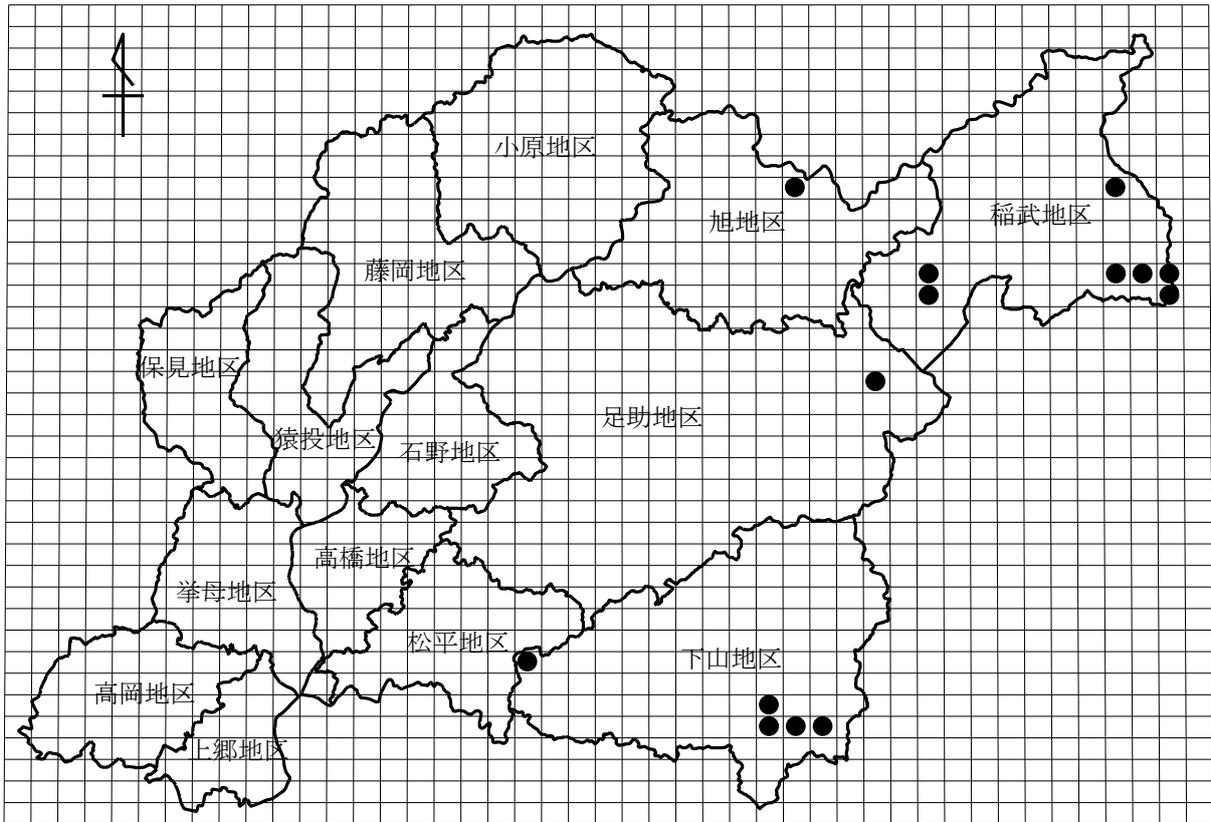


(13) オオアカゲラ (キツツキ目キツツキ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧IB類 (EN)

愛知県RDB2009：絶滅危惧IB類 (EN)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥	○			○	○		○	○	○	○	○	

ヒヨドリくらいの大きさで留鳥。標高の高い落葉広葉樹の林に生息するが、極めて少ない。

少し小型で、羽色もよく似たアカゲラは、低地から高地まで広く生息しているが、本市におけるオオアカゲラは標高1,000mくらいの高地で観察される。主食となる木の幹や枝に潜む昆虫を探し出し、嘴で掘り出して食べる。時には木の漿果

(しょうか) も食べる。枯れ木に穴を掘って営巣する。

旧市域の調査では全く確認できなかった。

新市域の調査では旭、稲武、下山の3地区で確認された。稲武地区では面ノ木が圧倒的に多く、他では富永調整池、林道野入月ヶ平線などである。

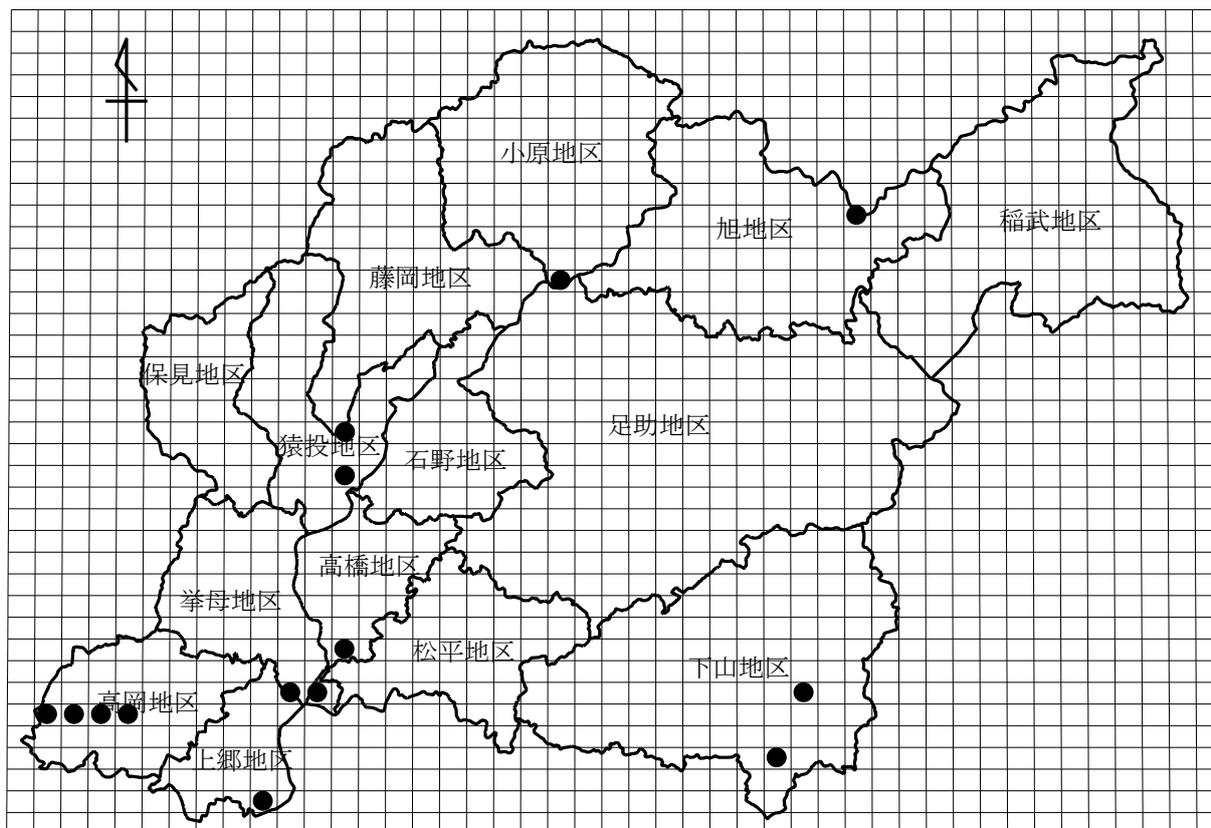
下山地区では六所山南麓、羽布林道、旭地区では城山森林公園で確認された。

調査以外の記録では、2006年1月足助地区伊勢神高原で1羽観察されている。非繁殖期では標高の低いところにも移動するようだ。



(14) ハヤブサ (ハヤブサ目ハヤブサ科)  
 豊田市希少種区分：絶滅危惧IB類 (EN)  
 愛知県RDB2009：絶滅危惧IB類 (EN)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○			○		○	○				○	○

キジバトより少し大きい。昔、オオタカとともに鷹狩りに使われた。飛翔力が強く、主に小鳥類を主食にしている。冬鳥として海岸、河口、湖沼など開けたところで狩りをすることが多いが、近年、市街地周辺で冬を越すものも出てきた。本来は、春には北の繁殖地へ帰るのだが、日本に残って繁殖するものが増えてきた。愛知県でも少数が繁殖している。本市でも近年繁殖期に観察されるようになったが、今のところ繁殖は確認されていない。

旧市域の調査では2001年4月に上郷地区畷部東町、2001年6月に猿投地区の高町、高岡地区では2003年1月に若林西町、12月に中田町で確認した。

また、調査以外では挙母地区、高橋地区で矢作川橋の橋梁で同一個体と思われるものが矢作川を挟んで最大2羽、2011年～2015年に何度か確認している。

新市域の調査では2009年12月小原地区の百月町で、2010年1月に旭地区の小滝野町、2013年11月下山地区和合町で観察された。

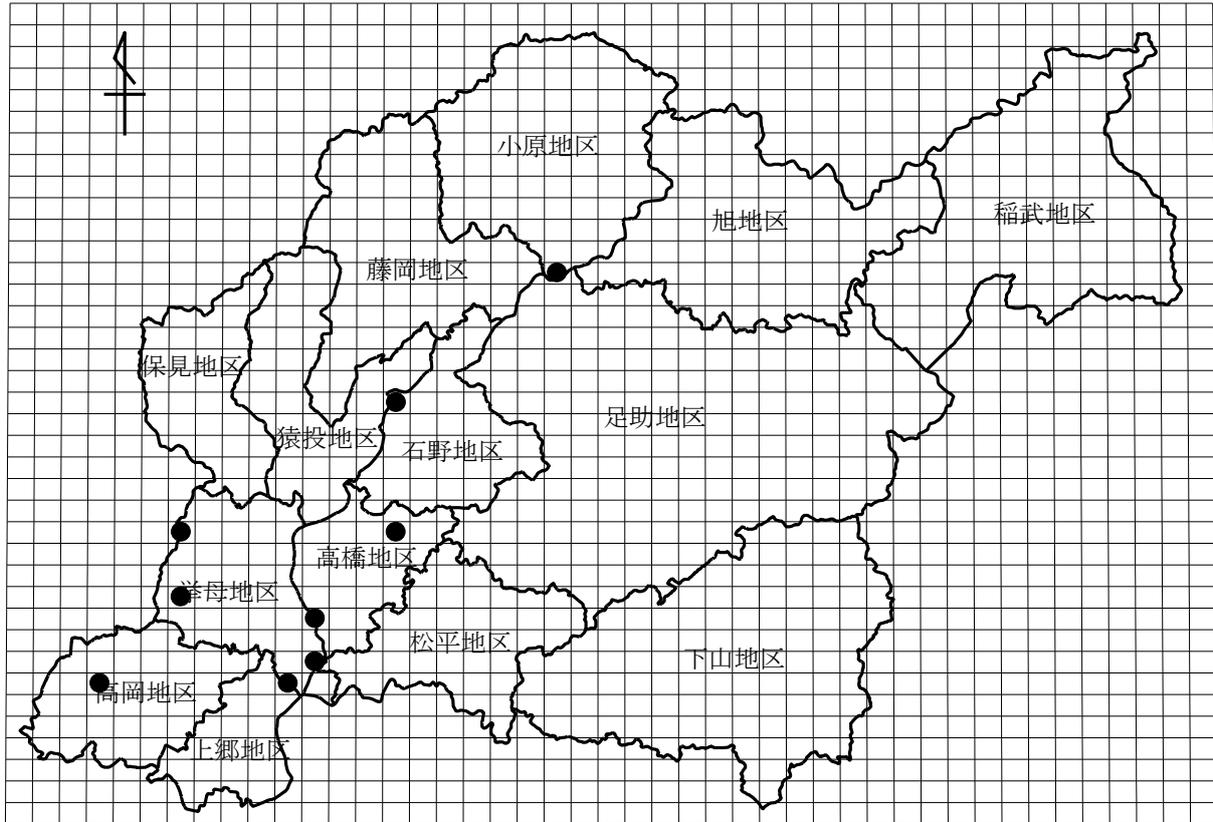


(15) トモエガモ (カモ目カモ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

愛知県RDB2009：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○									○	○

小型のカモで大きさはオンドリくらい。冬鳥として日本全土に渡ってくるが日本海側に多い。池、河川に他のカモに混ざっていることが多いが数は少ない。オスの顔には巴形の特徴のある斑紋があり、派手な顔をしている。

旧市域の3年間の調査では挙母地区の河合池、孫目池、水源ダム、秋葉町の矢作川で観察されたがいずれも1~3羽であった。

6年間の新市域調査では全く確認できなかった。

調査以外の旧市域では挙母地区で2011年2月に本新町の割目池で14羽、12月に水源ダム下流で2羽確認している。高橋地区では2001年1月と2010年11月に鞍ヶ池で1羽、2005年12月と2006年1月に高橋地区宮前町の矢作川で2羽確認している。また、石野地区石野町の矢作川で2001年2月に10羽確認している。2015年1月には高岡地区前林町の立塚池で1羽確認している。

新市域では2015年1月に小原地区百月町の矢作川で1羽確認している。



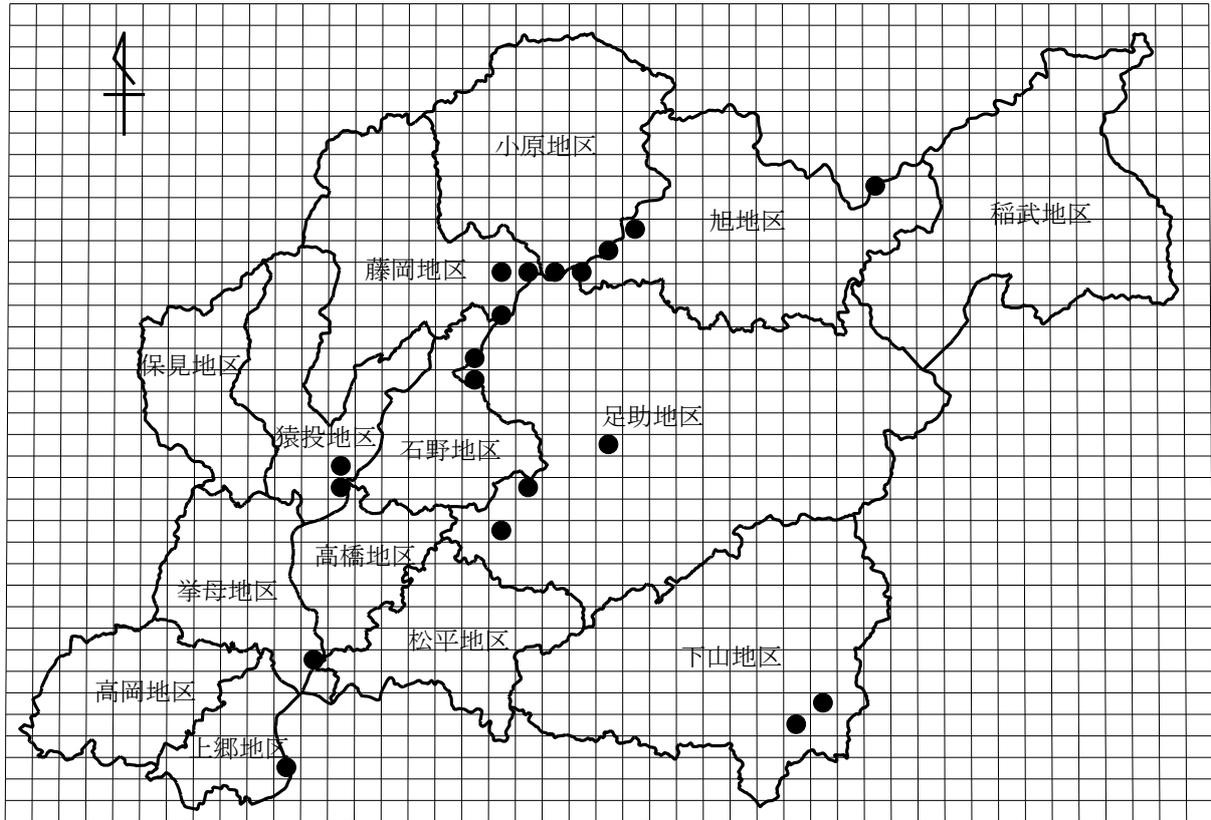
(注)  
生息分布図には表していないが  
高橋地区で2003年に確認している

(16) カワアイサ (カモ目カモ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

愛知県RDB2009：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○	○		○		○		○		○	○

カモの仲間でカラスより大きい。冬鳥として渡来し、川幅の広い河川、ダムなどで小群で行動する。潜水が得意で潜って小魚を捕食する。狩猟鳥になっている。当地では矢作川と巴川があるが川幅の広い矢作川に多く渡来する。巴川でも時々記録される。

旧市域の調査では、平戸橋付近の矢作川で2002年12月～2003年1月に3回記録した。2014年度の補足調査で、2015年2月に上郷地区畝部東町の矢作川で2羽を記録。

新市域の調査では小原地区矢作川の百月ダムで5回、周辺の藤岡地区上川口町、下川口町、足助地区月原町、阿摺ダムでも観察された。巴川では、香嵐溪のすぐ下流で2回、田振橋の下流で1回観察された。冬鳥であるが、2009年7月と2011年9月に越夏個体を記録した。

調査以外では挙母地区の水源地ダム下流で2010年、2011年、2012年、2014年に多いもので5羽確認している。

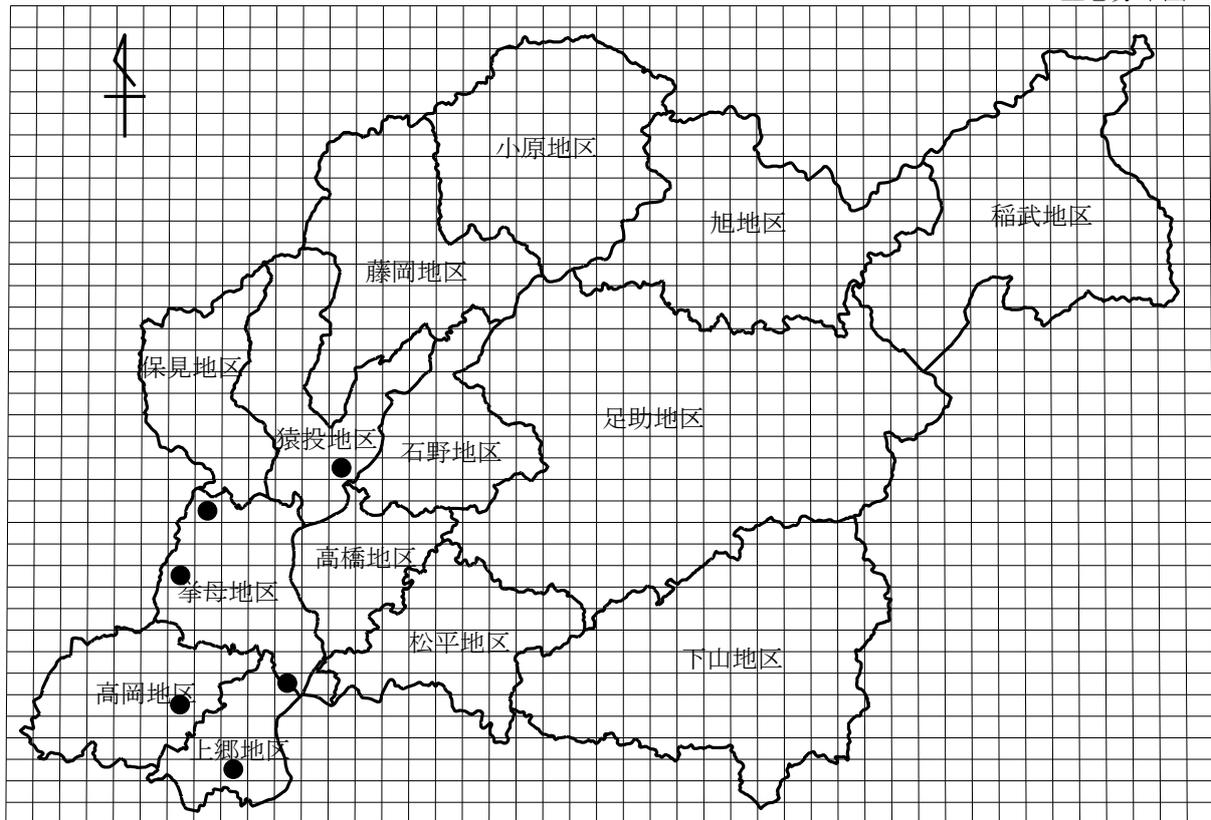


(17) クイナ (ツル目クイナ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○	○			○						○

ヒヨドリより少し大きい。冬鳥として渡来、昼間は沼地のアシ原で過ごし、夜に水田、湿地、水路、河河畔、池畔などで採餌する。カエル、エビ、貝、昆虫などの小動物を食べる。冬は小動物が少ないので、餌探しは容易でない。夜行性で警戒心が強く、忍者のような生活をしているので見つけにくい。本種の仲間のヒクイナ、バンなどのクイナ類はアシ原が無いと生きていけない。そのアシ原が埋め立てや公園改修などで減少し、クイナ類の減少も目を引くようになった。

旧市域の調査ではわずか4回の記録であった。2002年拳母地区大池町の汐取池で1羽、2003年12月～2004年1月までに3回、拳母地区河合町の河合池で各1羽観察。2か所のみでの記録である。

新市域の調査では記録されなかった。山が多く水田は少ない。沢水が豊富で、ため池は皆無いに近い。沼地や湿地も少ないのでアシ原は少なく、本種の生息は難しい。

調査以外では2009年1月に拳母地区西新町で、同2月に猿投地区平戸橋上流で、2011年3月に高岡地区中町で、2011年6月に拳母地区丸山町で、2011年12月上郷地区榎塚西町で確認している。

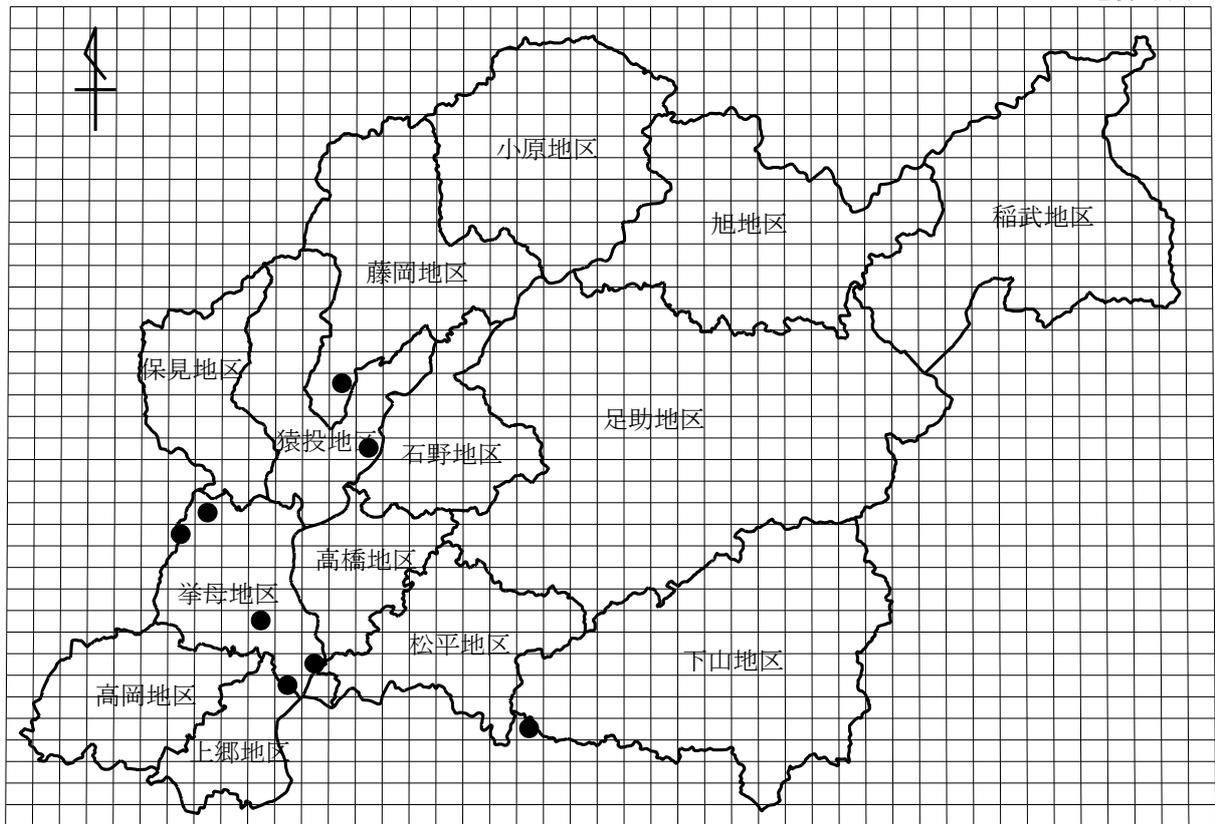


(18) ヒクイナ (ツル目クイナ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

愛知県RDB2009：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥		○			○	○						

夏鳥として渡来する。水田、池、河川、湿地などのアシ原が棲みか。ハトぐらいの大きさの鳥で暗褐色で足は赤い。カエル、ザリガニ、貝類、バッタなどの小動物を捕食する。繁殖は身を隠すことができるアシ原。夜行性で夜にはアシ原を出て採餌活動をする。生活の拠点のアシ原は開発的になり易く、減少の一途でアシ原をすみかとする本種の外、クイナ、バンなどのクイナ類、ヨシゴイ、ゴイサギなどのサギ類の減少が目立つ。

旧市域の調査では2002年6月に挙母地区大池町の鉛池のアシ原でただ1回記録したのみである。

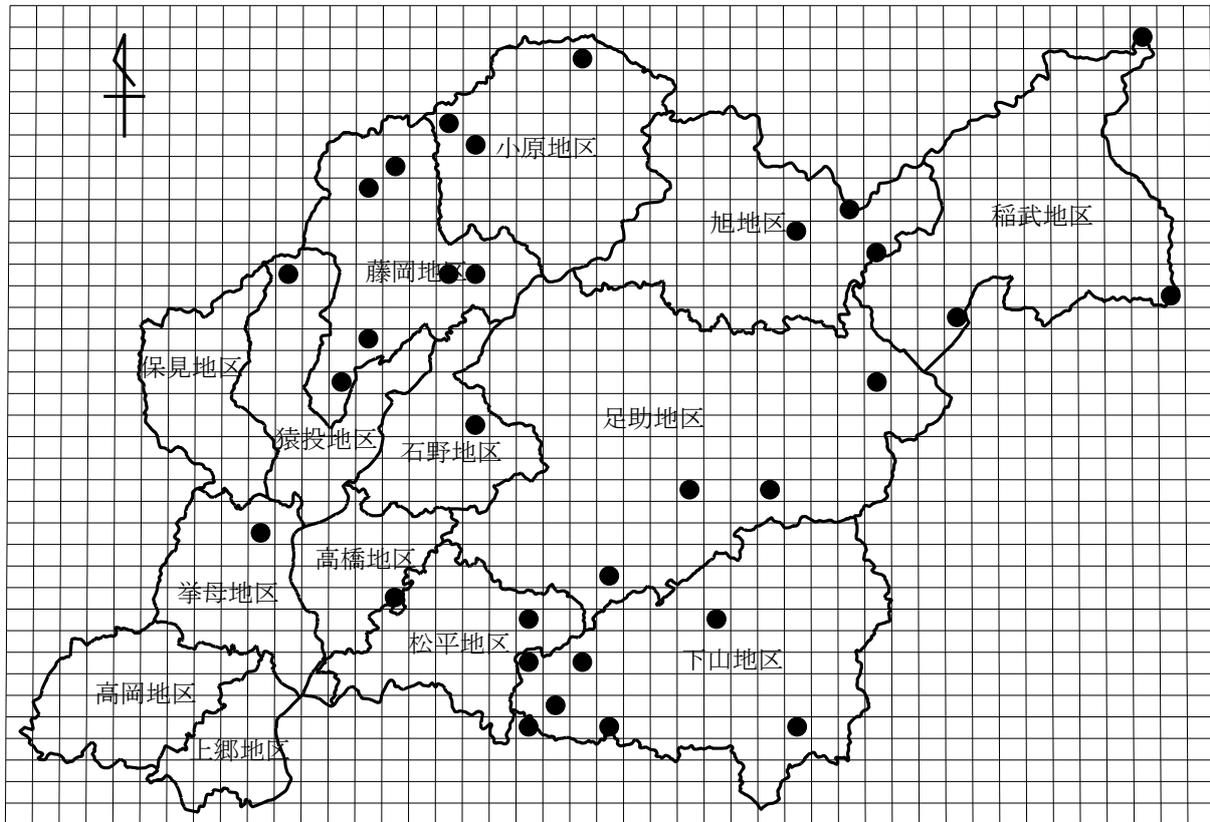
新市域の調査では2013年5月に下山地区の蕪木町で1羽確認したのみである。

調査以外では旧市域で2009年～2013年に挙母地区河合池と丸山町、御幸町の水田で記録された。川では2013年水源ダム下流で、2012年猿投地区御船町の御船川で記録。いずれの記録も1羽だった。新市域では2015年2月に藤岡地区西中山町山田川で1羽確認している。



(19) ヨタカ (ヨタカ目ヨタカ科)  
 豊田市希少種区分：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)  
 愛知県RDB2009：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥				○	○	○	○	○				

全身が枯葉に似た模様でヒヨドリより少し大きい。夏鳥として渡来。名前のごとく夜行性の鳥。羽根はフクロウ類のように柔らかく、羽音を立てずに飛翔することができる。がま口のような大きな口をあけて飛行中の昆虫類を捕食する。本種は里山を好むが、山が手入れされずに放置されるようになったことが、少なからず減少の原因と思われる。反面、公園などの街路灯や、防犯灯に集まる蛾や甲虫などの昆虫を捕食する光景が見られるようになった。

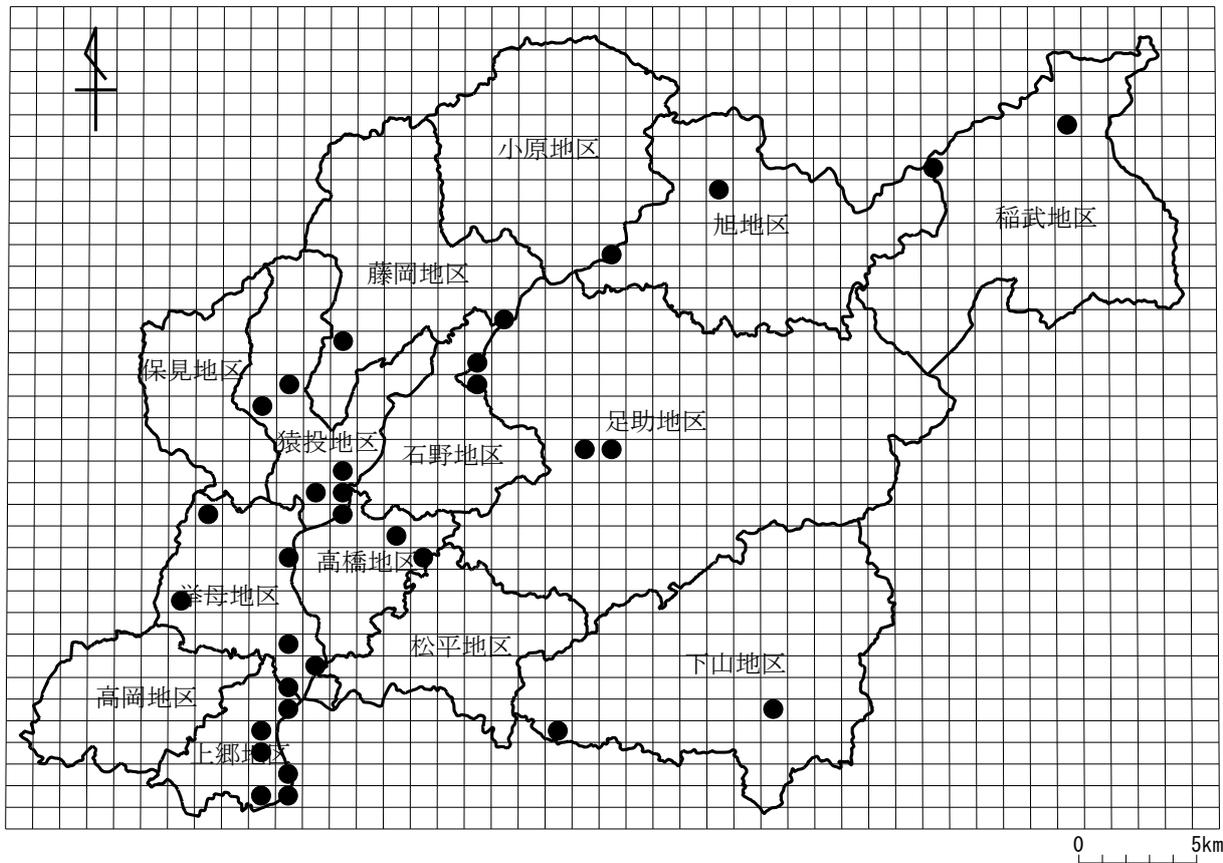


旧市域の調査では六所山麓、古瀬間墓地公園、猿投山の3か所で確認したのみ。

新市域の調査では、6地区それぞれで確認されたが少ない。ヨタカは里山の二次林を好み、以前は地面の松葉の上にくぼみを作っただけの粗雑な巣で抱卵する親鳥を何度も見たが、今では全く見られなくなった。本市ではマツクイムシによる松枯れで低山の松は全滅に近く、この影響も大きいと考えられる。

(20) イカルチドリ (チドリ目チドリ科)  
 豊田市希少種区分：絶滅危惧II類 (VU)  
 愛知県RDB2009：絶滅危惧II類 (VU)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

川原や水の少し入った田んぼ，干上がった池などでよく見かける。大きさはムクドリよりやや小さい。留鳥。河川の中流域より上流で，小石や砂の河原で最もよく見かける。地上に少し窪みを作っただけの簡単な巣を作り抱卵する。4，5羽の群れかペアで行動していることが多い。

旧市域の調査では矢作川の水源ダムの下流，千石公園付近，平戸橋の下流などで記録が多い。加納町の籠川の川原，水を抜いた大池町の鉛池などで記録した。上郷地区の水を張った水田，猿投地区花本町，挙母地区前田町，本新町の水田などでも記録した。

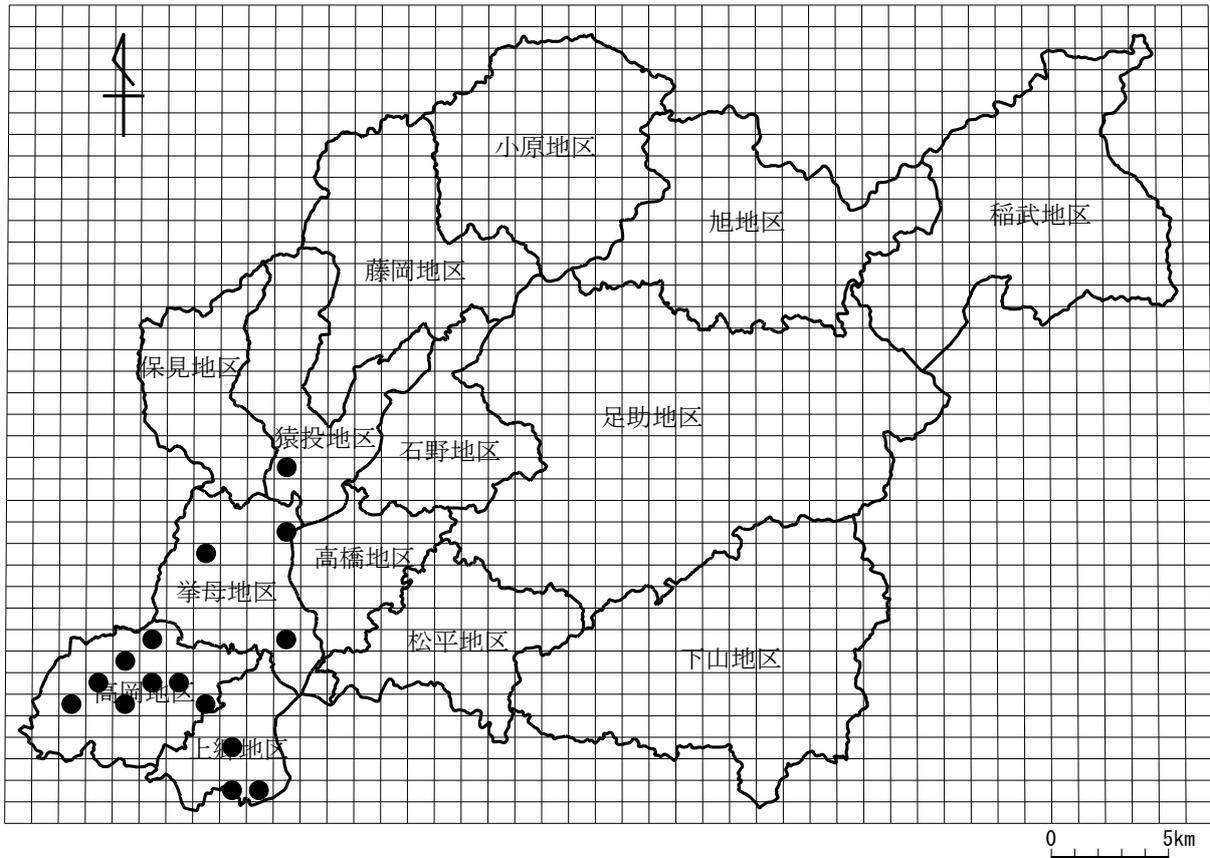
新市域の調査でも矢作川，巴川の河原の記録が多い。矢作川の下川口町，阿摺ダム，百月ダム，市原町，川出町で記録された。巴川では香嵐溪，三河湖畔で記録された。藤岡地区の深見大池の浅瀬で記録，下山地区の蕪木町では水田で記録された。



(注)  
 生息分布図には表していないが，高岡地区（2002年度，2003年度），保見地区（2002年度），石野地区（2001～2003年度），松平地区（2003年度）で確認している。

(21) タマシギ (チドリ目タマシギ科)  
 豊田市希少種区分：絶滅危惧II類 (VU)  
 愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥	○			○	○	○	○	○	○	○		○

ムクドリくらいの大きさで、平けた水田や休耕田、アシ原、湿地、池沼畔などに生息する。採餌は早朝と夕暮れに集中して行う。ミミズ、昆虫類、貝などが好物だが、イネ、タデなど植物の種子も食べる。一妻多夫で、巣作り、抱卵、育雛までを雄が行う。日本で繁殖する鳥類では、オスが巣作りから育雛までする鳥は本種のみである。暖地では留鳥だが、本市では冬季の観察はまれで、ほとんどが暖地へ移動することから夏鳥とした。

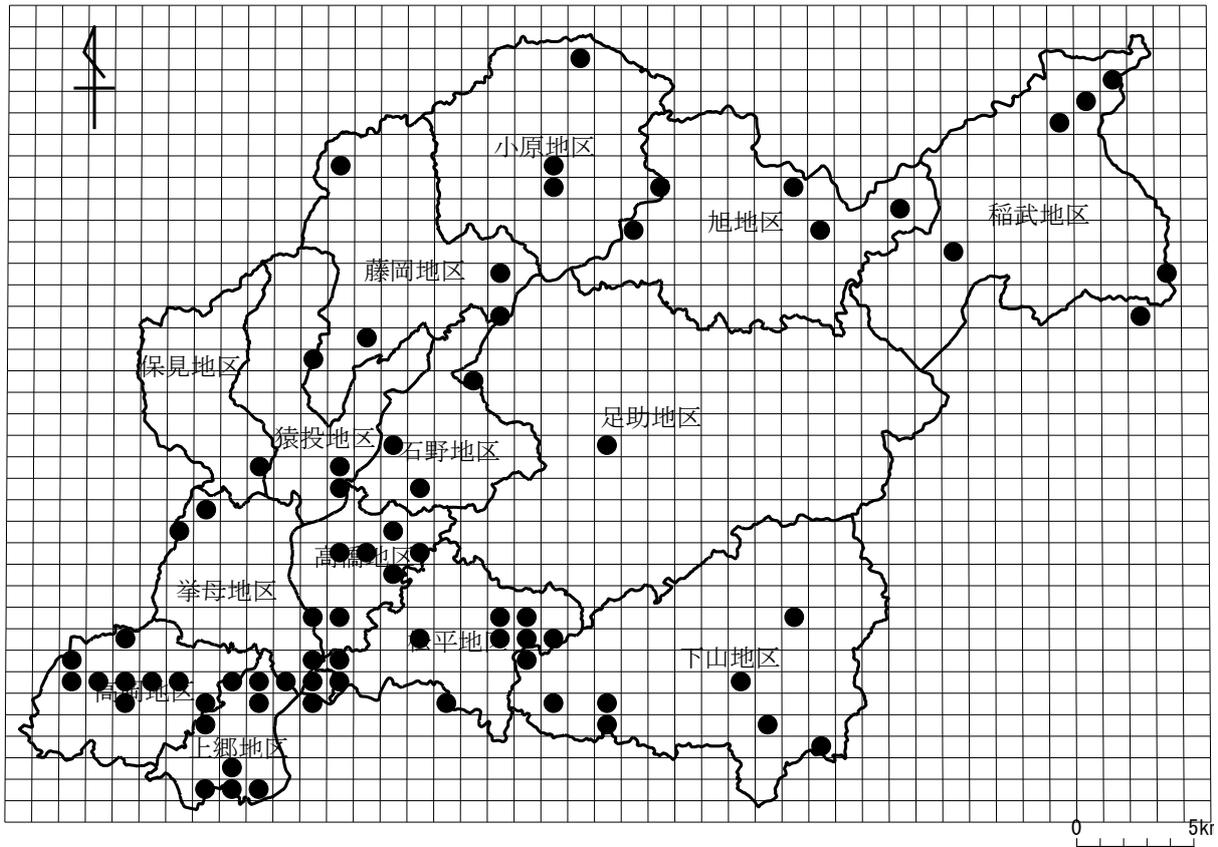


旧市域の調査では、挙母地区は宮口町、宮上町、前田町、猿投地区では四郷町、高岡地区では広田町、中町、竹町、西田町、若林西町、前林町、中田町、上郷地区では畷部西町、畷部東町で記録された。高岡地区に多いのは休耕田、アシ原など好条件の場所が多いからである。

新市域の調査では全く記録されなかった。

(22) オオタカ (タカ目タカ科)  
 豊田市希少種区分：絶滅危惧II類 (VU)  
 愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

カラス大のタカで、現在では市街地の周辺でよく観察される。オオタカは本来は森に棲み、林を縫うように飛ぶ飛翔力と獰猛さで、ノウサギ、キジ、ヤマドリ、カケス、キジバトなど大型の鳥獣を捕食する山のタカであった。それが、燃料革命により薪は石油やガスに変わり、建築用の木材は安価な輸入材になり、山は手入れしなくなり、荒れていった。荒れた山は生物も棲みにくくなり、平地に移動していった。その代表格がこのオオタカである。平地の池や川にはサギ、カモ、農耕地にはハト、ムクドリ、ヒヨドリなど獲物も豊富で狩りもし易く、すっかり定住者になった。

旧市域の調査では、上記分布図が示すように南部の上郷地区、高岡地区で多く確認された。これは、水田、果樹園など農地が広がり、集まる野鳥などの狩りが目的と考えられる。

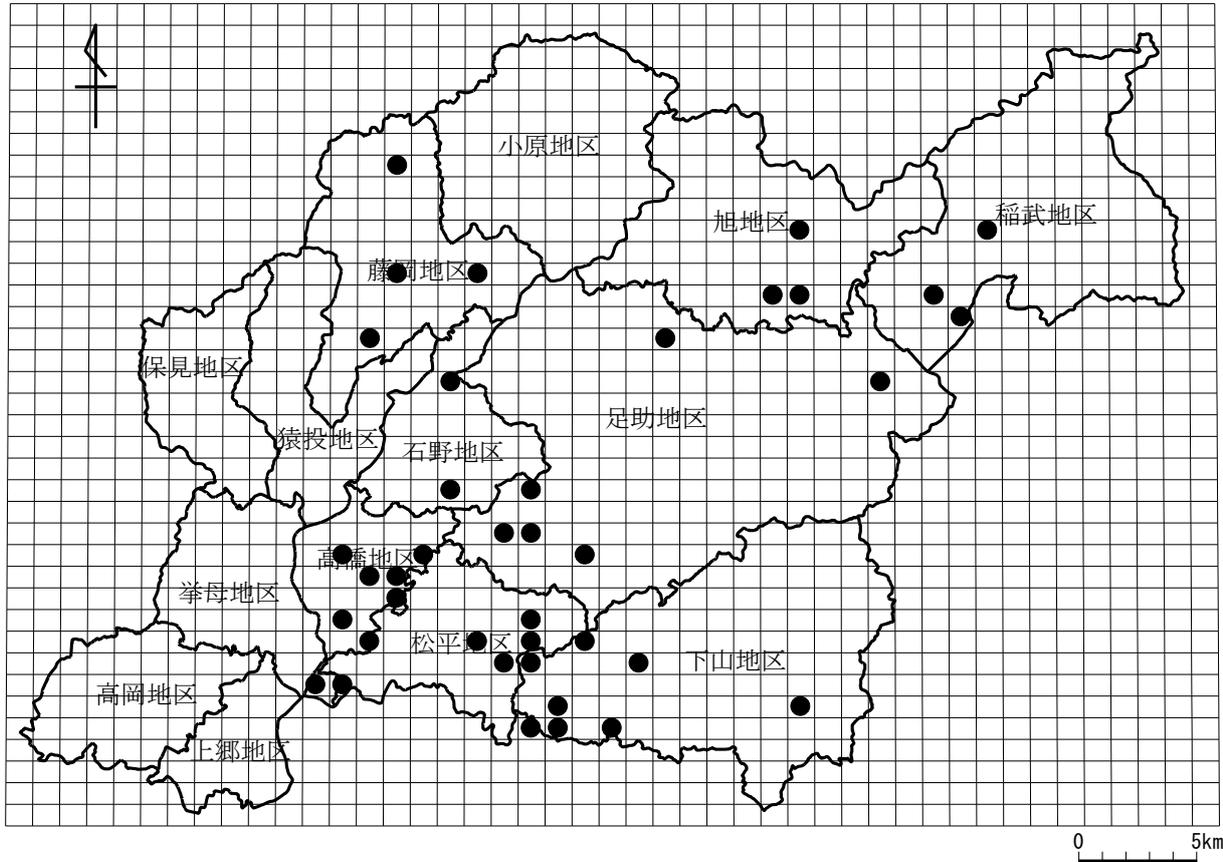
新市域の調査は6地区全てで確認された。しかし、確認回数は旧市域の方が圧倒的に多く、山から平地に移住したことが実証された。



(注)  
 生息分布図には表していないが、保見地区で2003年度に確認している。

(23) フクロウ (フクロウ目フクロウ科)  
 豊田市希少種区分：絶滅危惧II類 (VU)  
 愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○

「ゴロスケホッホッ」や「ボロ着て奉公」と聞きなされている。大きさはカラスぐらいで、夜行性の留鳥。羽音を立てずに飛び、ネズミなどを捕食する。人里の森や社寺林などの巨木の樹洞に営巣するが、樹洞のある巨木は少なくなり住宅難である。人工の巣箱を利用することが分かったことから、営巣を助ける目的で愛好者によって巣箱が架けられるようになった。

旧市域の調査では松平地区の六所山麓、高橋地区の渡合町、野見山、古瀬間町、自然観察の森で観察された。

新市域の調査では藤岡地区、足助地区、旭地区、下山地区、稲武地区で観察している。小原地区は確認ができなかったが地元の話では、数か所で鳴き声を聞いているとのことだった。

調査以外では石野地区山中町で2007年以降たびたび確認している。



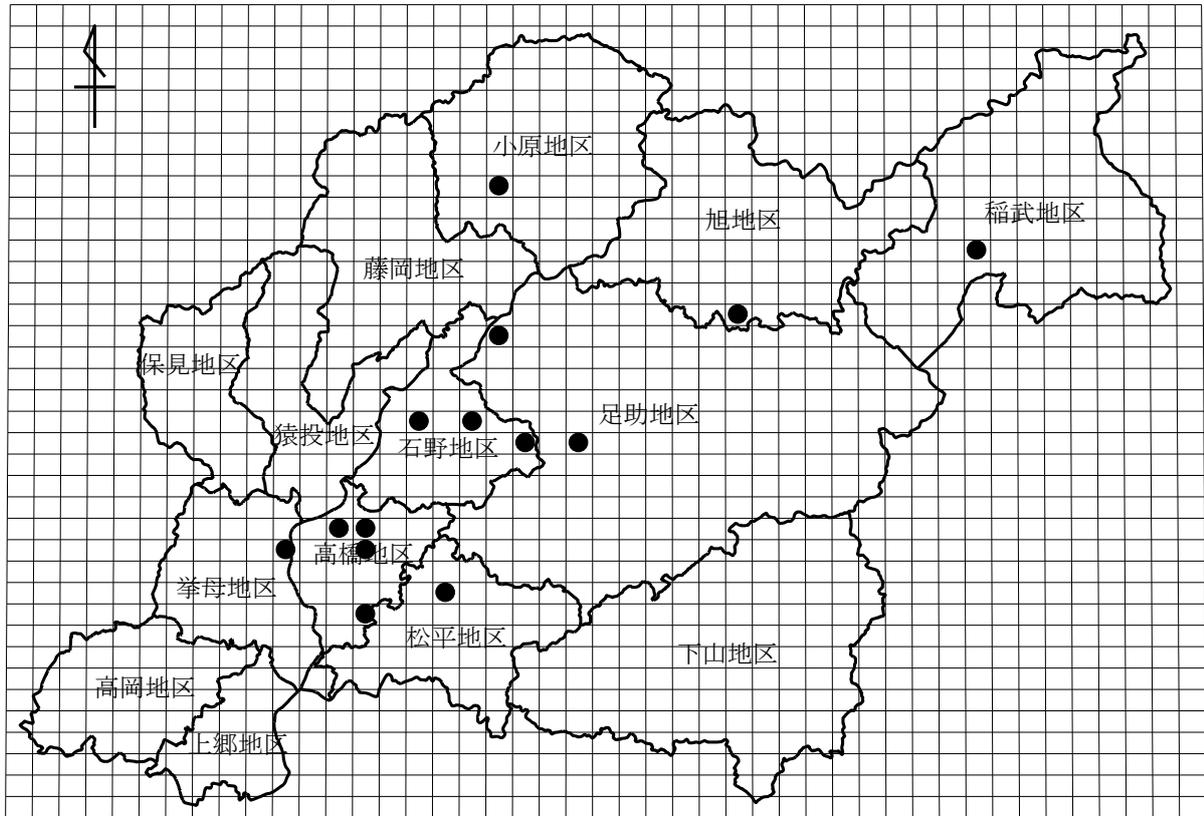
(注)  
 生息分布図には表していないが、猿投地区で2001年度に確認している。

(24) アオバズク (フクロウ目フクロウ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧II類 (VU)

愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥				○	○	○	○	○				

ハトくらいの大きさのフクロウの仲間。夏鳥として青葉の頃に渡ってくる。社寺林の古木や、里山の大木に朽ちてできた樹洞で営巣する。夜行性で昼間は木の枝で眠っている。「ホッホッ」と二声を繰り返して鳴く。

旧市域の調査では神社や公園で記録した。挙母地区の児ノ口公園のエノキの古木にできた樹洞で、毎年ヒナを孵し、人気になったが、老木のため倒れて無くなってしまった。他では高橋地区市木町、幸海町、松平地区松平志賀町などがある。

新市域の調査では、小原地区の北篠平町の林で、足助地区では岩神町と大河原町で記録した。旭地区では伊熊町、稲武地区では黒田町で確認している。

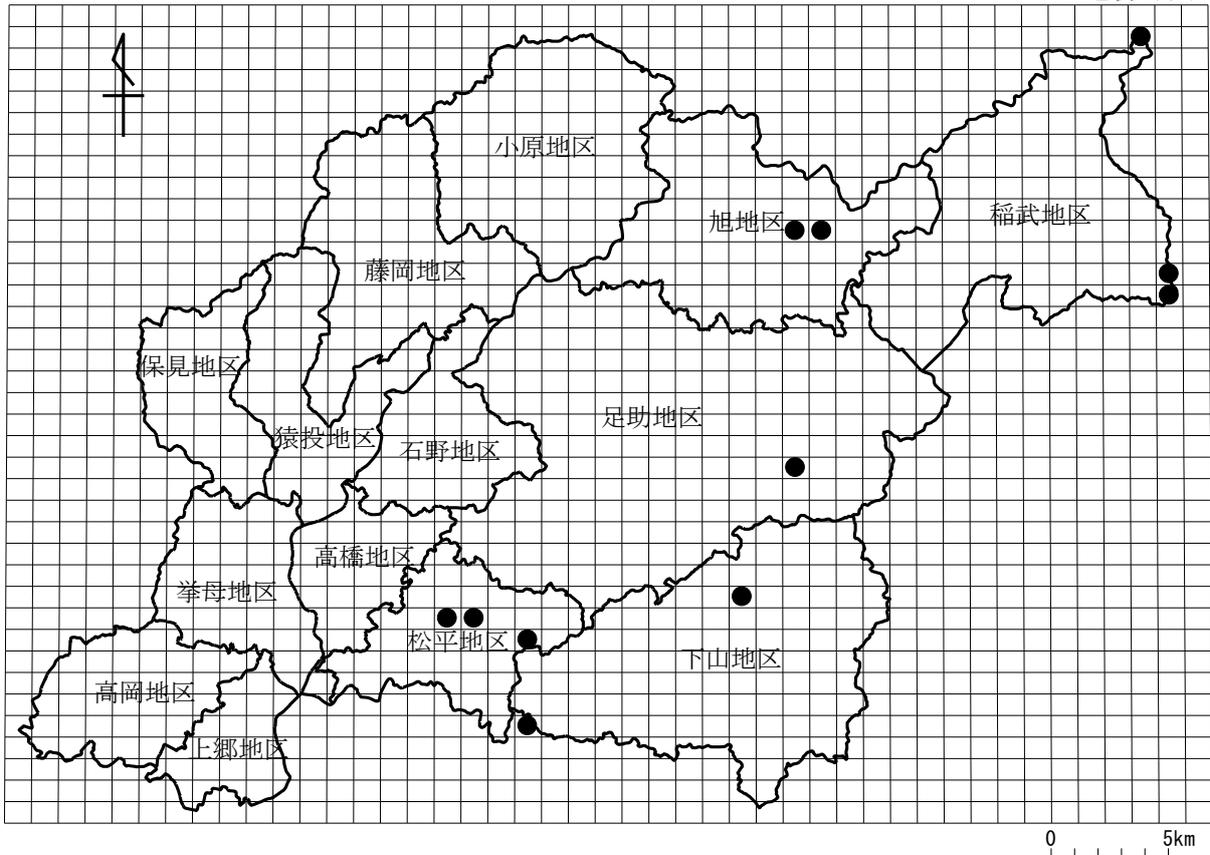
調査以外では石野地区城見町、野口町、力石町で確認している。



(注)  
生息分布図には表していないが、  
上郷地区で2001年度に確認している。

(25) コマドリ (スズメ目ヒタキ科)  
 豊田市希少種区分：絶滅危惧II類 (VU)  
 愛知県RDB2009：絶滅危惧II類 (VU)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
旅鳥				○	○							

「ヒンカララ…」と馬のいな鳴きのような声の力強い囀りで、日本の三鳴鳥の一つに数えられている。大きさはスズメぐらいで、雄の上面は赤味がかった褐色で美しい。夏鳥として渡来し、標高1,000m以上の森林で繁殖する。

当市ではかつて面ノ木峠、金沢段戸国有林、三国山、寧比曾岳で繁殖期に観察されたが、近年は渡り時期のみの観察となった。繁殖はしていないと考えられるので、旅鳥として位置づける。

旧市域の調査では、2001年4月に王滝溪谷と豊松町の山林で各1羽、2003年4月に六所山麓で3羽記録したがいずれも松平地区だった。

新市域の調査では6年間で8回記録されたのみで、本種の減少を表している。旭地区の旭高原元気村と小滝野町で各1回、下山地区の東大林町で1回、羽布町で2回、稲武地区の三国山で1回、林道野入月ヶ平線で2回記録した。

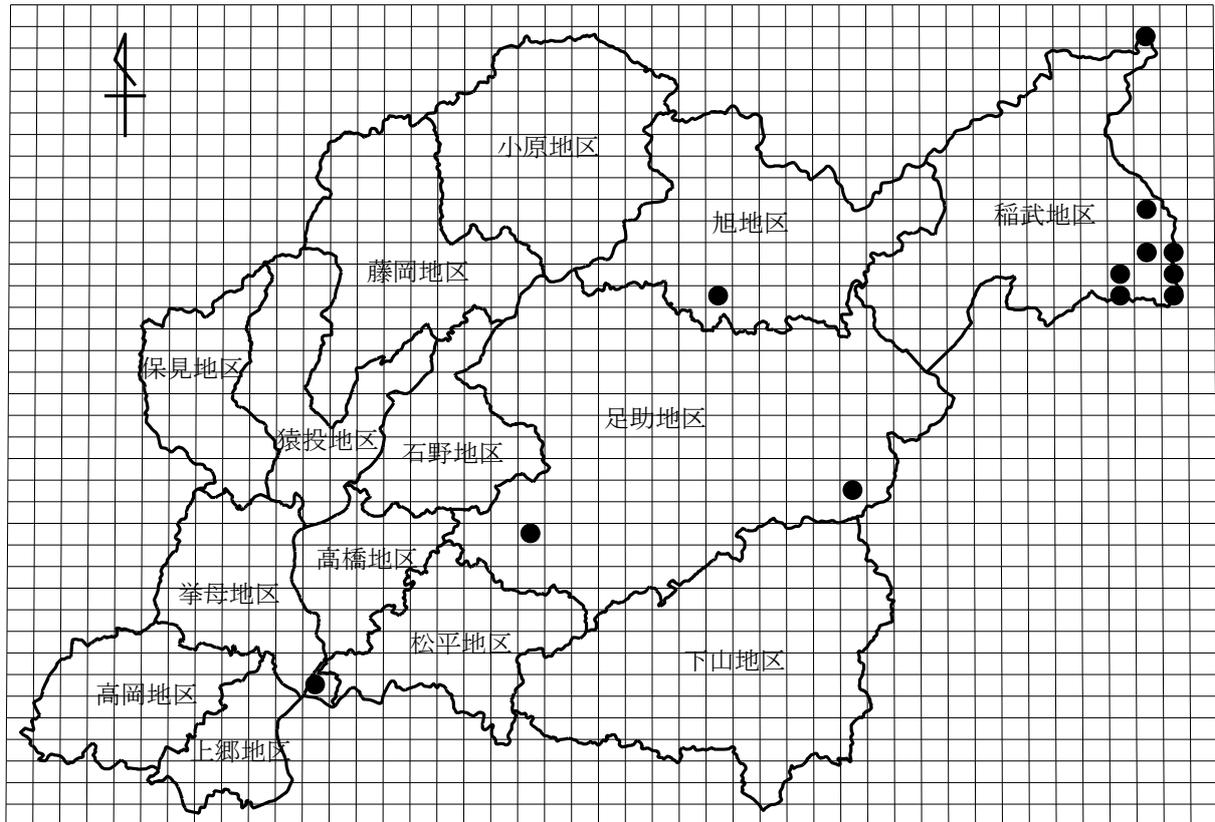


(26) コルリ (スズメ目ヒタキ科)

豊田市希少種区分：絶滅危惧II類 (VU)

愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥				○	○	○	○					

スズメくらいの大きさで上面は暗青色，下面は白色。囀りも節を変えてテンポよく鳴く。夏鳥として渡来する。標高1,000m前後の下層にササの茂った林を好み繁殖する。姿も囀りもいいので，人気の青い鳥である。渡りの途中には低地でも観察されるが多くはない。

旧市域の3年間の調査では記録されなかった。新市域の6年間の調査では，標高の高い稲武地区の面ノ木の周辺，三国山周辺，林道野入月ヶ平線で多く記録された。足助地区では，金沢段戸国有林や白倉町で，旭地区では柿野町での記録であった。しかし，観察地は限られており数も少ない。

調査以外では2013年5月に高橋地区琴平町での確認記録がある。

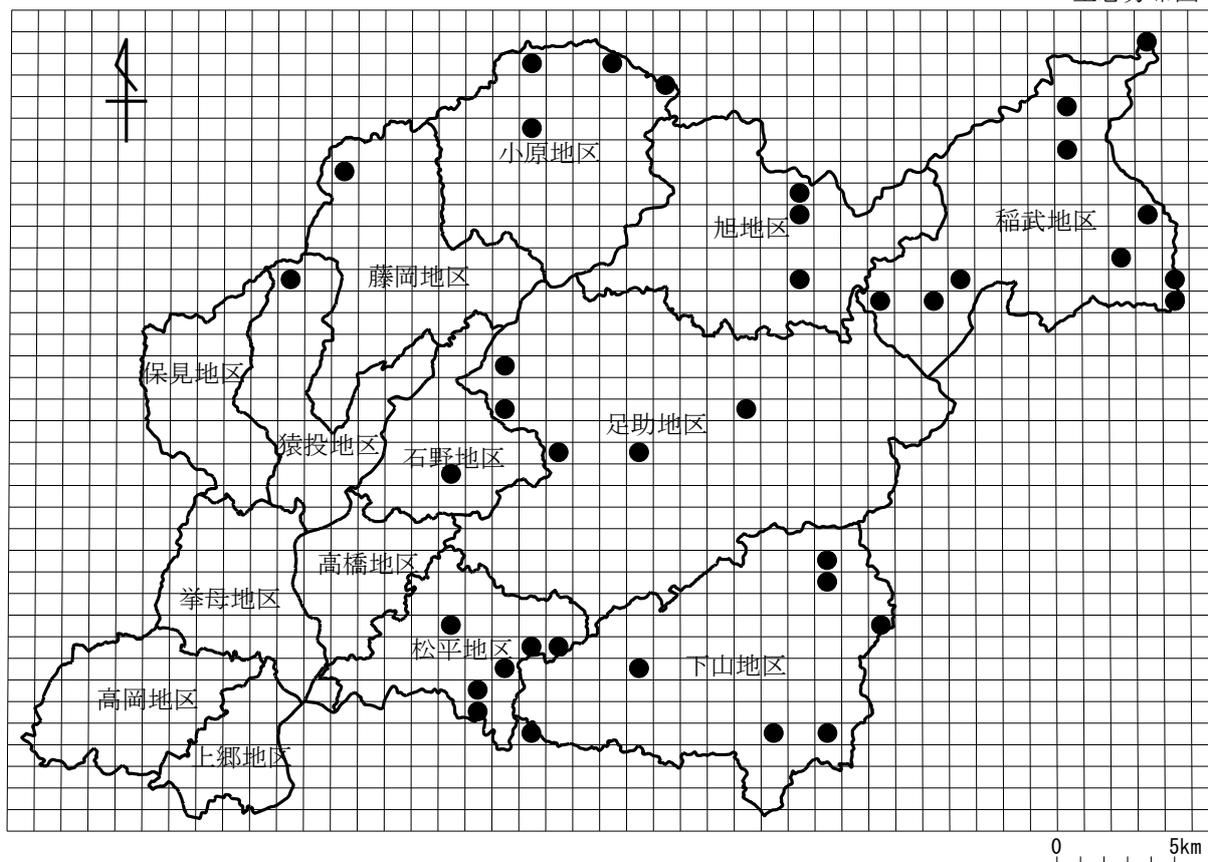


(27) ヤマドリ (キジ目キジ科)

豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)

愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

雄は全身赤褐色で尾が非常に長い。全長は尾を含んで1m25cmぐらい。雌は尾が短く全長55cm。山の谷すじを好み、地上生活を送る。繁殖期を除けば雄同士、雌同士で生活する。繁殖期の雄は羽をふくらませて激しくはばたき、「ドドドドド」と羽音をたてる。これを「母衣を打つ」といい、ヤマドリの囀りにあたる。木の実、草の実、ミミズ、カタツムリ、ナメクジなどの小動物、昆虫など、ほとんど何でも食べる。夜は木の枝で眠る。

旧市域の調査では松平地区の六所山、王滝溪谷、松平郷、滝脇町で確認している。猿投地区では猿投山で記録した。

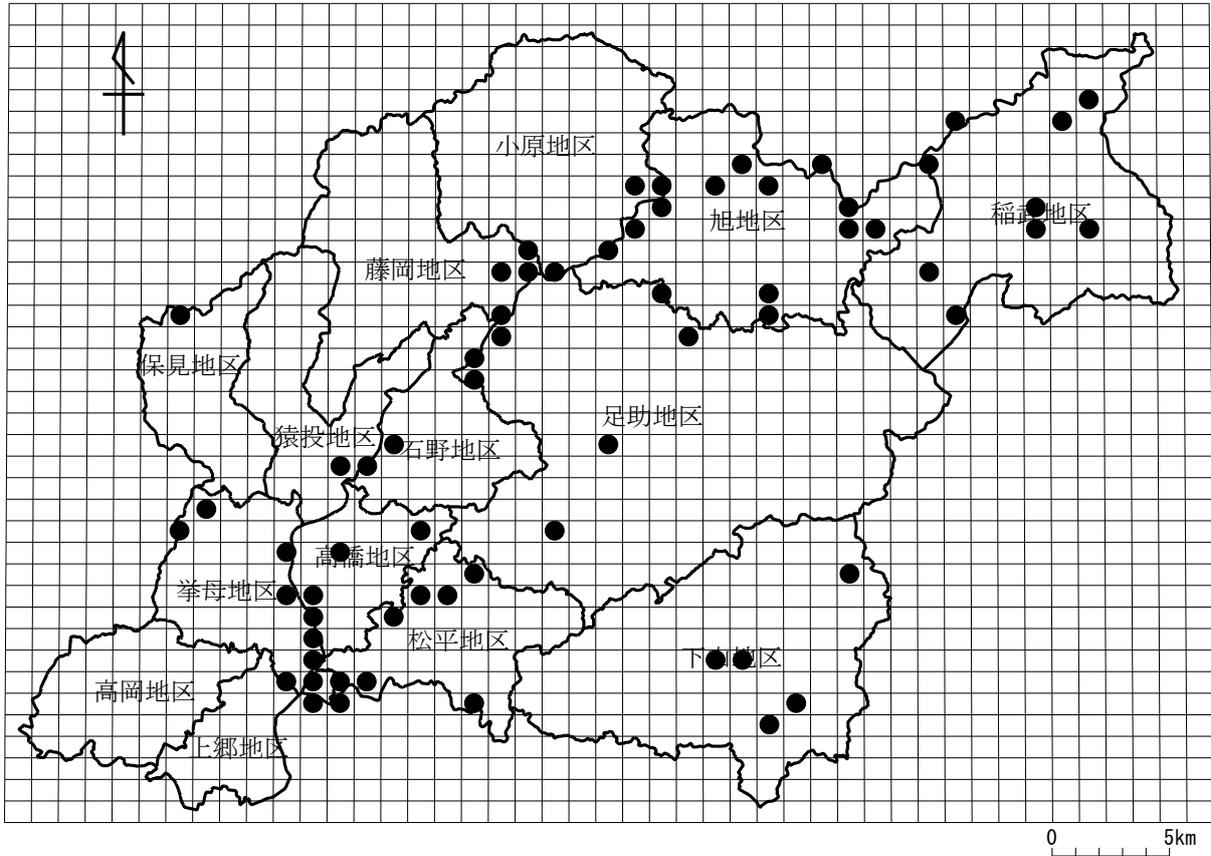
新市域の調査では合併した各地区とも確認した。



(注)  
生息分布図には表していないが、高橋地区で2001年度に確認している。

(28) オシドリ (カモ目カモ科)  
 豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)  
 愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

雄はイチョウ羽根を持ち、実に美しい小型のカモである、冬鳥として矢作川、巴川とその支流で冬を過ごす。好物のドングリの生る木も多く、格好の越冬地と言えよう。

旧市域の調査では、松平地区の巴川で最も多く観察された。矢作川では水源ダムの上流付近、越戸ダムからその上流の両枝橋間でよく観察された。拳母地区の西部には割目池、孫目池、鉛池など溜池が多いが、オシドリの姿を見ることは少ない。高橋地区でも鞍ヶ池、寺部池などで観察されることはまれである。上郷地区、高岡地区では観察されなかった。

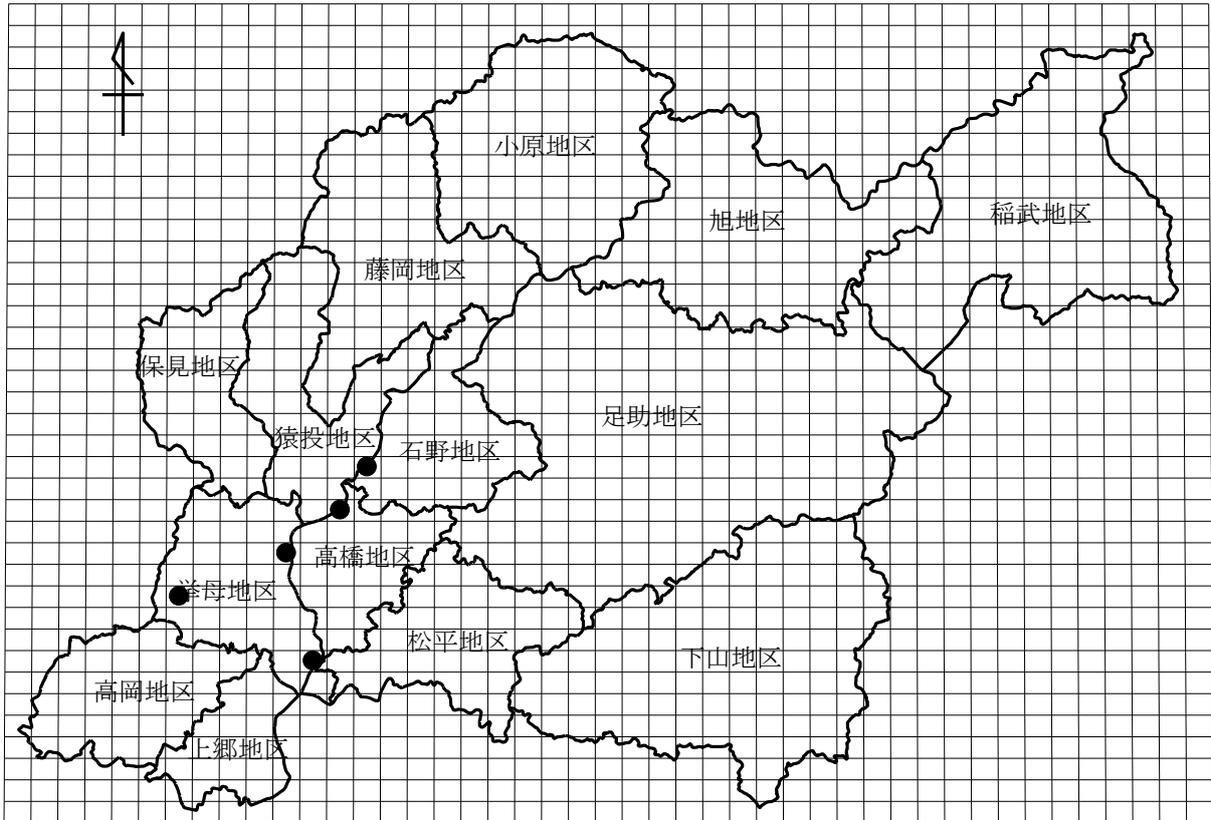
新市域の調査では、6地区全てで観察された。そのほとんどが矢作川、巴川である。

旭地区と足助地区では繁殖期に観察している。足助地区では成鳥と幼鳥の小群を観察している。



(29) ヨシガモ (カモ目カモ科)  
 豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)  
 愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○	○	○								○

オスは緑色のナポレオン帽のような頭がユニークである。また、三列風切羽が長く、鎌のような形に垂れ下がり、きれいで気品のあるカモであるが狩猟鳥である。保護鳥にしたいものである。冬鳥として池やダムなど、流れが少なく開けたところで、他のカモに混ざって少数を見ることが多い。



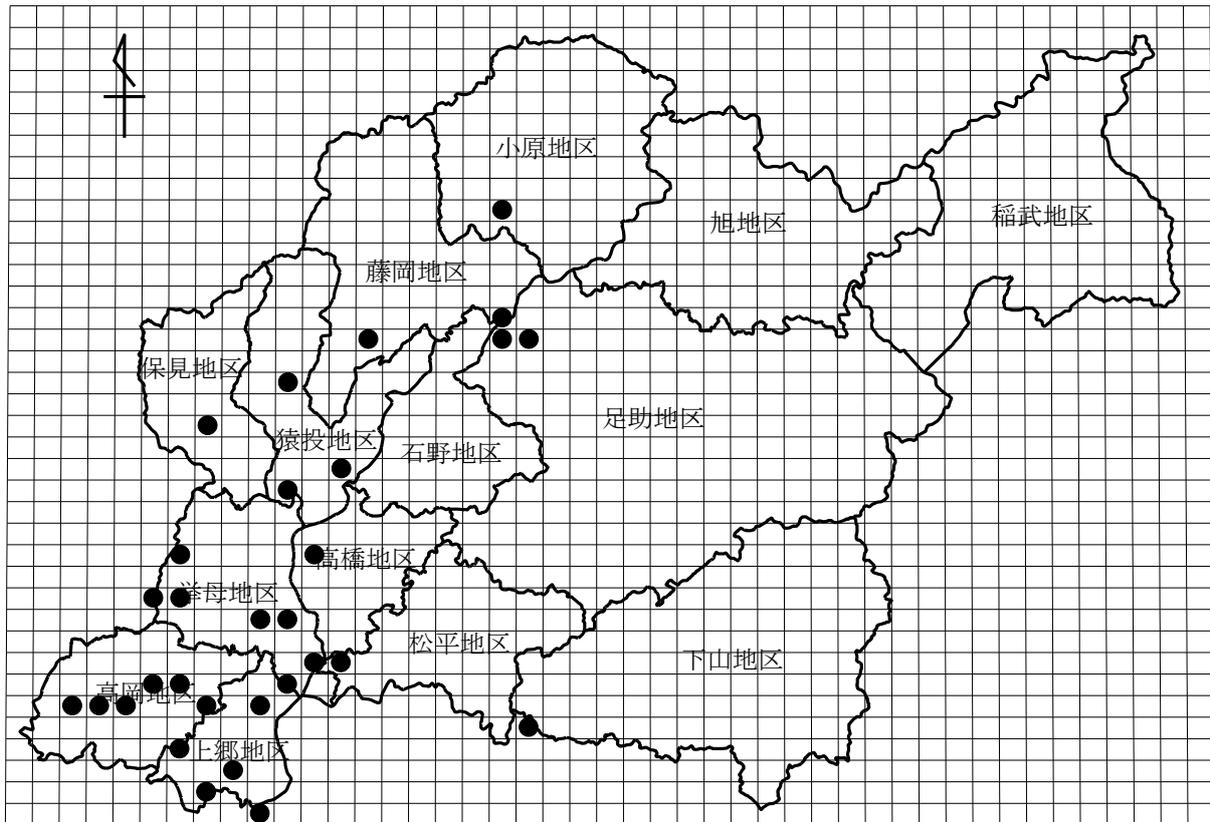
旧市域の調査では、挙母地区の本新町割目池で2002年2月～3月と2003年3月～4月に、水源ダムでは、2003年1月～2月に、高橋地区の百々町萩谷池では2002年12月と2003年12月に、猿投地区勘八峡では2003年2月に観察された。2015年1月には挙母地区中島町でも確認されている。

新市域の調査では6地区全てで確認されなかった。

調査以外では平戸橋下流で10羽程度観察されることが多い。

(30) チュウサギ (ペリカン目サギ科)  
 豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)  
 愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

水田、池沼、湿地などに生息する。コサギとダイサギの中間の大きさ。夏鳥として渡ってきて、秋、越冬地の東南アジアに渡る。近年、越冬するものもある。一時期、チュウサギが減少したと心配されたが、その後、回復してきた。それに代わって現在では、コサギが減少しており、心配されている。

チュウサギの主食は小魚、カエル、ザリガニ、バッタなどの小動物、昆虫類などで幅が広い。

旧市域の調査では、石野地区以外は全ての地区で確認された。

新市域の調査では、藤岡地区の下川口町と昭和の森、小原地区の北篠平町、足助地区の月原町と大河原町、下山地区は蕪木町で観察された。いずれも1回観察されたのみである。

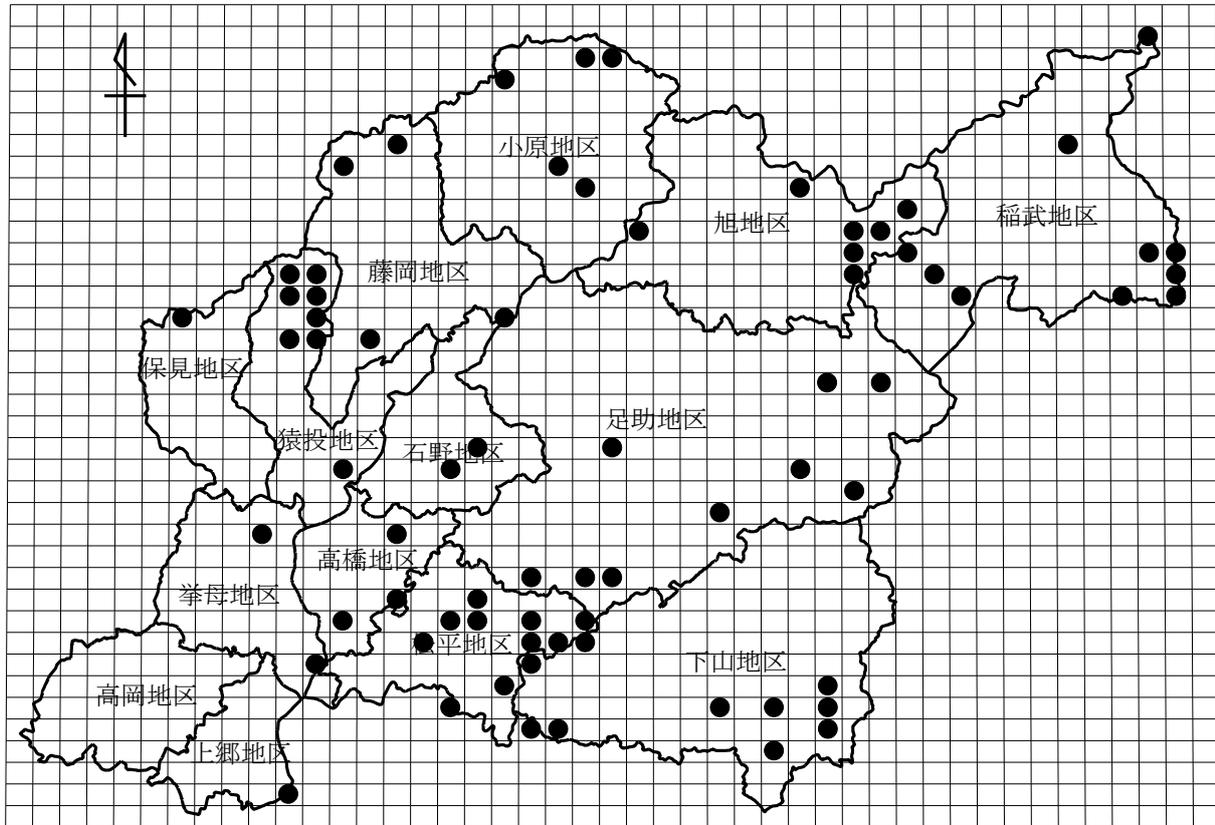


(31) ツツドリ (カッコウ目カッコウ科)

豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)

愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥				○	○	○	○	○	○	○		

カッコウ科の鳥は一目見ただけでは同定が難しいが、鳴き声を聞けばすぐわかる。この鳥は竹筒をたたいたような声で「ポポ、ポポ、ポポ」と続けて鳴く。大きさは約33cmでハトくらい。センダイムシクイなどに托卵する。頭部から体の上面は青灰色。尾は灰黒色で胸から下面は白くて太い黒帯がある。夏鳥として、カッコウの仲間の中では一番先に渡来する。平地から山地の森林内に生息するが、姿の確認はなかなかできない。秋には東南アジアに渡って越冬する。

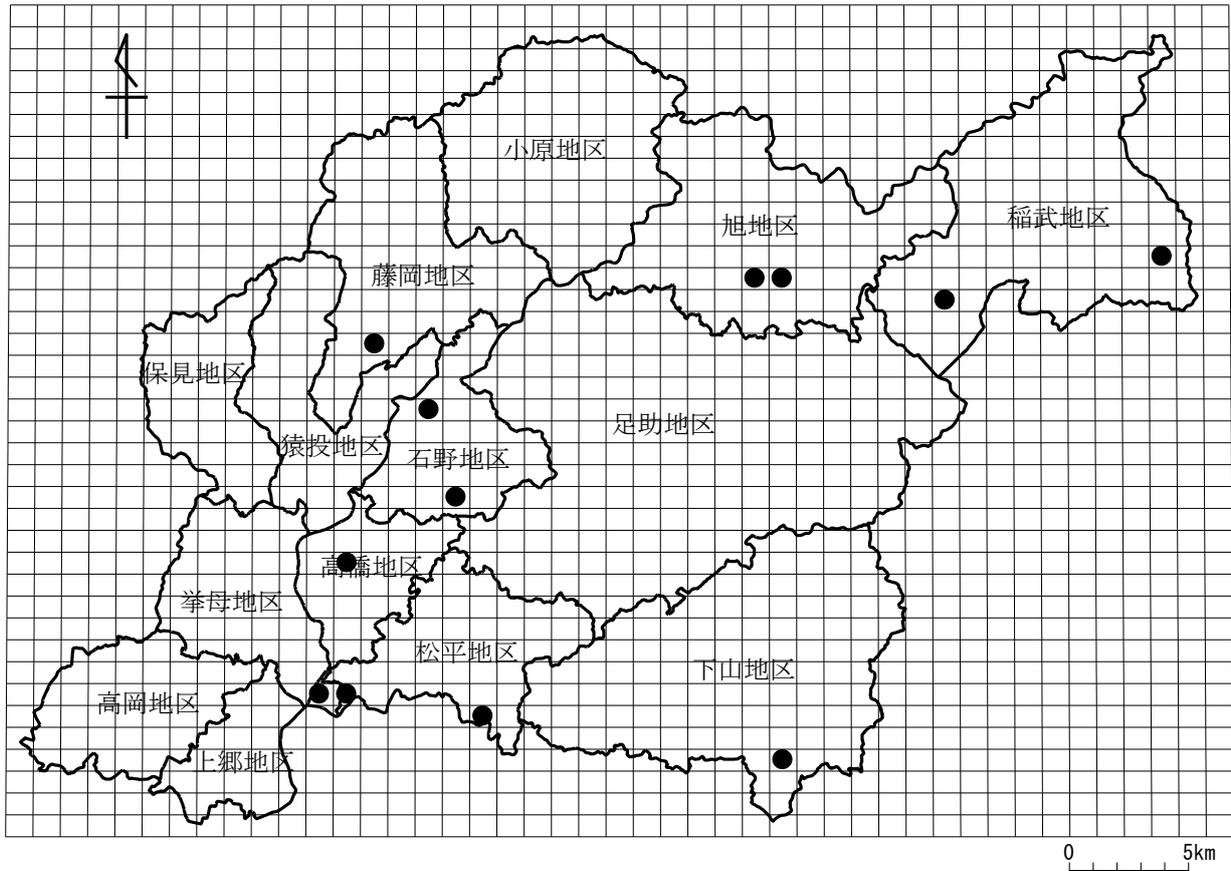


旧市域で確認されたメッシュ数は29で、そのうち11が松平地区である。そのなかでも六所山が最も多い。猿投山の記録も多い。

新市域では全地区で確認した。春秋の渡り途中では、市街地の公園の桜の木でよく観察される。桜の木に好物の毛虫が多いからである。

(32) ヤマシギ (チドリ目シギ科)  
 豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)  
 愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○	○	○						○	○	○

大きさは35cmでハトくらい。嘴は長くてまっすぐ、太目で、首が短く頭が大きい。本州中部以北、伊豆七島の山地で繁殖し、冬季は温暖な地方で越冬する。本市は越冬地であり、冬鳥である。山の鳥だが山奥に棲むのではなく、里山の人家に近い所で夕方薄暗くなった頃見られる。畑の堆肥置き場のミミズやイモムシ、昆虫などを求めてよくやってくる。飛ぶ時に「キチッキチッ」、「ブーブー」と鳴く。



旧市域の調査では、高橋地区自然観察の森、トヨタの森、琴平町、松平地区岩倉町、石野地区東広瀬町、上高町で確認している。数は1~2羽と多くない。夜行性のため観察が難しく、生息の状況がつかみにくいが、決して多くはない。

新市域の調査では、下山地区の和合町で2012年と2013年に、旭地区の押井町で2010年に、伊熊町で2012年に、稲武地区の大野瀬町池ヶ平で2011年に、小田木町のタカドヤ高原湿地で2012年に記録された。

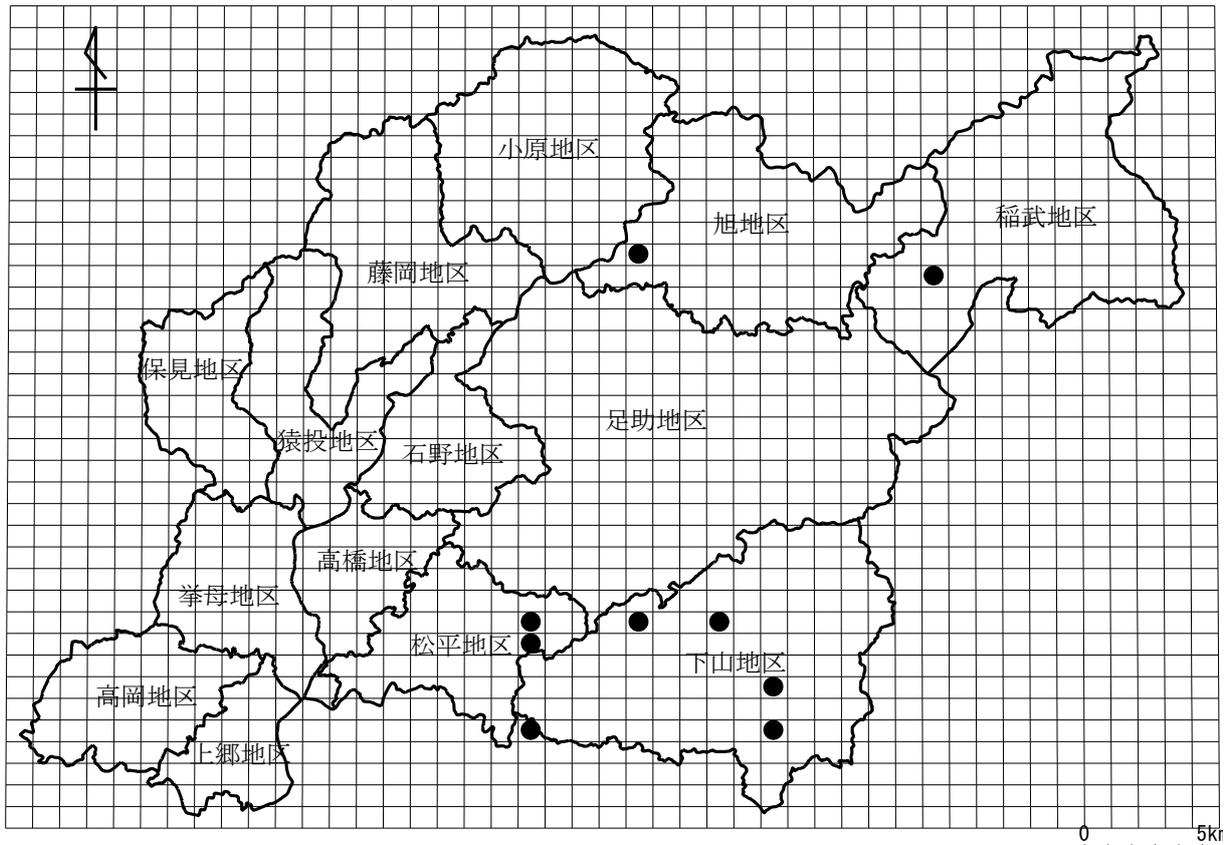
調査以外では2012年に松平地区滝脇町で確認している。

(33) アオシギ (チドリ目シギ科)

豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)

愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○	○	○					○		○	○

山地の溪流畔や湿地に冬鳥として渡来するが数は少ない。越冬地では単独でいることがほとんどだが、寒冷地では数羽集まって行動していることがある。キジバトくらいの大きさで、タシギやオオジシギ、ヤマシギなどに似ているが、タシギより少し大きく30cmぐらい。長くて真っすぐな嘴を水中に差し込んで、昆虫類などを採食する。鳴き声は「ジェツ」で、川沿いを飛んで逃げるが多い。

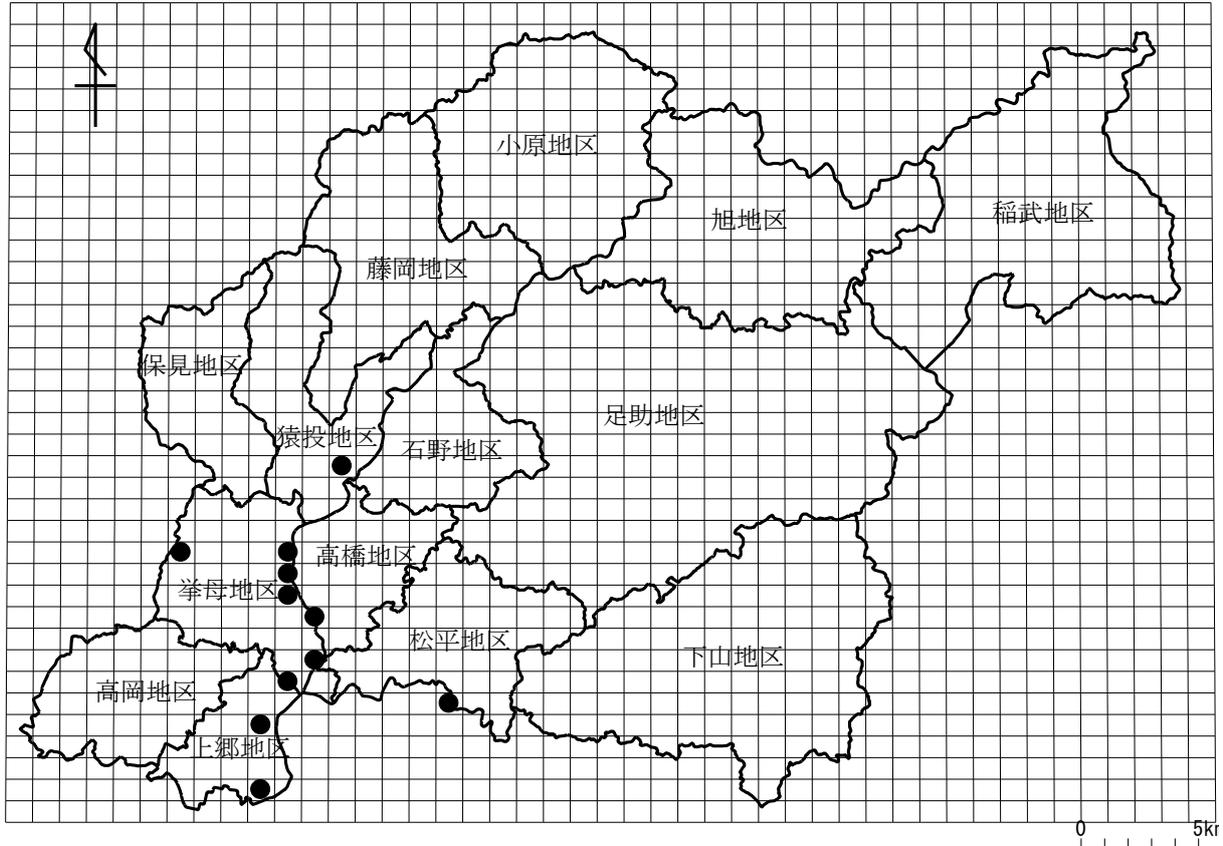


旧市域調査の3年間では、松平地区六所山麓の宮口川で3年続けて記録された。その後も毎年観察されている。本来は溪流を好む鳥だが、六所山麓の宮口川はコンクリートの水路である。安全上と採餌の関係で定着したものと考えられる。

新市域では下山地区の蕪木町、羽布町、大沼町、東大林町、旭地区の東萩平町、稲武地区の黒田ダム下で確認している。

(34) コアジサシ (チドリ目カモメ科)  
 豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)  
 愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥				○	○	○	○	○				

黄色い嘴に橙色の足の鳥で、停空飛行から垂直にダイビングして魚を捕らえる。ヒヨドリと同じくらいの大きさ。夏鳥として渡来し本州以南の砂浜、埋立地、川の中州などで小石を並べただけの粗雑な巣を作り雛を孵す。近年、広くて安全な砂浜が減り、個体数の減少が深刻な種である。当地への飛来は矢作川の河口部から川伝いに飛来するもので数は多くない。



旧市域の調査では、挙母地区水源ダムと河合池の記録が大半で、他に高橋地区千石公園付近で記録された。調査後の2008年、上郷地区の柳川瀬公園北側の体育館に隣接する運動施設増設のための埋立地にコアジサシが飛来し、最大31羽を数えた。やがて3巣を営巣、後に4羽の雛が確認されて初の繁殖記録となったが、翌年はテニスコートとなり、営巣は一年限りに終わった。他に松平地区では滝脇町にて7羽の確認記録がある。

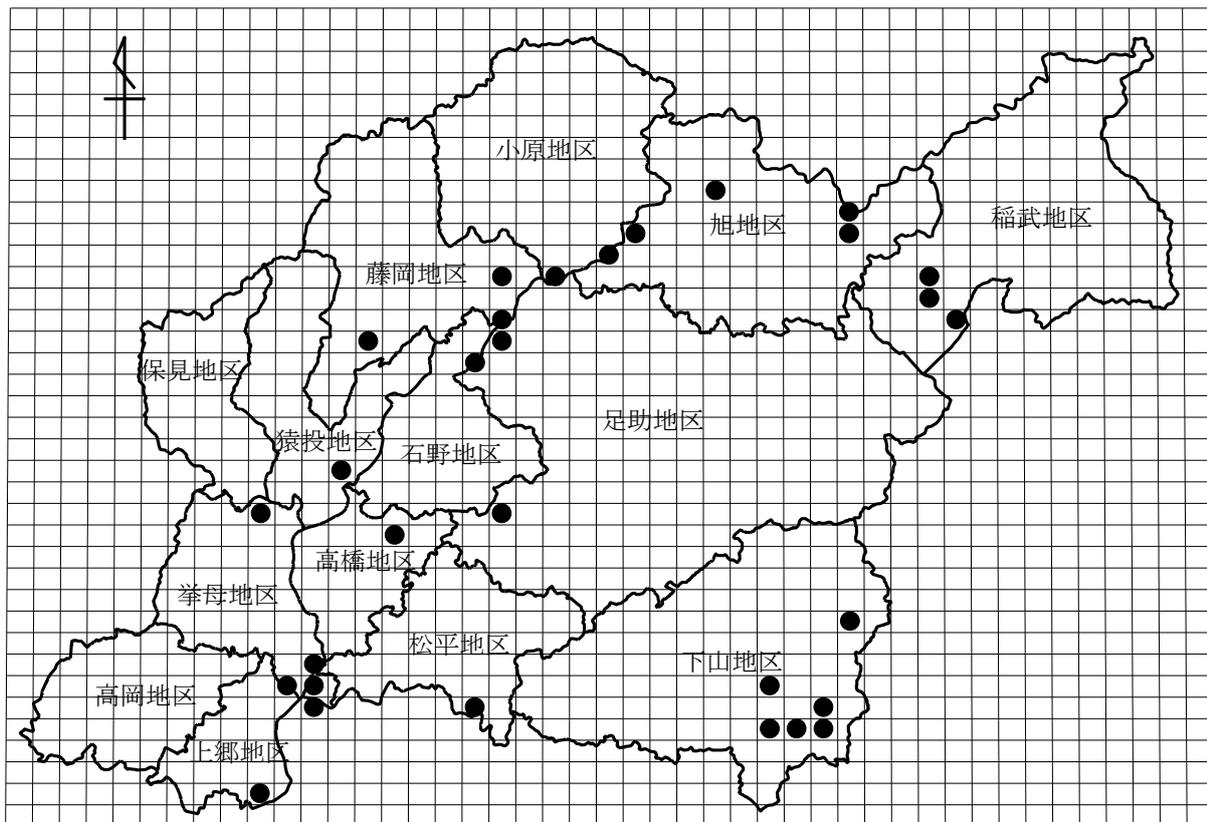
新市域は全地区とも確認できなかった。

(35) ミサゴ (タカ目ミサゴ科)

豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)

愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○

下面が白っぽく、細長い翼で尾は短い。トビと同じぐらいのタカで、主に海岸に生息するが、内陸部の湖沼、広い河川のダム等にも飛来する。水面の上空を飛びながら魚を探す。見つけると、ホバリングに切り替え、足から水に突込み魚を捕える。食性は主に魚である。流れの無い開けた水面で魚を捕食するので、本市での生息地としては、矢作川のダムや鞍ヶ池、三河湖等がある。近年、広い水辺からほど遠い山地の上空で観察されることが多くなった。移動の途中と思われる。



旧市域では挙母地区の水源ダム、西山町、上郷地区の天神橋下流、高橋地区の鞍ヶ池、松平地区の滝脇町で記録した。

新市域では藤岡地区、足助地区の矢作川、下山地区の三河湖、旭地区の矢作ダム、稲武地区の黒田貯水池、富永調整池で、いずれも上空を飛翔する個体を確認。

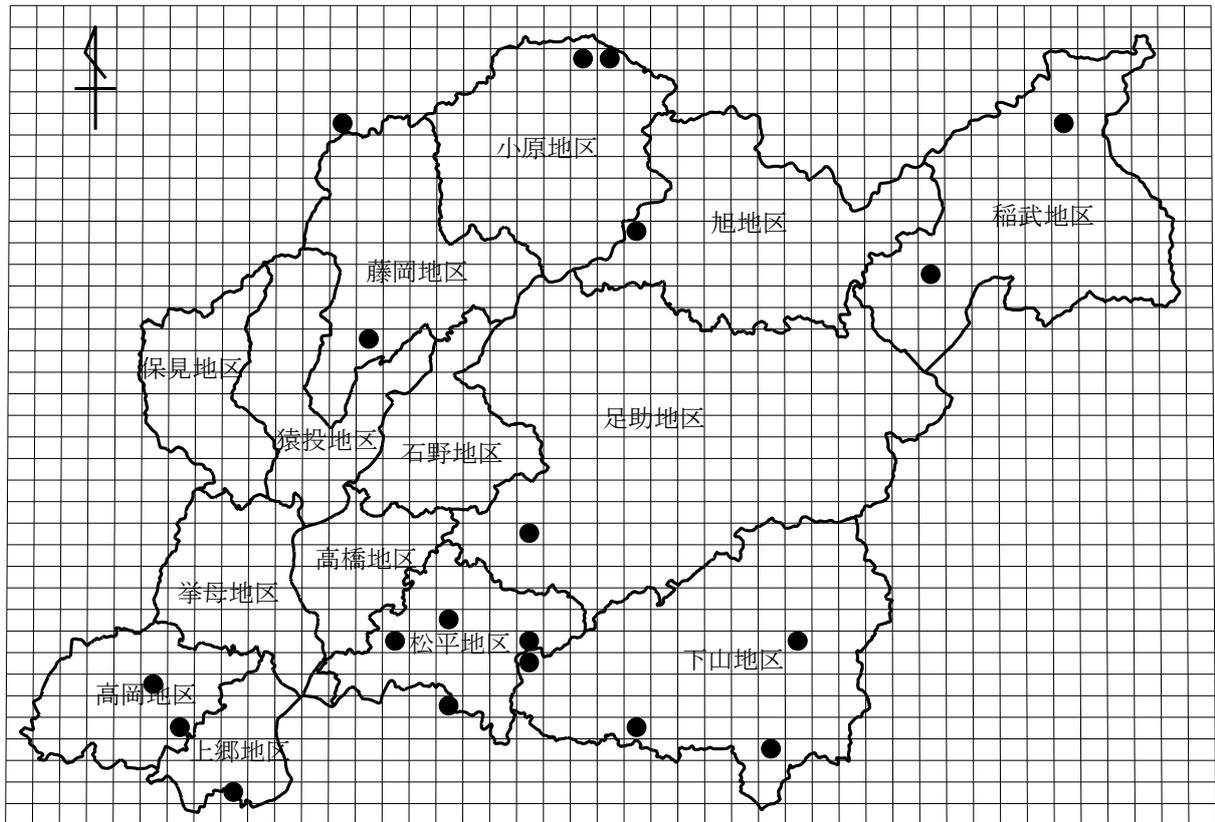
調査以外では猿投地区の前田公園で確認している。

(36) ツミ (タカ目タカ科)

豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)

愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥		○	○		○	○		○	○	○	○	

平地から山地の森林に生息する、ヒヨドリくらいの小型のタカ。留鳥として単独又はペアで過ごす。留鳥だが、まだ本市での繁殖は確認されていない。同じ仲間のハイタカとの野外での識別は非常に難しく、勉強を要する。食性は、主に小鳥類だが、爬虫類、小形哺乳類、昆虫なども食べる。飛翔力に優れ、林を縫うように飛んで小鳥を捕まえる。「ピョーピョヨヨ」と尻下がりに鳴く。警戒時は「キッキキキキ」と高くて通る声で鳴く。

旧市域では、松平地区の六所山、滝脇町、王滝町、九久平町で、高岡地区の広田町、竹元町でも観察された。

新市域では稲武地区の黒田町富永調整池付近、大野瀬町押山ダム付近で、下山地区では花沢町、和合町、下山田代町などで記録した。

本来、森林の鳥とされていたが、近年、市街地の公園などで観察されるようになり、オオタカ同様に山の荒廃で小鳥、小動物などの食べ物の不足が原因と考えられる。



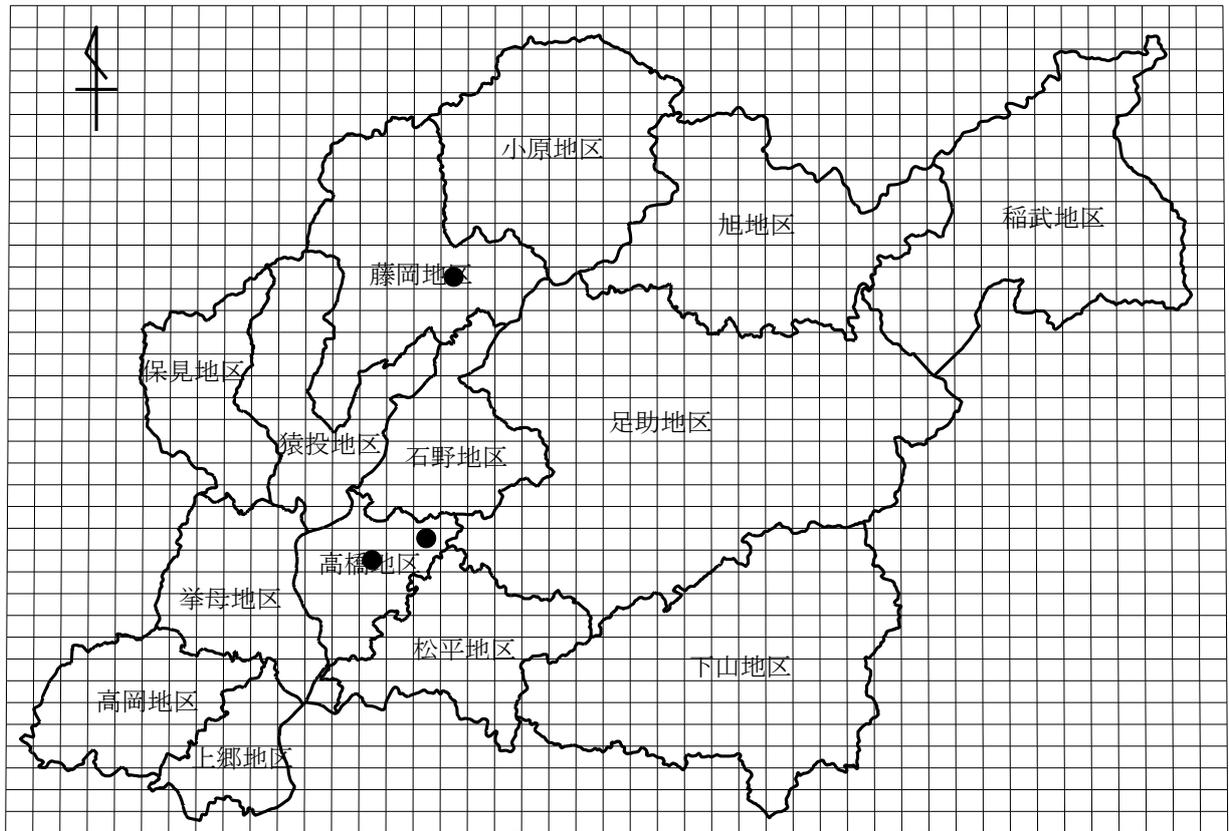
(注)  
生息分布図には表していないが、猿投地区 (2003年度)、石野地区 (2002年度) で確認している。

(37) オオコノハズク (フクロウ目フクロウ科)

豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)

愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥		○	○		○							

ムクドリくらいの大きさで、羽角がある。フクロウの仲間であ留鳥。平地から山地の林に棲み、秋冬には雑木林や竹林で数羽集まっていることがある。「ウオ」と低い声や「ピャーウ」と猫のような声を出す。夜行性で、ネズミなどの小型哺乳類や鳥類、昆虫などを捕食する。目に赤味がある。夜行性の鳥は観察機会も少なく、生息状況がつかみにくい。本市では冬にほとんどが観察されており、繁殖が確認されていないことから冬鳥とした。

3年間の旧市域の調査では確認できなかった。調査以降の記録で、2007年2月に高橋地区矢並町で衰弱した個体1羽が拾得された。自然観察の森に届けられ数日飼育、元気になり放鳥した。2013年3月には、自然観察の森の木の茂みで休む1羽を見つけ写真にも納められた。(写真右)

新市域の調査では2010年5月の夜の調査で、藤岡地区の御作町で声を確認した。記録はこの1回のみである。

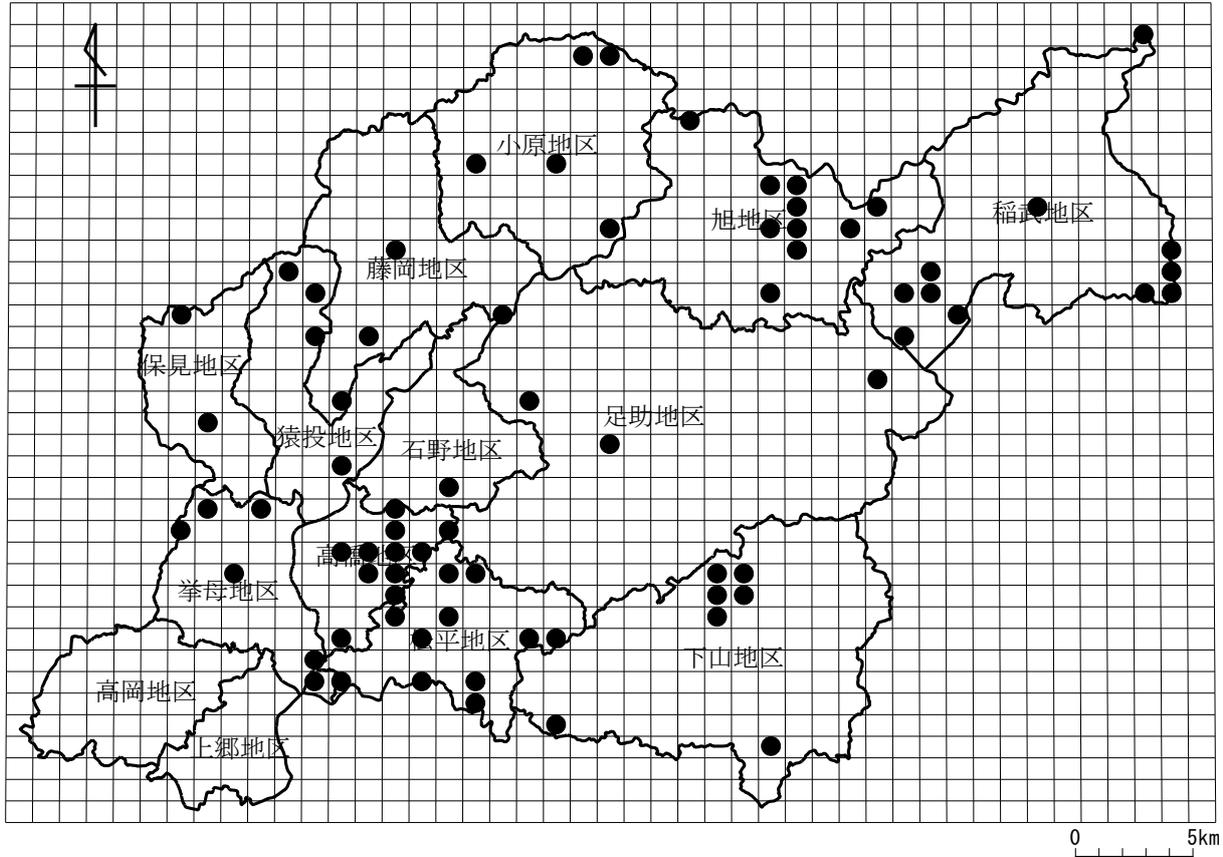


(38) アカゲラ (キツツキ目キツツキ科)

豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)

愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

低山から高山までの落葉広葉樹林に生息するキツツキである。冬には暖地に移動するものもある。全長は24cm。ムクドリ大で肩羽が白斑となって見える。腹の下部は紅色。「キョッ、キョッ」と連続して鳴く。嘴で木をたたいて音を出すドラミングも行なう。枯れ木に穴を掘って営巣する。近年、著しく数を減らしている。当地では40年ほど前から松くい虫による松枯れが猛威を振るい、里山の松はほぼ全滅した。松を好むアカゲラの減少は松枯れが原因ではと推察する。

旧市域での記録は猿投山、六所山、トヨタの森、自然観察の森、鞍ヶ池公園などで観察した。新市域では全地区で確認はしているが少ない。下山地区、旭地区、稲武地区での確認が多い。稲武地区では面ノ木、黒田町の富永調整池付近、林道野入月ヶ平線などで観察回数が多い。旭地区では、時瀬町の城山森林公園や旭高原元気村などでの観察回数が多い。下山地区は東大林町の三河高原牧場、黒坂町などで観察された。

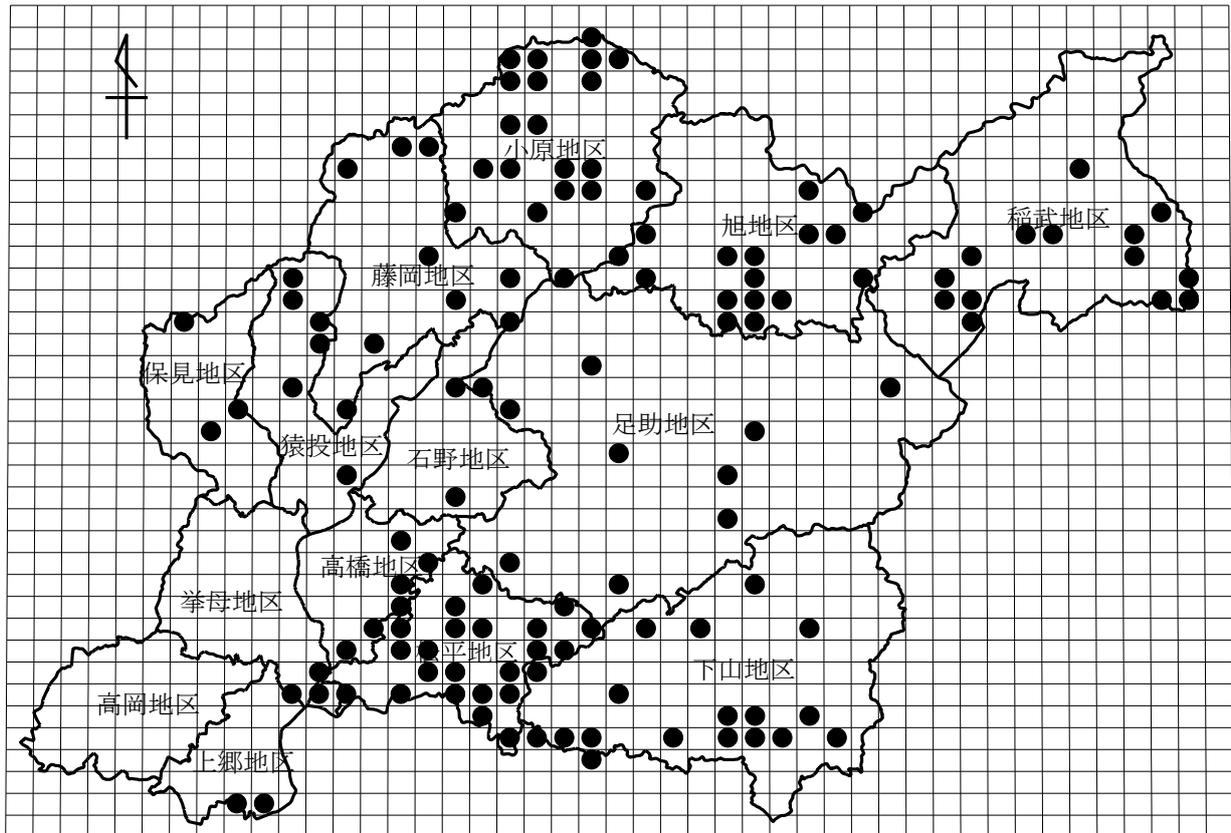


(39) サンショウクイ (スズメ目サンショウクイ科)

豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)

愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥				○	○	○	○	○	○	○		

「ヒリリリ」と鳴き、平地から山地の落葉広葉樹林に生息し、昆虫やクモなどを捕食する。獲物は樹上で捕える。全長は20cmでムクドリより少し小さい。ゆるい波型を描いて飛ぶ。1~2羽で頭上高く鳴きながら飛ぶことが多く、近くで見るとは少ない。特徴ある澄んだ鳴き声は遠くからでも聞こえる。落葉広葉樹の高木に営巣することが多い。秋、越冬地に渡る時は群れになる。渡りの途中に市街地の公園に立ち寄ることもあるが極めて少ない。

旧市域で最も多く記録された地区は松平地区で、六所山、焙烙山を容し、本種の好む環境が多いと考えられる。スギ、ヒノキの植林地は好まない森林性の鳥で、民家の近くや公園などで見ることは少ない。挙母地区、上郷地区、高岡地区には市街地、農耕地が多く、林がほとんどないので記録は極めて少ない。高橋地区、石野地区、猿投地区、保見地区には山林もあるが記録は多くない。

新市域では全地区で確認された。

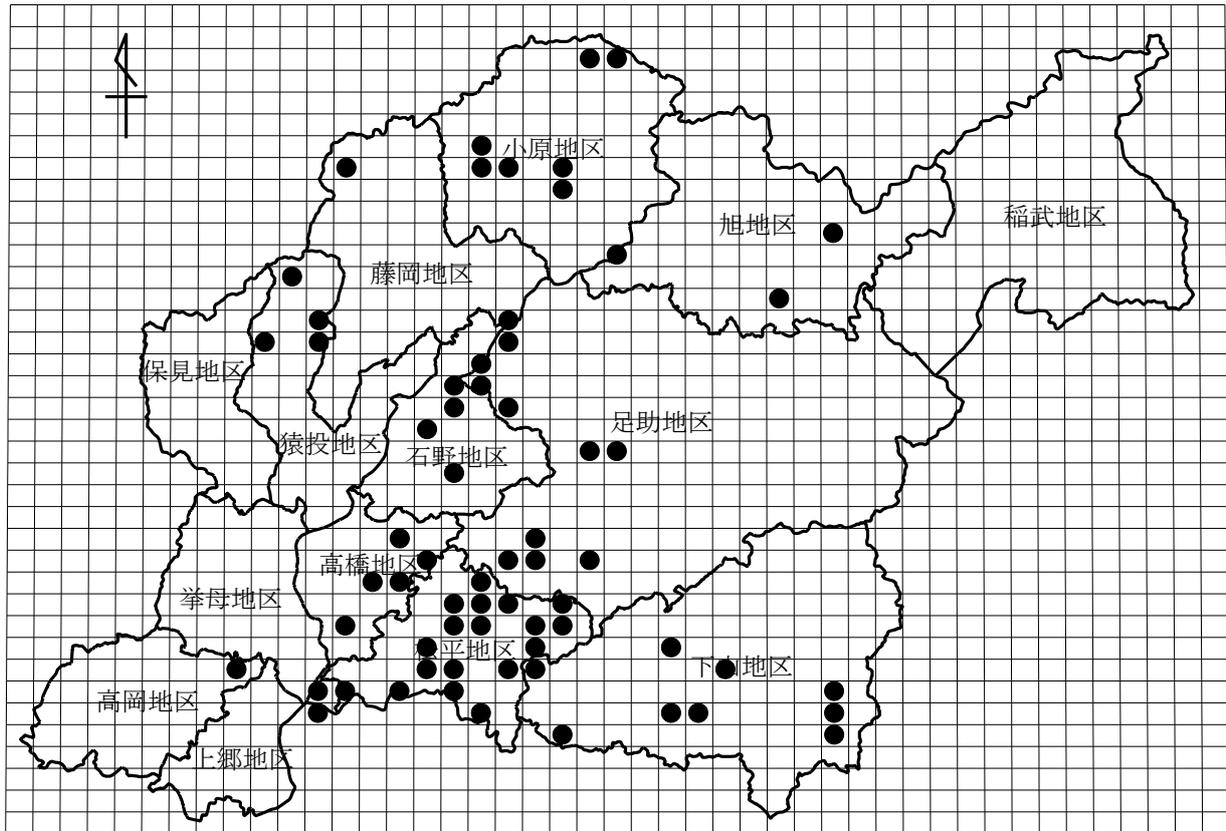


(40) サンコウチョウ (スズメ目カササギヒタキ科)

豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)

愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥				○	○	○	○	○	○			

5月の初め頃、東南アジア方面から夏鳥として、主にスギ林に渡ってくる。雄の長い尾とコバルトブルーのアイリングが印象に残る。囀りは「フィチーヒーチー、ホイホイホイ」と澄んだ声で鳴く。雌も同じように鳴く。この囀りを昔の人が「月、日、星、ホイホイホイ」と聞きなしたことから、三光鳥の名前が生まれた。低山の暗いスギ、ヒノキの植林地に好んで棲み営巣する。蛾などをフライングキャッチして捕える。渡りの途中には市街地の公園でも見られることがある。

旧市域で最も多く記録された所はスギ林の多い松平地区である。そして猿投地区、石野地区、高橋地区で生息が確認された。挙母地区、保見地区、上郷地区、高岡地区は市街地や工場、農耕地などで山林がないので記録が出ていない。

新市域では稲武地区を除いた各地区で確認している。

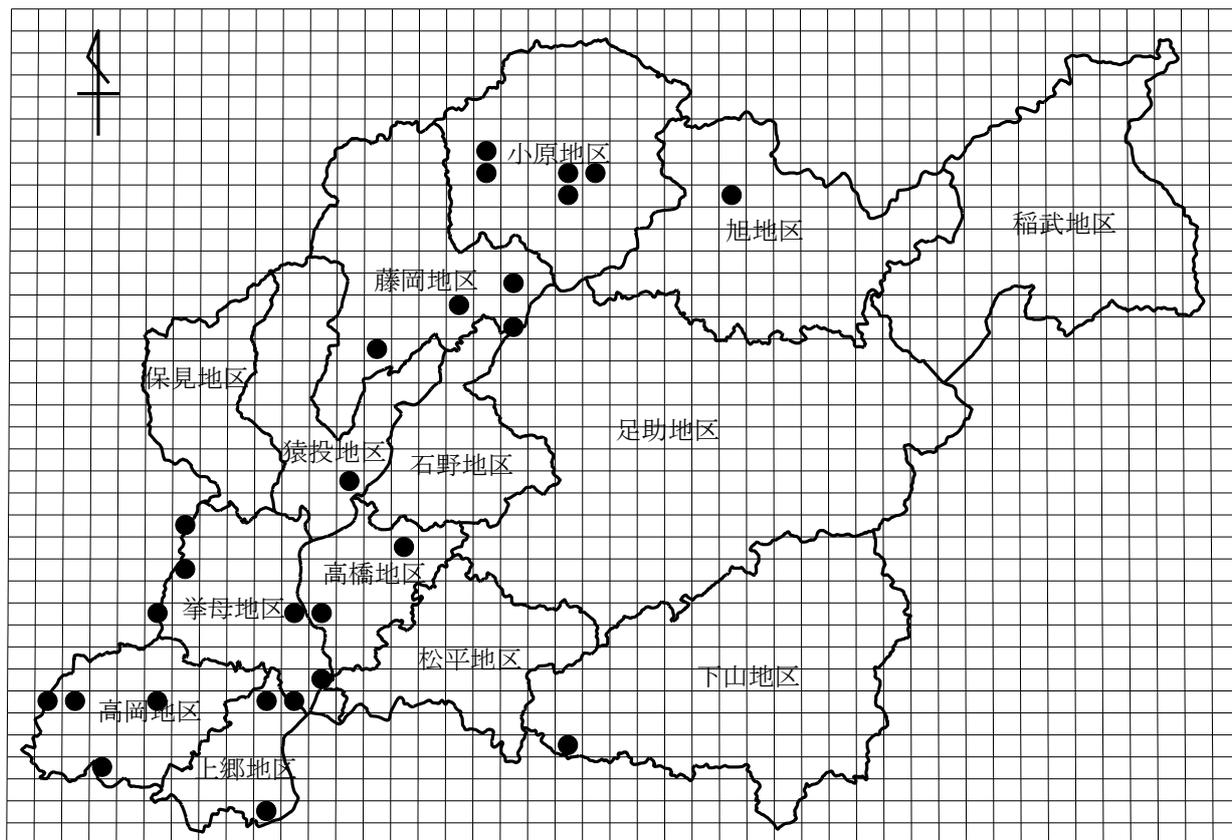


(41) コシアカツバメ (スズメ目ツバメ科)

豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)

愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥					○	○	○	○	○	○	○	

飛ぶとレンガ色の腰が目立つ。ツバメより大きくて尾が長く、飛び方もツバメより重そうに飛ぶ。ツバメより少し遅れて渡ってきて、家屋や倉庫の天井に徳利を縦に割ったような形の巣を作る。「ジュイ、ジュイ、ジュイー」と、濁った声で鳴く。食性は昆虫食。近年、著しく減少し、あまり見られなくなった。

秋、渡去前に群れになり、その頃は水田に集まるようになる。



旧市域で記録された場所は農耕地が比較的多い上郷地区、高岡地区である。上郷地区では畝部東町、柘塚東町など、高岡地区では大島町、広田町、上丘町などである。

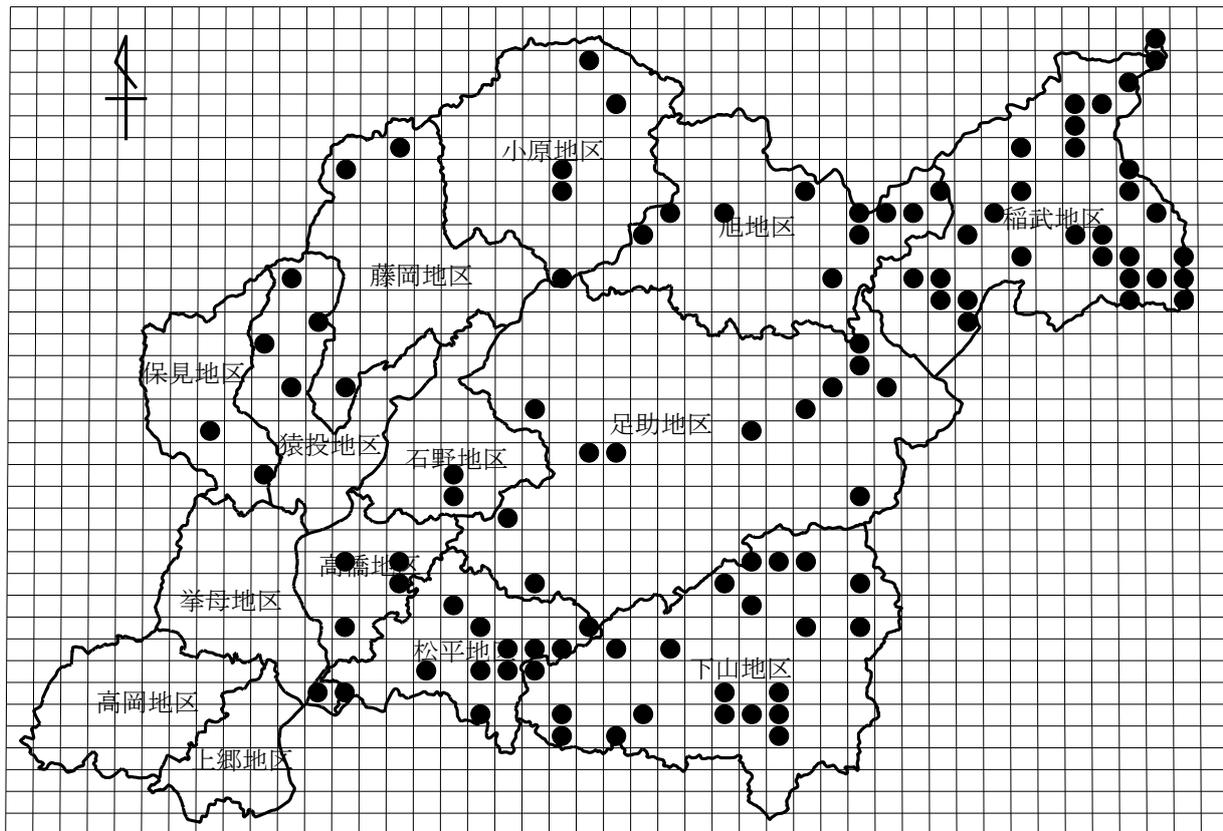
新市域では、足助地区、稲武地区では確認できなかった。確認した主な場所は、藤岡地区では御作町、下川口町、小原地区では永太郎町や道慈小学校付近、下山地区では下山田代町、旭地区では小渡町であった。

(42) ミソサザイ (スズメ目ミソサザイ科)

豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)

愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
旧市域 (冬鳥)	○	○	○	○						○	○	○
新市域 (留鳥)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

溪流で尾をピンとあげて、小さな体に似合わない大きな声で長く囀る。国内で最も小さな鳥の一つで全長は10.5cm。全体に縞模様のある濃い褐色。高地の溪流沿いを好む。谷沿いの石の洞、朽木の穴などにコケを集めて巣を作る。冬は温暖な山里に移動する。3月頃になると繁殖地に帰り始める。

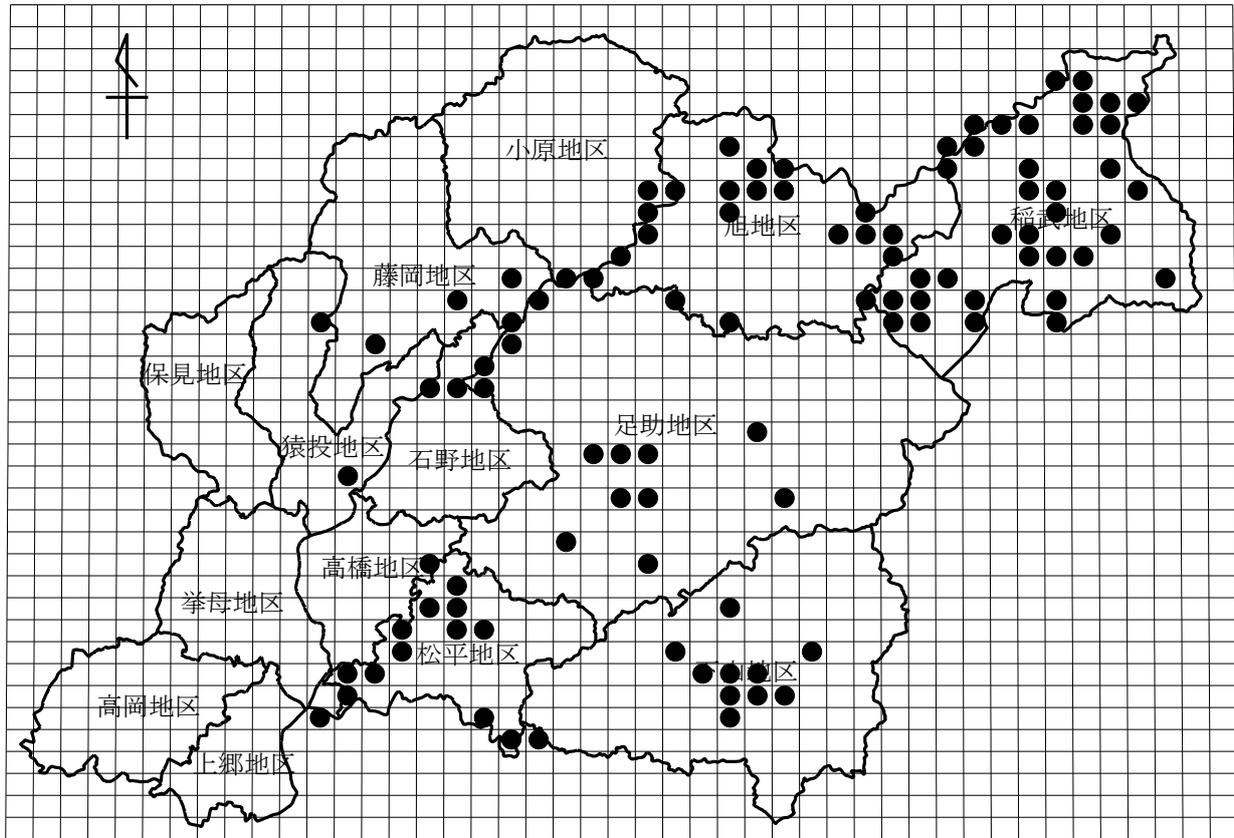
旧市域では、挙母地区、上郷地区、高岡地区では記録がなかった。他の地区では、沢筋を好むことから六所山、巴川、郡界川のある松平地区で最も多く確認した。猿投山周辺の記録も多い。しかし、旧市域での繁殖は確認されていない。また、本種は最近、観察機会が減ってきた種である。

新市域では全地区で確認したが、特に標高の高い稲武地区では、面ノ木周辺で繁殖している。他では、池ヶ平、黒田貯水池での観察が多い。下山地区では三河湖周辺や梨野川などでの記録が多い。足助地区では金沢段戸国有林、大多賀峠、神越溪谷、伊勢神高原などでの記録が多い。また繁殖も確認されている。



(43) カワガラス (スズメ目カワガラス科)  
 豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)  
 愛知県RDB2009：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

岩の多い溪流に生息し、水に潜って水棲昆虫を捕える。留鳥でムクドリより少し小さい。全身黒褐色で、体はずんぐりとし尾は短い。また、よく尾をあげた姿勢をとる。繁殖期が早く、12月頃からオスは囀り始める。濁った声で複雑に鳴く。地鳴きは「ビッビッ」。川の清流域に生息する代表格の鳥である。ダムの建設で、矢作川、巴川とも汚れが進み、減少を危惧する種である。

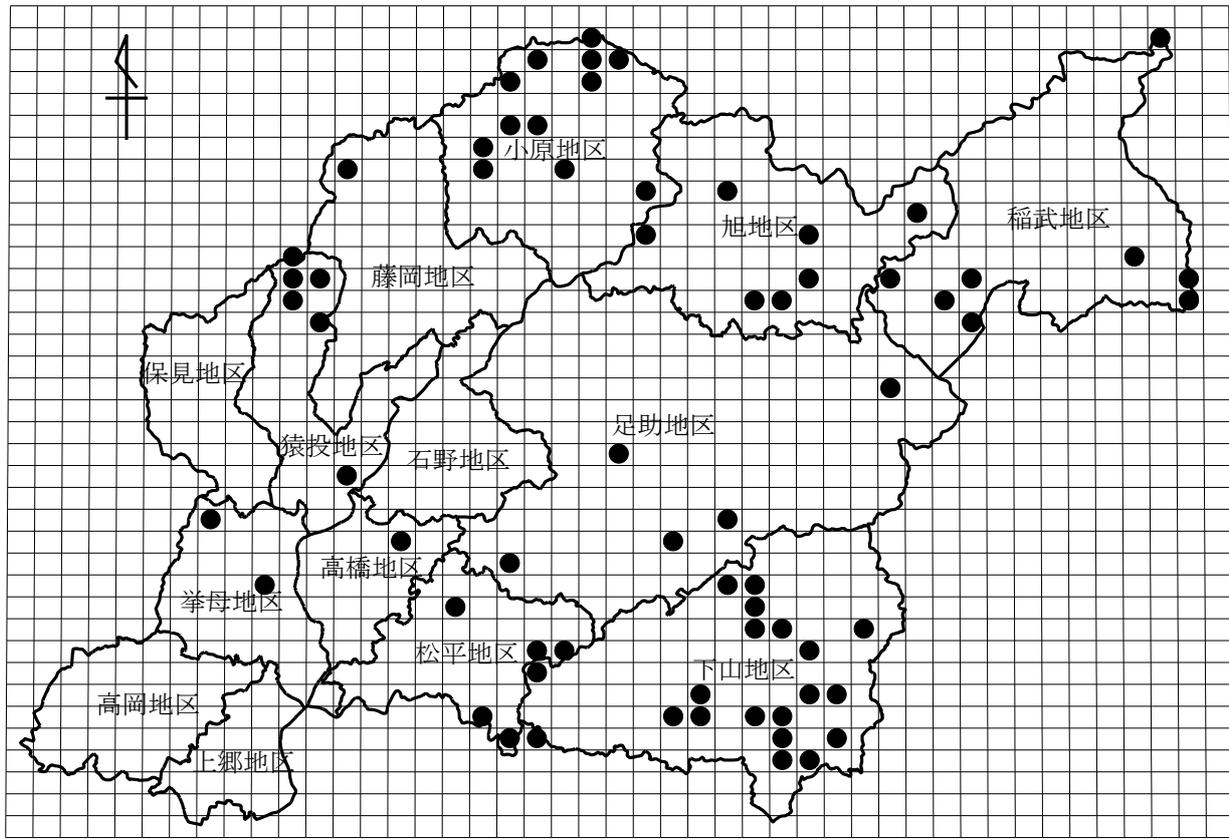


旧市域では松平地区で多くの記録がでた。よく見られた所は王滝溪谷、巴川とその支流の郡界川である。なかでも滝脇町周辺の二畳ヶ滝、日影ダムの記録が多い。

新市域では全地区で確認された。矢作川と支流の名倉川での記録が多い。また、巴川とその支流の足助川、神越川、野原川などで観察された。

(44) クロツグミ (スズメ目ヒタキ科)  
 豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)  
 愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥	○			○	○	○	○	○	○	○		

新緑の落葉広葉樹林で高らかに歌うクロツグミの囀りに出会ると、うっとりさせられ、しばし聞き入りたくなる。美声で、声が高く、いくつかの鳴き方を用意し、繰り返し鳴き続ける。歌い手としては名手といえよう。夏鳥として4月頃渡ってくる。渡りの途中では公園の林でも見られる。オスは黒くて、メスは茶褐色で目立たない。大きさはムクドリより少し小さい。主食はミミズ、昆虫類で、他のツグミ類と同じである。

旧市域では六所山と猿投山での記録が多い。双方とも繁殖の可能性がある。他に挙母地区、高橋地区の記録も出ているが、これらは渡り途中の記録と考えられる。

新市域では全地区で記録している。特に下山地区と小原地区での記録が多い。下山地区では羽布林道、三河高原牧場、和合町で、小原地区では小原田代町、大ヶ蔵連町など。その他の地区では旭地区の駒山、旭高原元気村、足助地区では伊勢神高原、金沢段戸国有林、稲武地区では面ノ木、三国山、タカドヤ高原湿地、藤岡地区では旧めぐみの森などである。



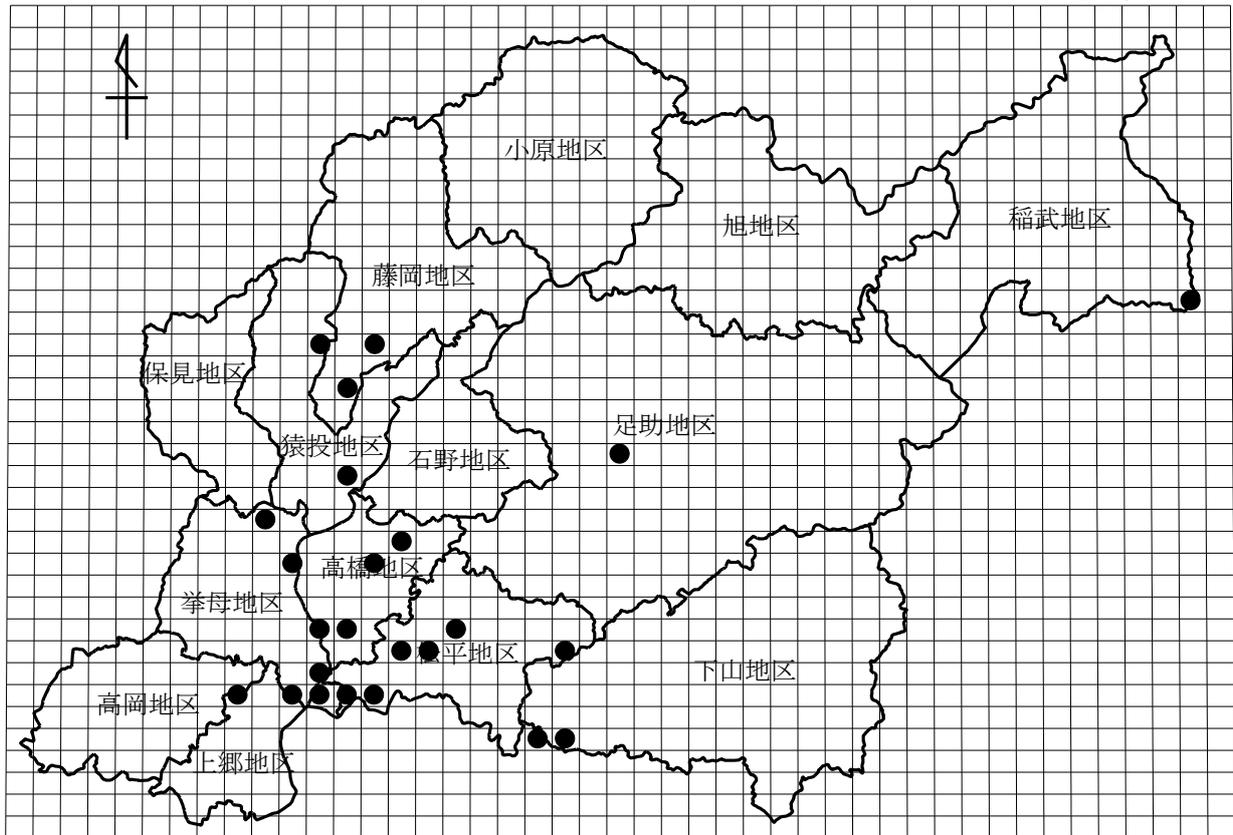
(注)  
 生息分布図には表していないが、石野地区で2002年度に確認している。

(45) アカハラ (スズメ目ヒタキ科)

豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)

愛知県RDB2009：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○	○	○	○					○	○	

夏は高原の明るい開けた林の地上で、落ち葉を跳ね上げてミミズや昆虫を捕る。冬は温暖な地方へ移動する。公園などでも見かける。全長24cmでハトより小さい。囀りは「キョロンキョロン、チリリリ」を繰り返す。地鳴きは「ツイー」、飛立つ時は「クワッ、クワッ」と鳴くことが多い。本種は減少の傾向が見られ、当市では冬の越冬個体と春秋の渡り途中の記録だけで、繁殖記録はない。

旧市域では、公園等での記録が多い。記録した所は自然観察の森、前田公園、トヨタの森、水源公園、鞍ヶ池公園、王滝溪谷、大給城址、猿投神社、千石公園、九久平町、宮前町、豊栄町、岩倉町、西山町、矢並町である。

新市域での記録は非常に少なく、稲武地区の面ノ木、足助地区の香嵐溪、下山地区の蕪木町、藤岡地区の深見町である。

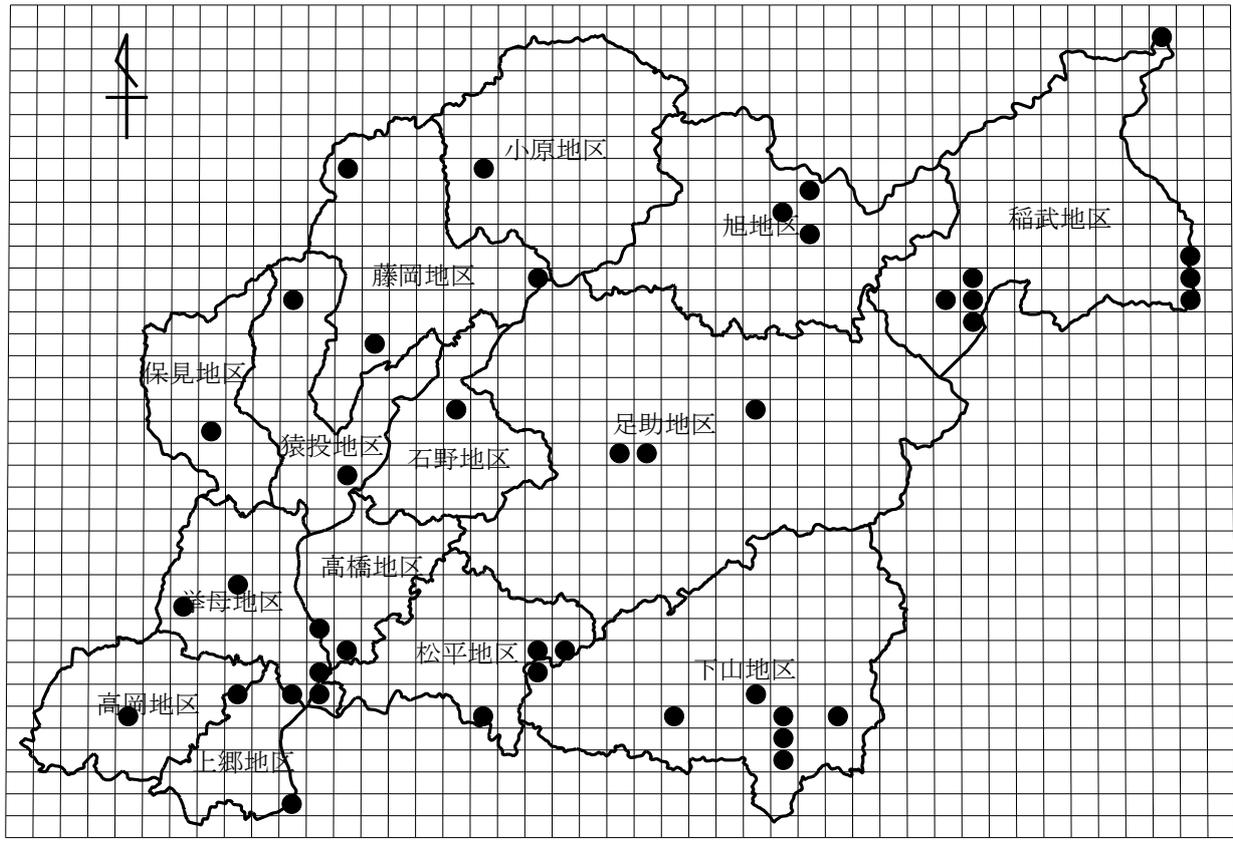


(46) コサメビタキ (スズメ目ヒタキ科)

豊田市希少種区分：準絶滅危惧 (NT)

愛知県RDB2009：準絶滅危惧 (NT)

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥				○	○	○	○	○	○	○		

木の梢などに止まり、飛んでいる虫をフライングキャッチする。白いアイリングがあり灰褐色。夏鳥として、低山から高原の落葉広葉樹の林に渡来する。囀りは「ティーチリチョピリリ」など複雑に鳴くが目立たない。大きさはスズメより小さく13cm。木の横枝に木のコブにそっくりな巣を作り繁殖する。10月頃、秋の渡りの季節には、市街地の公園などでも見られる。



旧市域では、各所で確認しているが、繁殖の記録は少ない。渡り途中に公園で観察されることが多い。挙母地区水源公園、河合池畔、秋葉町、本新町、樹木町、高橋地区トヨタの森などである。

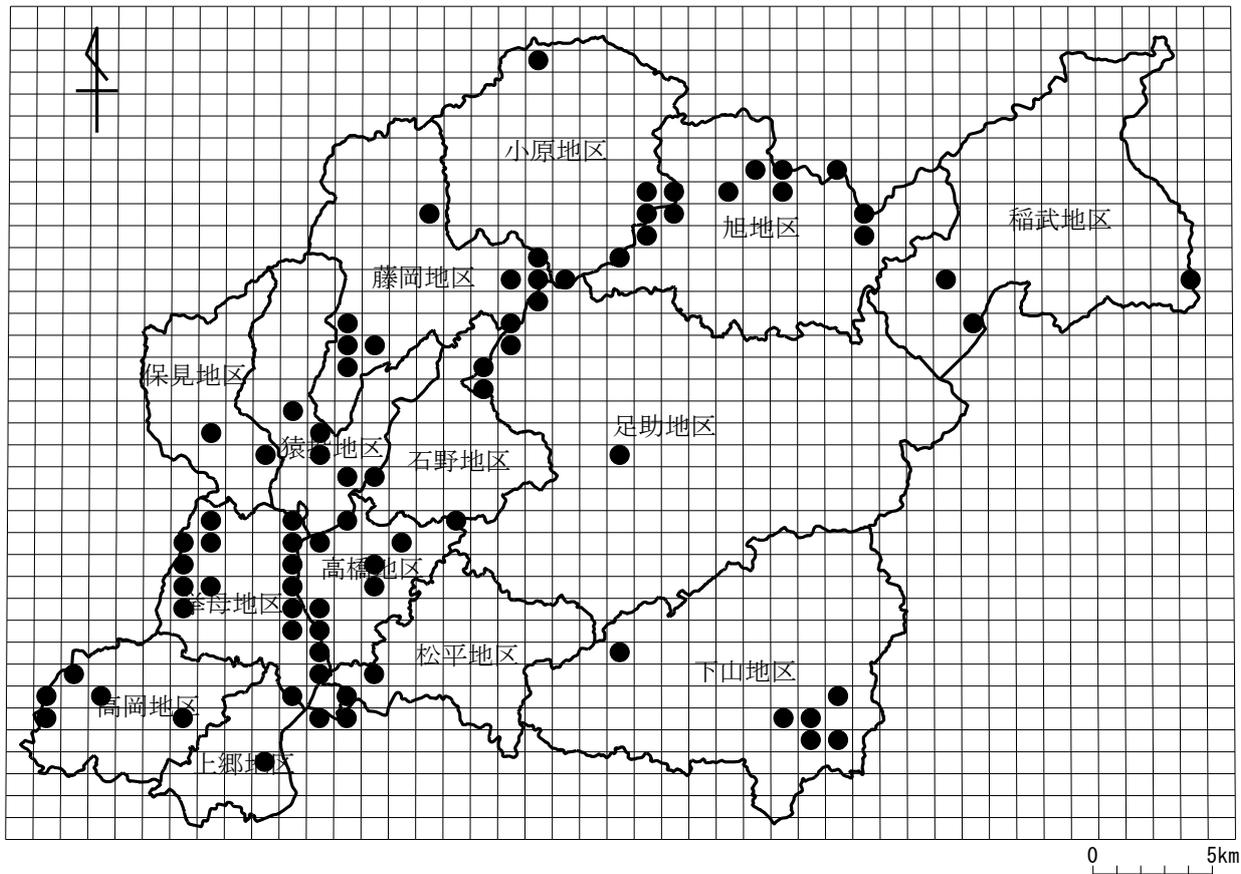
新市域の調査では記録は少なく、旧豊田市同様点在している。確認場所の多い稲武地区では名大演習林、面ノ木、三国山などである。下山地区では羽布町、三河湖周辺、六所山南面など、藤岡地区では昭和の森、旧めぐみの森などである。2011年7月、小原地区の道慈小学校近くで、繁殖の確認をしている。

(47) カイツブリ (カイツブリ目カイツブリ科)

豊田市希少種区分：配慮種

愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

アシ原のある池や大きな河川、ダムなどに生息し、潜って主に魚を捕食する。ムクドリくらいの大きさで嘴は尖る。体は丸く、翼が短く尾も短い。鳴き声は「キリリリリ、ケレレレ」。また、「ピッピッ」と小さな声でも鳴く。陸に上がることはほとんど無く、水上生活を送る。潜りが得意で、浮いている時間より潜っている時間の方が長いのではないかと。繁殖はヨシなどの丈夫な植物や杭を支えにして、浮巣をつくる。20年ほど前までは小さな池でも見られたが、近年、あまり見かけなくなった。



旧市域では挙母地区割目池、河合池、水源ダム、高橋地区の鞍ヶ池、自然観察の森の上池、石野地区の勘八峡ダムなどで、年間を通して見られる。

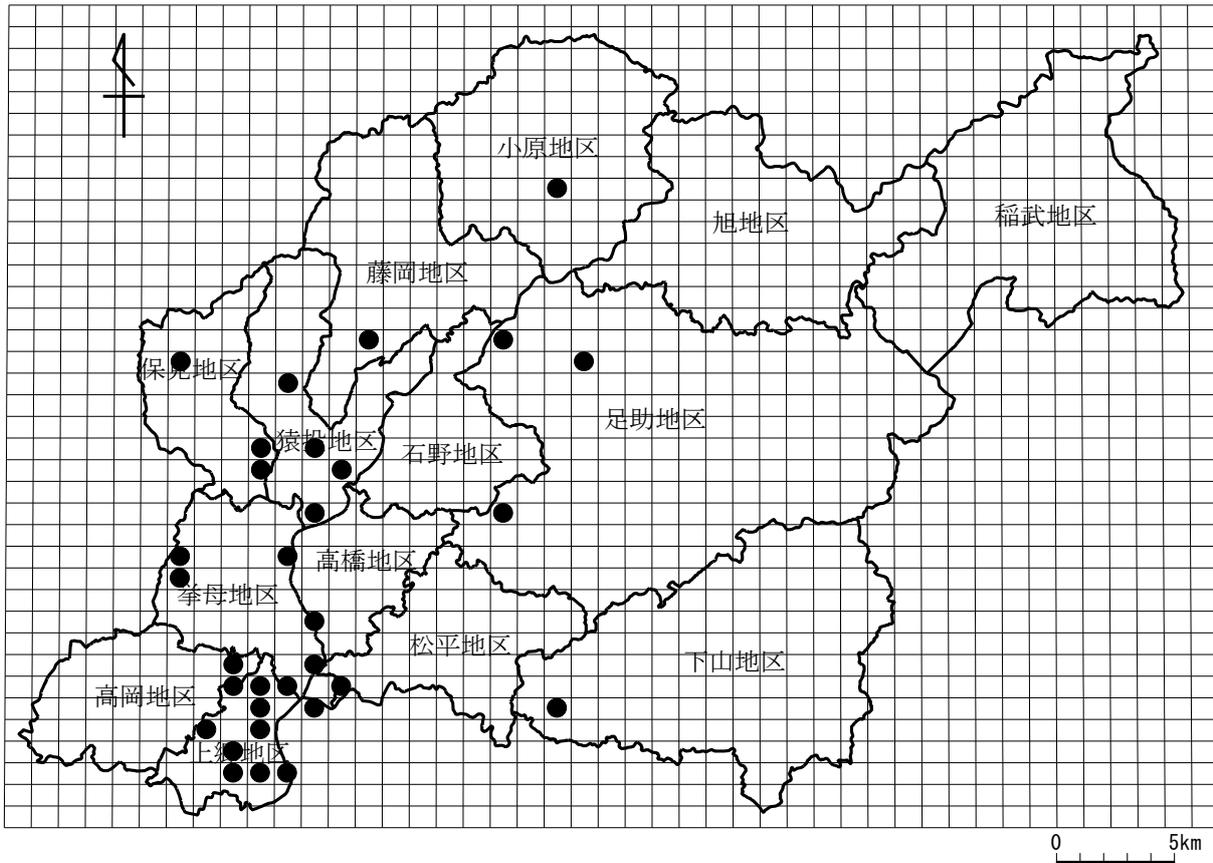
新市域では矢作川の足助地区阿摺ダム、小原地区の百月ダム、旭地区の矢作ダム、下山地区の三河湖、稲武地区の黒田貯水池、富永調整池などで一年中見られる。

(48) ゴイサギ (ペリカン目サギ科)

豊田市希少種区分：配慮種

愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥	○	○			○	○			○			

夜行性のサギで留鳥。昼間はアシ原や林の中で過ごし、夕方から川や池へ出かけていって魚やザリガニ、カエル、昆虫類などを捕る。大きさは58cm。カラス大で、普段は首を縮め、背をまるめてずんぐりした姿をしている。夜に飛びながら「クワッ…」、「コワッ…」とよく鳴くことから、夜ガラスと言われる。里山の縁で他のサギ類と一緒にコロニーをつくって繁殖するが、藤岡地区西中山町のコロニーにはアオサギ、ダイサギのみで本種は入っていなかった。



(注)  
生息分布図には表していないが、石野地区で2003年度に確認している。

旧市域では拳母地区水源ダム、河合池、割目池、矢作川の河川敷公園、高橋地区巴川の下流部などで観察している。

新市域では藤岡地区昭和の森、小原地区の支所付近、下山地区花沢町、足助地区大河原町の摺小川河口などで確認した。

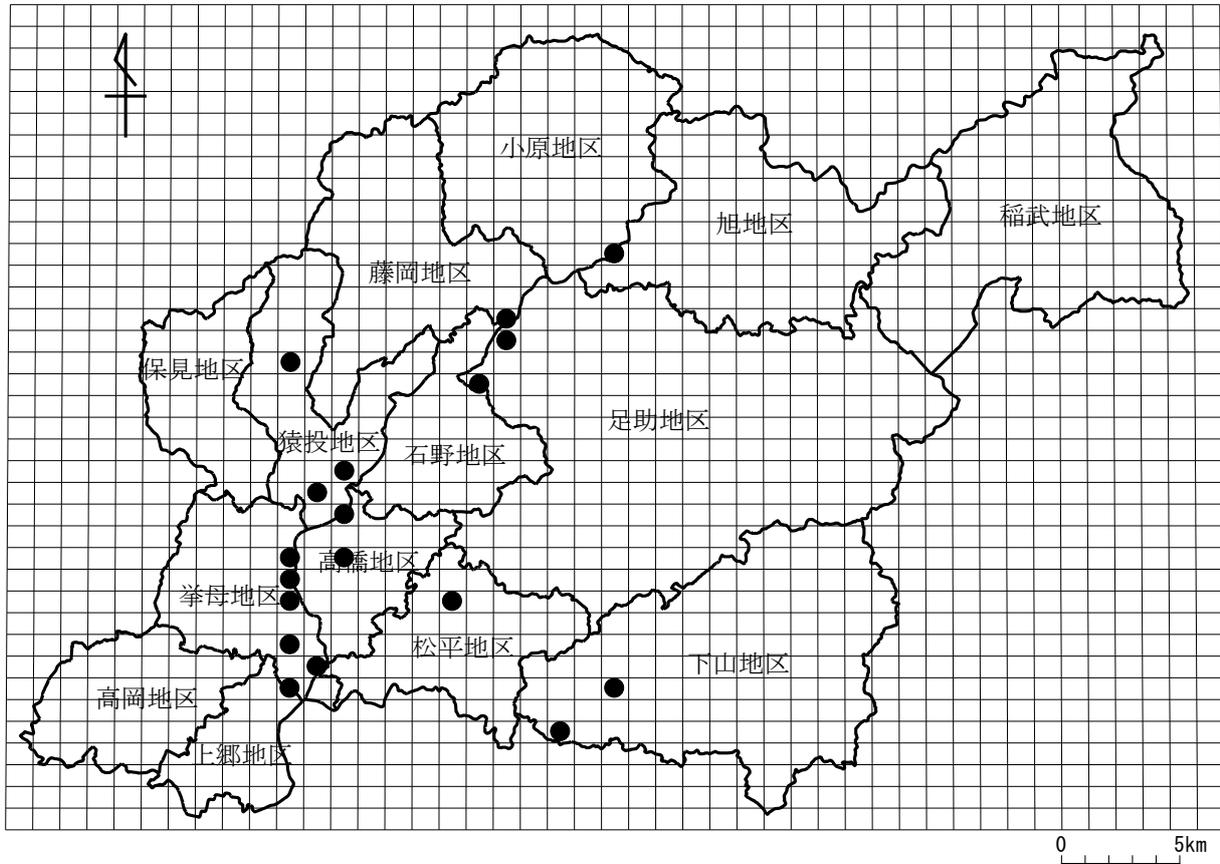
夜行性のため観察数は少ないが、この鳥は減少傾向にあり、今後の動向に注意したい。

(49) ササゴイ (ペリカン目サギ科)

豊田市希少種区分：配慮種

愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
夏鳥				○	○	○	○	○	○			

ハトより一回り大きい鳥で全長52cm。夏鳥として、流れのある幅の広い川で魚を捕食する。くちばしが長く、頭の上から背中にかけて青みがある黒で、後頭には同色の冠羽が数本ある。翼の上面は藍色で羽縁が白くササの葉のような模様になっていることからササゴイの名がついた。

鳴き声は飛翔中などに「キュウ」と鳴く。葉っぱをちぎって水面に落とし、魚が寄ってきたところを捕まえる賢さもある。

旧市域の水源ダム下流から前田公園までの矢作川に記録が集中する。魚が取り易い深さが条件となる。矢作川近くの挙母神社境内で10巣くらい営巣したこともある。

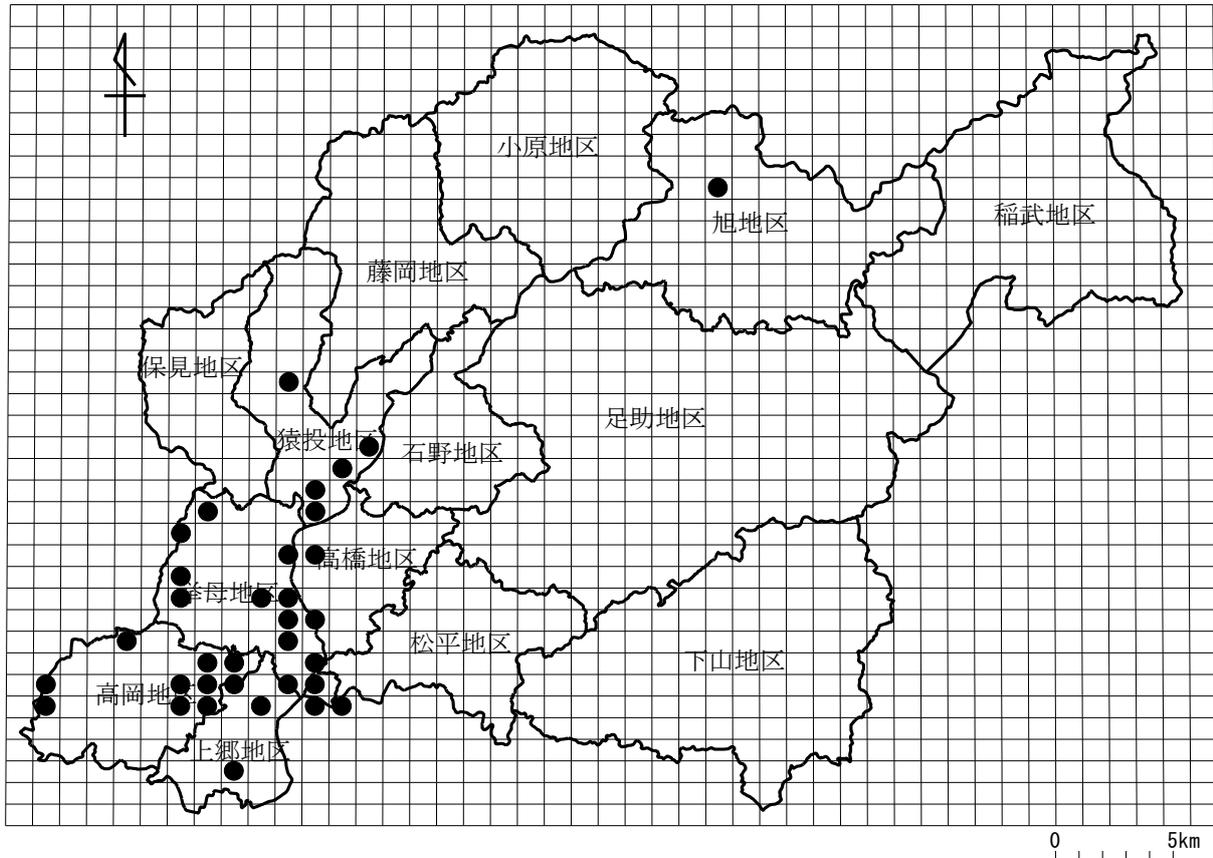
新市域での観察は藤岡地区下川口町や小原地区百月ダム、足助地区阿摺ダム、下山地区蕪木町、大沼町などで確認しているが少ない。



(注)  
生息分布図には表していないが、石野地区で2001～2003年度に確認している。

(50) コサギ (ペリカン目サギ科)  
 豊田市希少種区分：配慮種  
 愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥				○	○				○			

水田や湖沼，湿地帯や川の浅瀬などで見られ，市街地にある河川や水田などでも姿が見られる。大きさは61cmでカラスほどのサイズだが，白いサギでは小型。全身が白く，夏羽では後頭に2本の長い冠羽があり，背や胸に長い飾り羽が出る。嘴は冬も黒く，足の指が黄色。浅い水辺では，足を振るわせるようにして魚を捕ることがある。鳴き声は時々「グアー」としわがれ声を出す。

旧市域では挙母地区矢作川の水源ダム下，高橋地区千石町や猿投地区平戸橋などで観察している。また，池では挙母地区の河合池，本新町割目池などで観察している。高岡地区では大島町大島笹池，中田町西池など，上郷地区は水田での確認が多く駕鴨町，西田町，竜神町などである。

また，新市域では旭地区小渡町の1回のみ  
の結果であった。



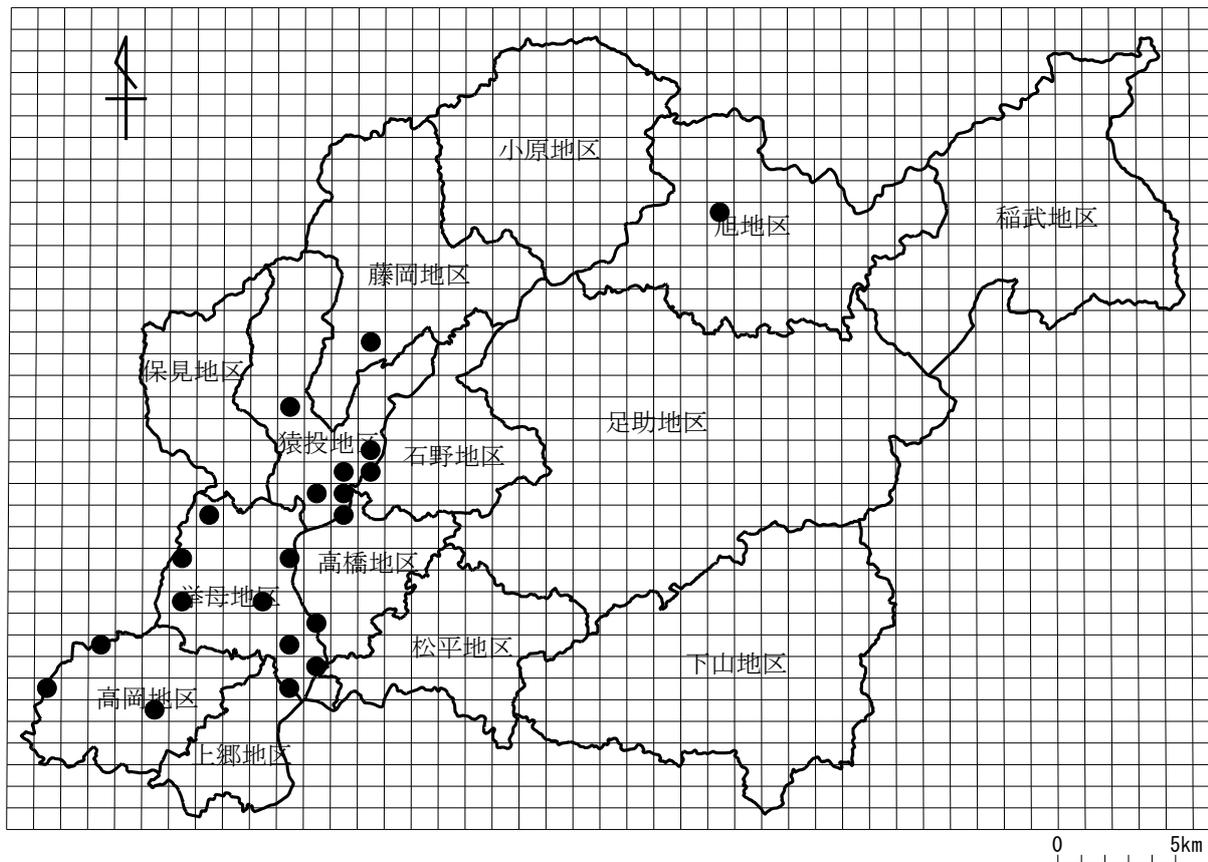
(注)  
 生息分布図には表していないが，  
 保見地区で2001～2003年度に確認している。

(51) バン (ツル目クイナ科)

豊田市希少種区分：配慮種

愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
留鳥			○		○						○	○

湖沼や河川、ハス田、アシ原などの湿地に生息し草むらや水田などで営巣する。黒い体で夏には額が赤くなる。水田や湖沼、湿地帯などで見られ、市街地にある河川や水田なども姿が見られる。

体長は35cmほどで、ハトくらいの大きさ。全身が黒く、上面には褐色味がある。額が赤く、嘴の先が黄色。脇に白斑があり下尾筒の両脇も白い。鳴き声は「クルル」、「キュッキュ」等と鳴く。

旧市域の挙母地区では河合池、割目池、大池町鉛池、秋葉町、水源ダムなど、猿投地区では御船町、花本町、舞木町、矢作川中流の高橋地区では千石町古崩水辺公園などで確認している。高岡地区では堤本町本地池、大島町大島笹池や若林西町の水田で確認した。

新市域では藤岡地区の昭和の森と旭地区の小渡町の矢作川での2地区の確認だけにとどまっている。



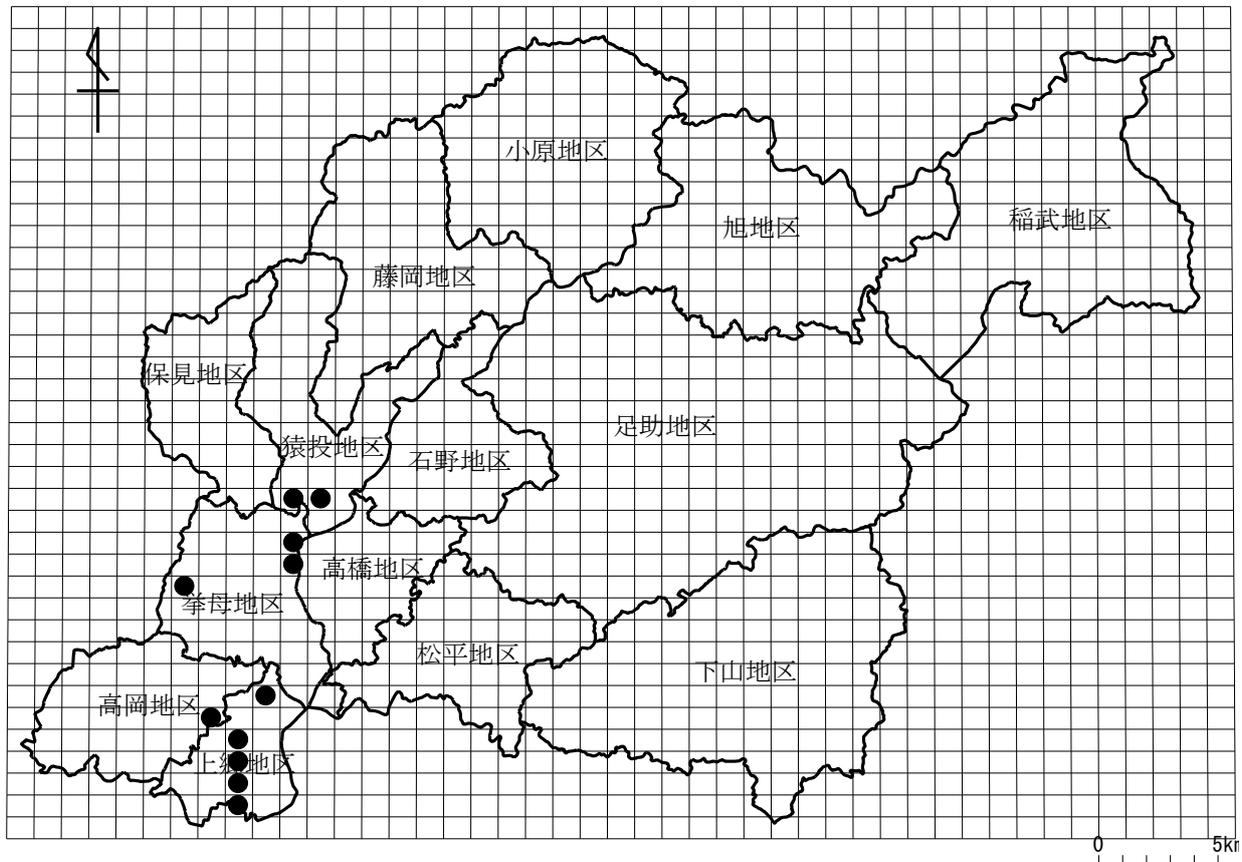
(注)  
生息分布図には表していないが、上郷地区で2001～2003年度に、保見地区で2001～2003年度に確認している。

(52) タゲリ (チドリ目チドリ科)

豊田市希少種区分：配慮種

愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○									○	

長い冠羽をもつ大型のチドリで水田や河川、湿地帯などに生息。体長は32cmでハト大。

頭の上に黒い羽があり、目の周りは白と黒の模様がある。首から羽にかけて黒っぽく、腹は白っぽい。「ミュー」という子猫に似た鳴き声をだす。繁殖期は「クィックウィー」、「プィウィー」等と大きな声で鳴く。

豊田市では観察記録が少なく、水田も冬季には乾田化されてきておりなかなか見つけられない。

旧市域と新市域では旧市域の調査でしか確認していない。確認場所は上郷地区の畝部西町や上郷町、渡刈町である。猿投地区での記録は花本町と上原町となっている。

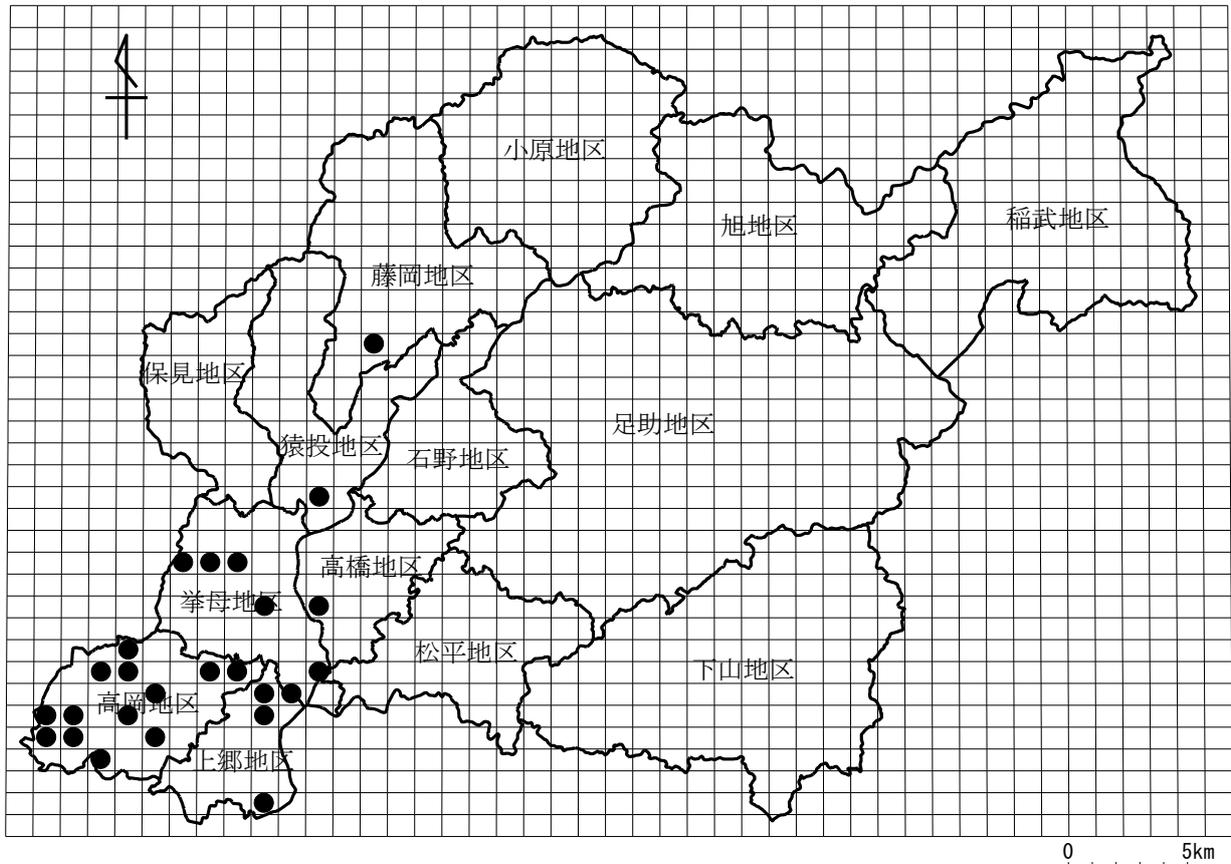
なお、調査以外では拳母地区西新町、高橋地区千石公園、上郷地区大成町で確認している。



(注)  
生息分布図には表していないが、高岡地区で2001年度に確認している。

(53) タシギ (チドリ目シギ科)  
 豊田市希少種区分：配慮種  
 愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○

近寄ると「ジェッ」と鳴き、急に飛んで行ってしまふ敏感なシギ。似た種類がいるので観察条件が良くないと識別は難しい。体長は27cmくらいでツグミとほぼ同じ大きさ。水田や蓮田、湿地等に棲む。日中は草陰や稲の切り株の影に潜み、夕方から活動する。乾田化等で生息環境が悪化し、最近ではあまり見られなくなってきた。

旧市域の調査で確認した地区は高岡地区、上郷地区、挙母地区、猿投地区である。高岡地区では若林西町、広田町、堤町、高丘新町などで確認。上郷地区では渡刈町の豊野高校北、駕鴨町、大林町など。挙母地区では上挙母町、高崎町、宮口町、宮上町など。

新市域では藤岡地区の昭和の森付近のみで記録した。

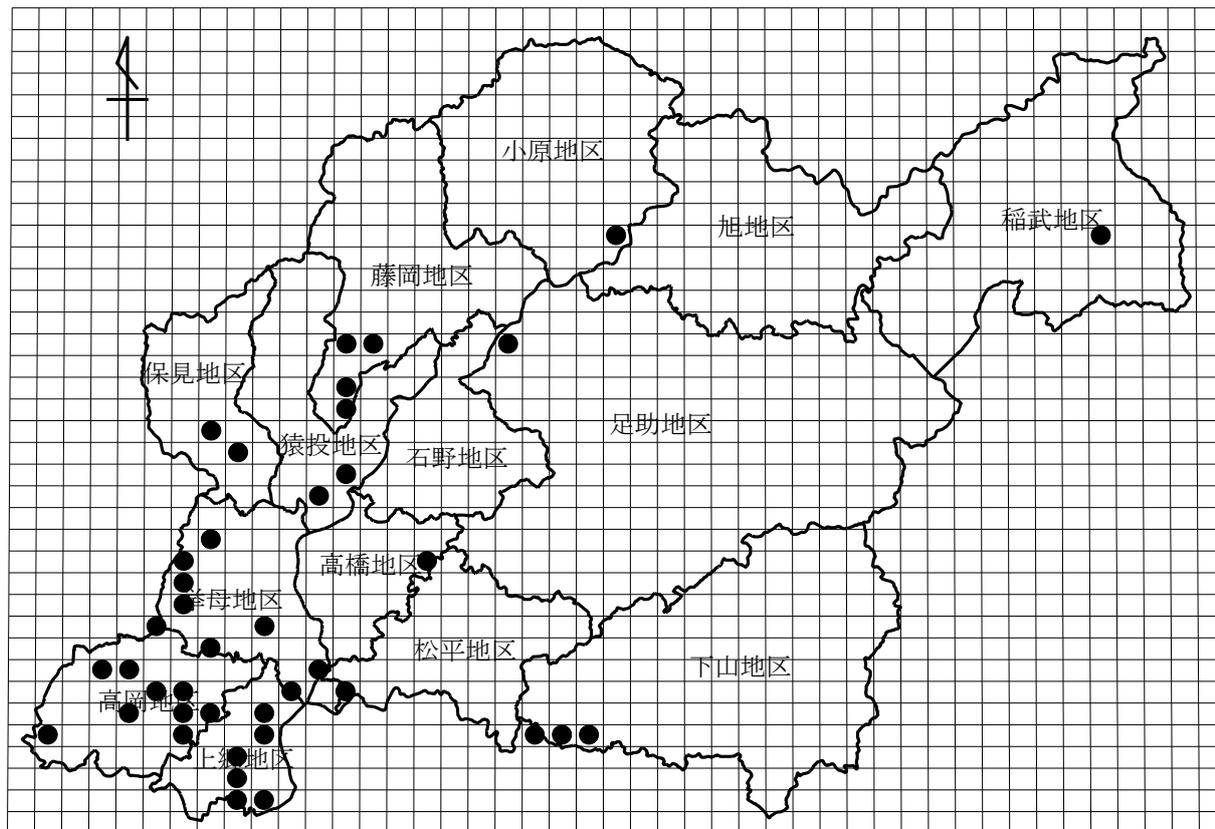


(注)  
 生息分布図には表していないが、  
 保見地区 (2001年度、2002年度)、  
 石野地区 (2001年度) で確認している。

(54) クサシギ (チドリ目シギ科)

豊田市希少種区分：配慮種  
愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

冬鳥として渡ってくる。単独でいることが多く、水田、川岸、湿地などに生息する。イソシギに似るが、やや大きく、足は黒緑色。白い眉斑は目の上で止まる。アイリングは白い。嘴は黒く、基部は淡い。腰から尾は白く、尾には黒い横縞がある。腹から下は白い。体長は24cmくらい。尾を上下に振る。鳴き声は飛び立つ時「チュイイ、チュイチュイ」と鳴く。飛びながら「チュリー」と鳴く。昆虫類と幼虫、クモ、ミミズ、エビなど食べ物は幅広い。

旧市域の観察記録の多い地区は水田の多い高岡地区と上郷地区である。挙母地区、高橋地区、猿投地区、保見地区でも確認したが、松平地区、石野地区では確認できなかった。

新市域では藤岡地区の昭和の森と深見町で確認した。下山地区では蕪木町で2年続けて確認、足助地区では大河原町の摺小川河口で、稲武地区では大野瀬町の野入川堰堤で確認した。足助地区、稲武地区の記録はこの1回のみである。小原地区と旭地区は全く確認できなかった。

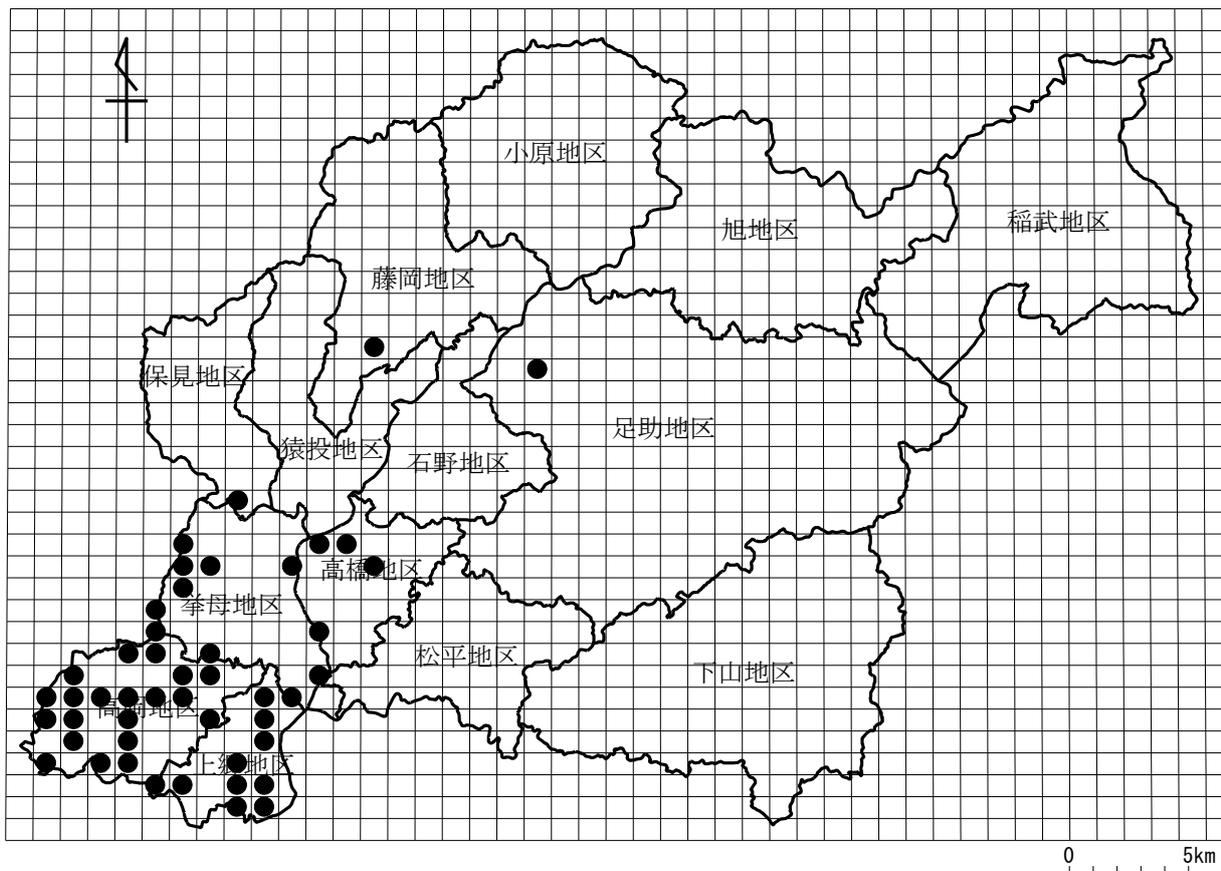


(55) チョウゲンボウ (ハヤブサ目ハヤブサ科)

豊田市希少種区分：配慮種

愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○	○	○					○	○	○	○

冬鳥として農耕地、丘陵地に渡来し、当地で秋から冬を過ごす。ハトぐらいの大きさで、尾が長い。ハヤブサの仲間で、停空飛翔（ホバリング）で獲物をねらい、急降下してネズミ、トカゲ、バッタなどの昆虫を捕える。スズメなど小鳥も狙うが飛行中追うことはほとんど無く、飛び立つ前を襲う。本州の中部地方以北の山岳地帯の崖で繁殖するものもあるが、近年は都市の建築物で営巣、繁殖する事例が増えてきた。

旧市域の調査では、農耕地の多い高岡地区、上郷地区で多く観察されている。地区内のほとんどの町で確認された。拳母地区は河合町、水源町、秋葉町、宮口町、太平町、高崎町で観察された。高橋地区は市木町、寺部町、平井町で観察された。保見地区では浄水町でただ1回観察された。猿投地区、松平地区、石野地区では観察できなかった。

新市域では藤岡地区の昭和の森と足助地区の摺町で観察したのみであった。

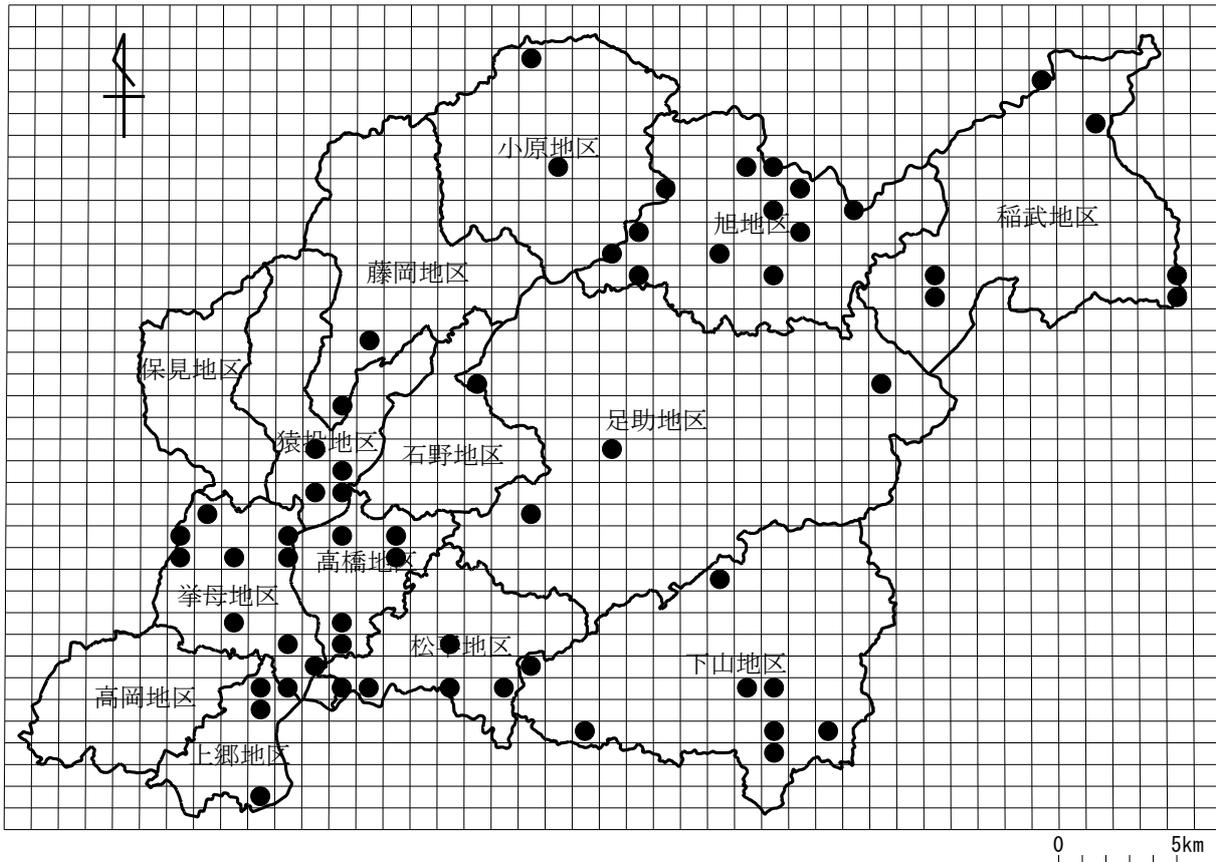


(56) ビンズイ (スズメ目セキレイ科)

豊田市希少種区分：配慮種

愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○	○	○	○					○	○	○

スズメより少し大きい鳥で冬鳥。セキレイの仲間で尾を振る。高原で繁殖する。地鳴きは「ツイー」。囀りはヒバリに似た美声で長く鳴く。10月頃になると高原の繁殖地を離れ、暖かい地方への移動が始まる。市街地近くの林縁や公園の林で特にマツの木のあるところを好む。地上を歩きながら主に小昆虫を捕食するが冬は昆虫が少なくなるので、マツの実、タデの実など植物の種子も食べる。

愛知県では、面ノ木や茶臼山で繁殖期に確認していたが、現在では確認はしていない。近年、生息数が減少傾向にある。

旧市域では全地区で確認した。特に挙母地区、高橋地区で多く確認された。

新市域でも全地区で確認した。



(注)

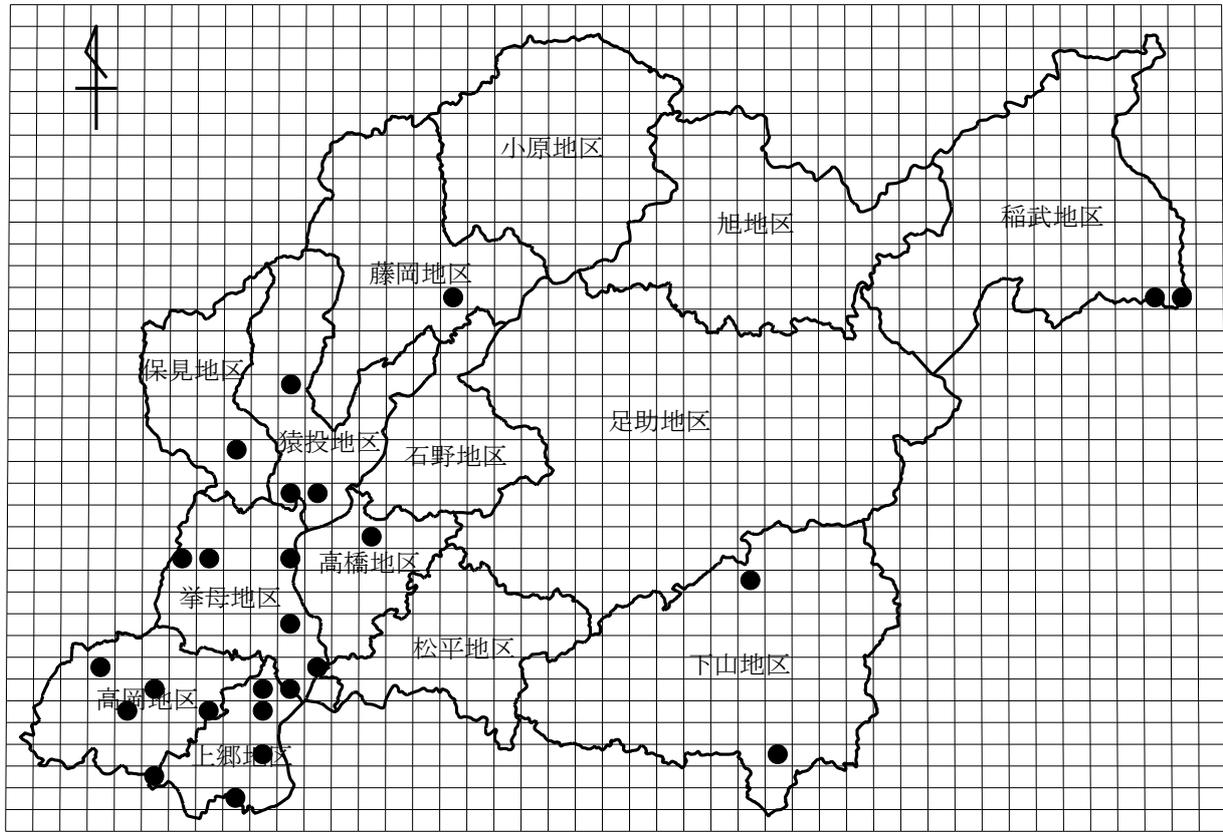
生息分布図には表していないが、高岡地区(2003年度)、保見地区(2001年度、2003年度)、石野地区(2001~2003年度)で確認している。

(57) タヒバリ (スズメ目セキレイ科)

豊田市希少種区分：配慮種

愛知県RDB2009：指定なし

生息分布図



年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
冬鳥	○	○	○	○						○	○	○

晩秋から初冬にかけて、シベリア方面から越冬に渡ってくる。数羽から数十羽の群れで、川岸や中州、水田、耕地等で小昆虫などを捕食する。体長は16cm、スズメよりやや大きい。鳴き声は「チッチッ」または「ピッピッ」。セキレイの仲間とビンズイと色彩、模様がよく似るが、鳴き声と生息場所が違う。タヒバリの水田、耕地に対して、ビンズイは林縁で木の枝に止まるが、タヒバリは木の枝に止まることはない。

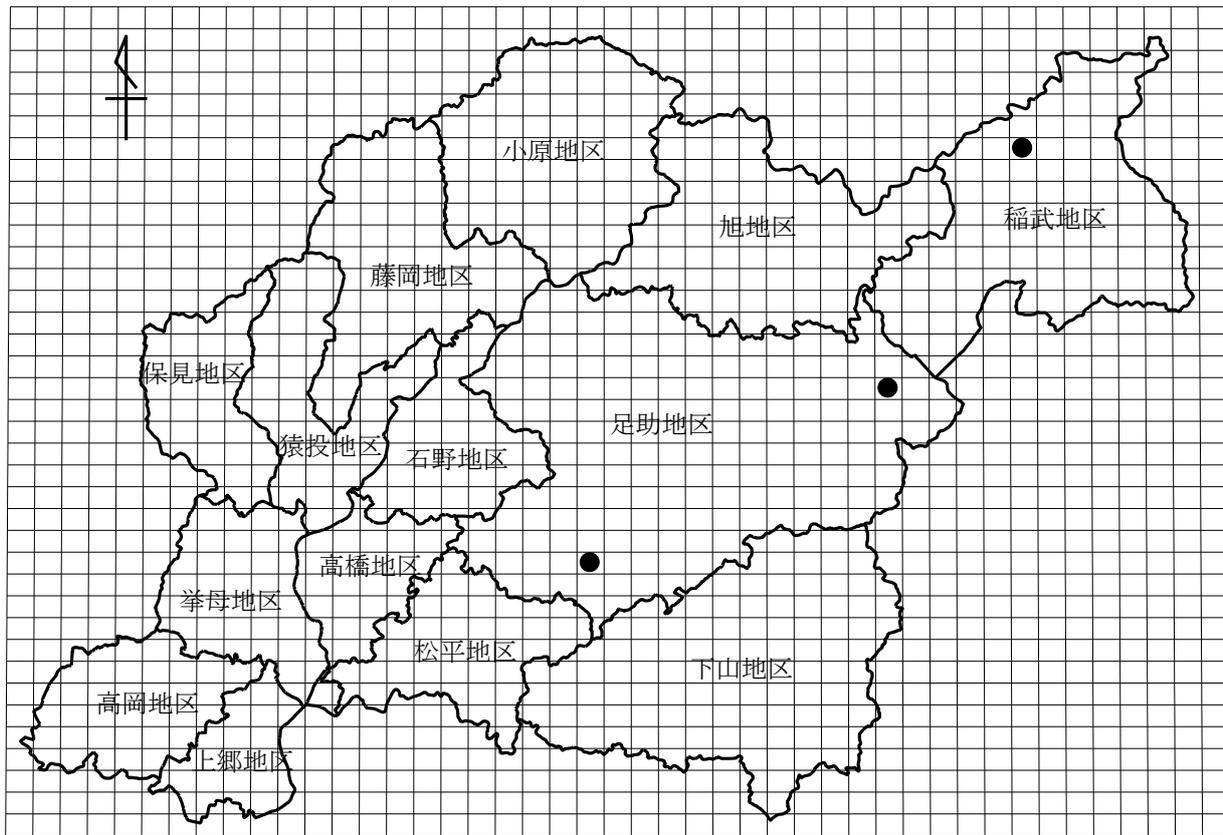


旧市域では各地域で観察している。上郷地区での確認回数が多く、渡刈町、駕鴨町、畷部東町などで最高26羽の群れを確認した。また高岡地区では若林西町、広田町、西田町などである。

新市域では確認回数も少なく下山地区の三河高原牧場で50羽の群れを確認、また和合町でも確認している。稲武地区では面ノ木牧場で2010年12月に3羽、2011年3月に5羽の小群を確認している。藤岡地区では御作町で1回確認したのみであった。乾田化によって最近見かけることが少なくなってきている。

(58) 特定外来生物 ガビチョウ (スズメ目チメドリ科)

生息分布図



年間月別確認表

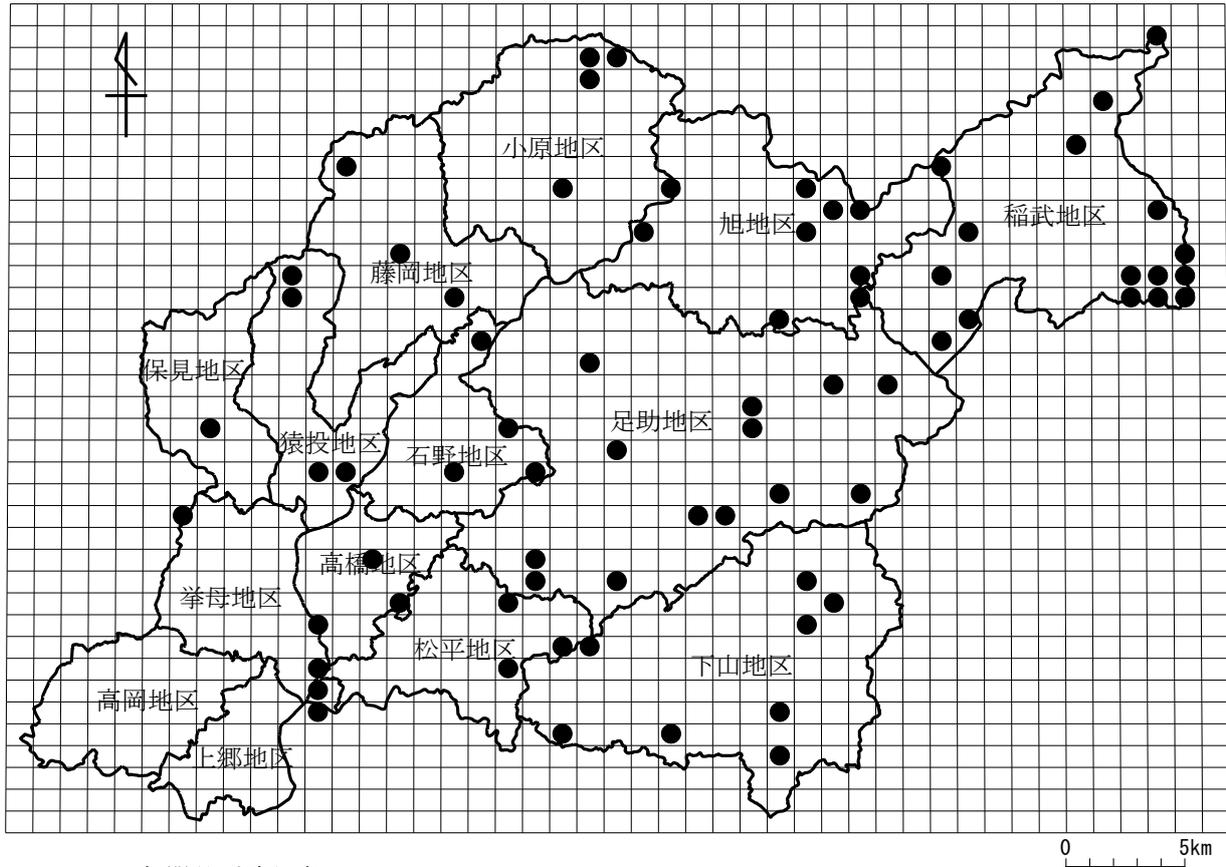
渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
—						○	○				○	○

ムクドリくらいの大きさで、全体が黄褐色で目の周りが白く、白いラインが後方に伸びる。中国南部から東南アジアの北部、台湾に分布する。低木林、藪に生息し、地上採食性で昆虫や果実を食べる。囀りは美声で中国では飼い鳥として人気がある。日本でも1970年代に人気となり輸入された。その後、東京近郊の高尾山、丹沢、箱根などで野生化していることが分り、以後、関東一円に広がっていった。愛知県では単発的に記録は出ていたが、目だった広がりはなかった。

2011年8月に足助地区の四ツ松町で地元の人から「変な鳥がいる」と自然観察の森に電話が入り、ガビチョウと分かり、豊田市の初記録となった。翌年の2012年6月に同じく足助地区大多賀町の伊勢神高原湿地の近くで豊田市での2回目を記録した、翌年の2013年11月稲武地区の押山町で豊田市で3回目を記録した。

今後の動向を注視していきたい。





年間月別確認表

渡り区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

スズメよりやや小さい。嘴の赤橙色が目立つ。ヒマラヤ、中国の南西部等の山地で、林床をササが覆う落葉広葉樹林、針広混交林に生息する。声も姿もきれいなので、中国では古くから飼われた。日本でも人気の飼い鳥であった。1980年代に東京近辺で繁殖が見つかり、生息地を広げていった。愛知県では1990年代になって、段戸裏谷で繁殖が確認された。豊田市では1998年、高橋地区渡合町の山林で鳥類の標識調査の網に4羽掛かり、豊田市初記録となった。その後、観察記録は急に広がっていった。冬期に山にエサが無くなると平地に下りて越冬する。繁殖はウグイスと同じ林床のササで営巣するので、ウグイスとの競合が心配されるが、今のところ影響はよく分らない。



旧市域の3年間の調査では挙母地区の秋葉町で2回観察されただけだったが、その後の調査では多くの地区で観察されるようになった。

新市域の6年間の調査では全地区で確認されたが、特に稲武地区では繁殖期に多く観察した。

## 6 考察

豊田市は市域が広く、標高数 m の平地から 1,200m の山地が含まれる。そのため、場所によって気温や降水量が異なり、多様な自然が見られる。川も上流から下流へ緩急流れを変え、いろいろな環境が形成される。

いろいろな環境が重なりあった所には、それぞれの特徴を持った、いろいろな生き物が見られる。たくさんの種類が混ざり合った環境、すなわち、多様性の高い環境に、野鳥もたくさん生息している。今回の調査結果を見ると、旧市域と新市域の種数がそのことを表している。また、それぞれ地区別の種数からも同様なことが言える。環境を大きく分ければ、川や池のある環境、水田や畑の環境、森林やその境界の環境、人家のまわりの環境がある。これらの環境の混ざり合った多様性の高い環境は河川沿い等、水辺を中心とした環境と言える。そのような場所こそ、身近な自然として保護していく必要がある。

2014 年に「豊田市の生物多様性に関わる行動目標」が示された。本行動目標にしたがい、生物多様性を損なうおそれがある開発等は、生物多様性の保全の対策を確実に取られることが望まれる。最近の保全例では、下山地区と岡崎市にまたがる里山に建設されるトヨタ自動車新研究開発施設計画について、事業者と地域や環境保護団体等が何度も意見交換を行った。その結果、当初計画の改変区域が大幅に縮小され、事業面積の約 6 割の森林・谷津田が保全区域として確保されることとなった。但し、環境保護団体等は、これだけでは不十分としている。

豊田市には手入れの行き届いていない薄暗い人工林が多い。このような森林は光環境悪化等により、いろいろな生き物が生息しにくい環境となっている。この人工林について、「豊田市 100 年の森づくり構想」で示されているように、適正に整備が進み、いろいろな生き物を育む森に変わっていくことが期待される。

今回の生物調査報告書では、どの種がどの場所に生息しているかについてまとめた。この結果から、絶滅のおそれがあると思われる種を希少種として選定し、「愛知県レッドデータブック 2009」に基づきランク付した。尚、ランク付けは全てがデータに基づくものでなく、感覚的な評価と併せてランク付けしている。絶滅のおそれのある種をよりの確に把握するためには、個体数と生息環境の経年変化のデータが必要となる。このためには、今後継続調査を実施し、データを蓄積していくことが必要である。

「豊田版レッドリスト」作成では、「レッドリストあいち 2015」の評価方法を検討する。その評価方法とは、豊田市内における鳥類の「推定個体数」「個体数の増減」「生息環境の減少傾向」「推定生息地数」の 4 項目について段階評価する。また、繁殖、越冬、通過の時期ごとに評価するものである。

## 7 引用・参考文献

- 愛知県鳥類目録検討委員会（未発表）愛知県鳥類目録 2014. 愛知県野鳥保護連絡協議会.  
愛知県環境部（2015）レッドリストあいち 2015. 愛知県.  
[http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/redlist/redlist\\_2015.pdf](http://www.pref.aichi.jp/kankyo/sizen-ka/shizen/yasei/redlist/redlist_2015.pdf)  
愛知県環境部自然環境課（編）（2002）愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 動物編 2002. 愛知県. 596pp.  
愛知県環境調査センター（編）（2009）愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち 2009 -動物編-. 愛知県. 651pp.  
愛知県農地林務部自然保護課（1983）愛知の野鳥. 愛知県. 332pp.  
愛知県農地林務部自然保護課（1989）愛知県野生鳥類生息調査報告書. 愛知県. 348pp.  
愛知県農地林務部自然保護課（1996）愛知の野鳥 1995. 愛知県. 295pp.  
愛知県野鳥保護連絡協議会（2007）愛知の野鳥 2006. 愛知県農地林務部自然保護課. 174pp.  
橋本啓史・大畑孝二・深見 弘・新妻靖章・手嶋洋子・先崎啓究・阿部晃久（2009）矢作川河畔林整備基礎調査－鳥類調査報告－矢作川上中流域の鳥類相とその季節変化－. 矢作川研究, 13: 91-102.  
稲武町教育委員会（1997）稲武町史: 491-507., 523-524., 資料編 366-376.  
環境省（2015）レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 2 鳥類. ぎょうせい. 250pp.  
清棲幸保（1998）野鳥の事典. 東京堂出版. 413pp.  
間野隆裕・高木 久（2007）豊田市中心市街地の鳥類生息調査報告. 矢作川研究, 11: 13-20.  
真野 徹（1997）稲武町面ノ木峠（愛知県の矢作川源流域）における鳥類相. 矢作川研究, 1: 131-166.  
真野 徹（2002）豊田市東部丘陵地における鳥類相. 矢作川研究, 6: 39-55.  
真野 徹・横山則一（1999）第2回矢作川中流域の鳥類基礎調査報告. 矢作川研究, 3: 157-201.  
真野 徹・横山則一（2000）第3回矢作川中流域の鳥類基礎調査報告. 矢作川研究, 4: 61-99.  
真野 徹・横山則一（2001）第4回矢作川中流域の鳥類基礎調査報告. 矢作川研究, 5: 109-165.  
真野 徹・横山則一（2002）矢作川中流域の鳥類相. 矢作川研究, 6: 57-80.  
真野 徹・横山則一・畑佐武司（1998）第1回矢作川中流域の鳥類基礎調査報告. 矢作川研究, 2: 129-189.  
日本鳥類保護連盟（1996）鳥 630 図鑑. 日本鳥類保護連盟. 394pp.  
日本鳥類学会（2000）日本鳥類目録改訂第6版 2000. 日本鳥類学会. 345pp.  
日本鳥類学会（2012）日本鳥類目録改訂第7版 2012. 日本鳥類学会. 438pp.  
日本野鳥の会（2007）フィールドガイド日本の野鳥増補改訂版. 日本野鳥の会. 374pp.  
日本野鳥の会（2013）野鳥観察ハンディ図鑑新水辺の鳥改訂版. 日本野鳥の会. 64pp.  
日本野鳥の会（2013）野鳥観察ハンディ図鑑新山野の鳥改訂版. 日本野鳥の会. 64pp.  
西三河野鳥の会（1974～2015）会報「けり」通巻1号～496号. 西三河野鳥の会.  
西三河野鳥の会（1984）探鳥ガイド西三河. 西三河野鳥の会.  
西三河野鳥の会（1998～2014）西三河野鳥の会研究年報 VOL. 1～17. 西三河野鳥の会.  
西三河野鳥の会（2014）西三河鳥類目録. 西三河野鳥の会.  
大畑孝二（2009）矢作川上中流域におけるオシドリの個体数. 矢作川研究, 13: 103-104.  
豊橋市保健環境部環境対策課（1999）豊橋市自然環境基礎調査報告書: 巻頭 15-16., 353-403., 資

料編 155-161.

トヨタ自動車株式会社（2012）新研究開発施設の事業概要と環境保全の取り組み．トヨタ自動車株式会社．21pp.

豊田市（1992）豊田市動物モニタリング調査．豊田市．178pp.

豊田市環境部環境政策課（2014）豊田市の生物多様性に関わる行動目標．豊田市．35pp.

豊田市自然環境基礎調査会（2005）豊田市自然環境基礎調査報告書：26-28.，393-439.，資料編：395-400. 豊田市.

豊田市環境政策課（2014）平成26年度版環境報告書．豊田市．152pp.

豊田市自然愛護協会緊急保護野生動植物調査委員会（1994）緊急保護野生動植物調査報告書．豊田市．95pp.

豊田野鳥友の会（1976）豊田の野鳥．豊田市．141pp.

豊田野鳥友の会（1986）豊田の野鳥 II．豊田市．68pp.

豊田野鳥友の会（1995）豊田の野鳥．豊田市．78pp.

## 8 鳥類索引

### 【あ行】

愛知県レッドデータブック 2009 指定種 263  
愛知県鳥類目録 231, 260, 262  
アオシギ 252, 265, 267, 270, 303  
アオバズク 245, 257, 265, 267, 270, 294  
アカゲラ 257, 268, 270, 308  
アカショウビン  
246, 249, 251, 252, 255, 265, 267, 270, 281  
アカハラ 265, 268, 270, 315  
旭地区 231, 233, 254, 257, 258, 259  
足助地区 231, 233, 234, 251, 253, 255, 256, 259  
イカルチドリ 256, 257, 264, 267, 270, 290  
石野地区 231, 233, 251, 255, 259  
稲武地区 231, 233, 234, 258, 259  
オオアカゲラ  
234, 235, 265, 257, 258, 264, 267, 270, 283  
オオコノハズク 234, 235, 265, 268, 270, 307  
オオジシギ 235, 258, 264, 267, 270, 278  
オオタカ 254, 257, 265, 267, 270, 292  
オシドリ 245, 246, 249, 250, 251, 252, 253, 254,  
255, 257, 258, 267, 270, 298  
小原地区 231, 233, 253, 254, 255, 259

### 【か行】

カイツブリ 246, 249, 261, 268, 270, 317  
ガビチョウ 255, 258, 270, 328  
上郷地区 231, 233, 247, 248, 259  
カワアイサ  
245, 253, 254, 255, 256, 257, 264, 267, 270, 286  
カワガラス 249, 251, 252, 254, 255, 257, 258, 262,  
265, 268, 270, 313  
キバシリ 234, 258, 262, 264, 267, 270, 274  
クイナ 245, 261, 265, 267, 270, 287  
クサシギ 249, 256, 268, 270, 324  
クマタカ 234, 255, 257, 264, 267, 270, 271  
クロツグミ 249, 253, 254, 256, 257, 265, 268, 270, 314  
コアジサシ 247, 265, 267, 270, 304  
ゴイサギ 268, 270, 318  
コサギ 248, 256, 268, 270, 320  
コサメビタキ 247, 265, 268, 270, 316

コシアカツバメ 268, 270, 311  
コノハズク 264, 267, 270, 272  
コマドリ 257, 265, 267, 270, 295  
コルリ 234, 235, 254, 258, 265, 267, 270, 296  
拳母地区 231, 233, 245, 247, 248, 250, 259

### 【さ行】

ササゴイ 245, 268, 270, 319  
サシバ 246, 251, 252, 254, 265, 267, 270, 280  
猿投地区 231, 233, 249, 250, 253, 259  
サンコウチョウ  
249, 251, 252, 253, 254, 257, 265, 268, 270, 310  
サンショウクイ 252, 262, 265, 268, 270, 309  
下山地区 231, 233, 256, 259, 330  
ジュウイチ 234, 235, 264, 267, 270, 277  
ソウシチョウ 255, 258, 270, 329

### 【た行】

高岡地区 231, 233, 247, 248, 259  
高橋地区 231, 233, 245, 246, 251, 259  
タゲリ 247, 249, 268, 270, 322  
タシギ 249, 268, 270, 323  
タヒバリ 247, 249, 268, 270, 327  
タマシギ 245, 249, 261, 264, 267, 270, 291  
地区別確認鳥類リスト旧市域 237, 238, 239, 240  
地区別確認鳥類リスト新市域 241, 242, 243, 244  
チュウサギ 267, 270, 300  
チョウゲンボウ 268, 270, 325  
ツツドリ 252, 255, 257, 265, 267, 270, 301  
ツミ 265, 268, 270, 306  
トモエガモ 245, 246, 264, 267, 270, 285  
豊田市確認鳥類と愛知県との比較 261, 262  
豊田市鳥類の希少種の選定 267  
豊田市鳥類の渡りの区分 259  
豊田市鳥類目録 231, 235, 236, 260  
豊田市における鳥類の絶滅危惧種の現状 263  
豊田市における鳥類の希少種と外来種の状況 270

### 【は行】

ハチクマ 252, 254, 264, 267, 270, 279

ハヤブサ 257, 262, 264, 267, 270, 284  
バン 268, 270, 321  
ヒクイナ 245, 264, 267, 270, 288  
ビンズイ 246, 251, 268, 270, 326  
フクロウ 262, 265, 267, 270, 293  
藤岡地区 231, 233, 251, 253, 254, 255, 259  
ブッポウソウ 234, 235, 253, 262, 264, 267, 270, 273  
保見地区 231, 233, 250, 259

【ま行】

松平地区 231, 233, 252, 255, 259  
ミサゴ 262, 265, 267, 270, 305  
ミソサザイ 255, 262, 265, 268, 270, 312  
ミゾゴイ 234, 235, 246, 256, 264, 267, 270, 276

【や行】

ヤマシギ 257, 265, 267, 270, 302  
ヤマセミ  
246, 249, 251, 252, 253, 254, 257, 264, 267, 270, 282  
ヤマドリ 267, 270, 297  
ヨシガモ 249, 267, 270, 299  
ヨシゴイ 245, 247, 264, 267, 270, 275  
ヨタカ 253, 254, 256, 261, 264, 267, 270, 289

## 9 動物部会 鳥類 スタッフ

五十音順, 敬称略

### 調査員

板倉 正道 (豊田野鳥友の会)	清水 正義 (西三河野鳥の会)
梅村 昭雄 (豊田野鳥友の会)	高木 久 (豊田野鳥友の会)
梅村 恵子 (豊田野鳥友の会)	野田 信裕 (豊田野鳥友の会)
大原 満枝 (豊田野鳥友の会)	深見 弘 (豊田野鳥友の会)
加藤 正人 (豊田野鳥友の会)	前田 茂雄 (豊田野鳥友の会)
木村 修司 (豊田野鳥友の会)	八子 文子 (豊田野鳥友の会)
西郷 清 (豊田野鳥友の会)	吉田 正志 (豊田野鳥友の会)
澤田 喜代 (豊田野鳥友の会)	

### 調査協力者

神谷 五生 (豊田野鳥友の会)  
倉多 利通 (西三河野鳥の会)  
鈴木 彰 (豊田野鳥友の会)  
水野マリ子 (豊田野鳥友の会)

### 資料協力者

杉山 時雄 (西三河野鳥の会)  
清水 敏弘 (西三河野鳥の会)

### 写真提供者

鳥類 緒方 清人 (西三河野鳥の会)	ガビチョウ
加藤 正人 (豊田野鳥友の会)	オオルリ (猿投地区), ヤマセミ (旭地区), ゴジュウカラ (稲武地区)
杉浦 清丸 (岡崎野鳥の会)	ジュウイチ
高木 久 (豊田野鳥友の会)	コシアカツバメ
深津 基之 (豊田野鳥友の会)	全般
水野マリ子 (豊田野鳥友の会)	オオコノハズク, フクロウ, ヤマドリ, タマシギ, ビンズイ, サシバ (松平地区), キビタキ
環境 加藤 正人 (豊田野鳥友の会)	全般

※口絵写真の写真提供者 (撮影者) の氏名は当該頁に記載する

### 執筆者 \*印代表者

梅村 昭雄 (豊田野鳥友の会)  
\*加藤 正人 (豊田野鳥友の会)  
深見 弘 (豊田野鳥友の会)